# 松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅷ

平成７年度

1996

松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

# 松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅷ

平成７年度

1996

松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版Ⅰ　竪穴式石室（5世紀末　桧山峠7号墳）

巻頭図版２　横穴式石室（７世紀初頭　東野お茶屋台遺跡５次調査地）

巻頭図版 3　横穴式石室（古墳時代後期　大峰ケ台遺跡 9 次調査地）

巻頭図版 4　竪穴式住居址と掘立柱建物址（古墳時代後期　来住町遺跡 7 次調査地）

巻頭図版 5　貯蔵穴（弥生時代末　釜ノ口遺跡 8 次調査地）

# 序

松山市には数多くの貴重な文化遺産が残っています。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは年々増加する開発事業によって失われる遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は平成７年度に埋蔵文化財センターが主体となり、松山市域において、民間開発や公共事業を対象として実施した埋蔵文化財の発掘調査の概要報告と、松山市考古館が同年度に行った展示会やシンポジウムなどの教育普及活動の概要をまとめた年次報告書です。

本年度も、古くは弥生時代前期から新しくは中近世に至る数多くの遺構や遺物を発見しています。特に、釜ノ口遺跡８次調査地では、焼失住居の検出や住居の柱材が柱穴内から良好な状態で出土するなど、弥生時代後期の集落形態や住居構造の解明に貴重な資料を得ています。また、桧山峠７号墳では５世紀末に比定される竪穴式石室が検出され、松山平野における横穴式石室導入時期の解明に貴重な手がかりを得ることができました。さらに、東野お茶屋台遺跡５次調査地では、江戸時代の堤や排水施設がみつかったほか、重複する３基の石室が検出され、７世紀初頭の石室構造の解明に多大の成果をあげています。

このような貴重な資料が得られましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも、なお一層のご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただければ幸いです。

平成８年９月30日

財団法人　松山市生涯学習振興財団

理事長　　田　中　誠　一

# 例　言

1．本書は、財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センターが、平成７年４月１日から平成８年３月31日までに実施した発掘調査の概要を収録し、また松山市考古館事業を含めた啓蒙普及事業等をまとめた年次報告書である。

2．確認調査及び本格調査については、本書末尾の一覧表・付図にまとめた。

3．写真は、遺物写真及び一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他の写真は各調査員が撮影した。

4．各調査の報告は、調査担当者が執筆することを原則とした。なお、編集及び調整は田城武志・宮内慎一が行った。

5．遺構のうち表示記号で示したものは、以下のとおりである。
ＳＡ：柵例、　ＳＢ：竪穴式住居址、　掘立：掘立柱建物址、　ＳＤ：溝、　ＳＫ：土坑、
ＳＥ：井戸、　ＳＲ：自然流路、　ＳＰ：柱穴、ＳＸ：その他の遺構

6．調査・刊行組織は次のとおりである。

調査・刊行主体〔平成８年11月１日現在〕

| | | |
|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | 池田　尚郷 |
| 生涯教育部 | 部長 | 三好　俊彦 |
| | 次長 | 丹下　正勝 |
| 文化教育課 | 課長 | 松平　泰定 |
| (財)松山市生涯学習振興財団 | 理事長 | 田中　誠一 |
| | 事務局長 | 池田　秀雄 |
| | 事務局次長 | 丹下　正勝 |
| 埋蔵文化財センター | 所長 | 河口　雄三 |
| | 次長 | 田所　延行 |
| | 調査係長 | 田城　武志 |
| | 調査主事 | 栗田　正芳（文化教育課職員） |
| | 調査員 | 栗田　茂敏、梅木　謙一、宮内　慎一、高尾　和長、相原　浩二、山本　健一、橋本　雄一、河野　史知、相原　秀仁、山之内志郎、加島　次郎、水本　完児、小笠原善治、大森　一成、大西　朋子、小玉亜紀子 |
| 松山市考古館 | 館長 | 岡崎　邦夫 |
| | 学芸係長 | 徳永　幸紀 |
| | 学芸員 | 武正　良浩 |

7．整理作業の協力者は、次のとおりである。

池田学・友近志郎・山邊進也・志賀夏行・波多野恭久・宮脇和人・田丸竜馬・篠崎正記・八木幸徳・眞木潔・白石公信・酒井直哉・岩岡慎一・藤本数夫・広沢忠・坪内寛美・武田俊昭・後藤克也・栗林和孝・保島秀幸・本多好則・岡崎壮一・山村芳喜・安永由浩・野田昌弘・神直哉・小野敬通・川上貴之・広瀬貴・三宅康孝・大谷雅之・黒木修二・金浦克俊・松尾潔・黒田竜弥・勝本将基・川野裕史・水口あをい・加島なおみ・丹生谷道代・新出寿美子・渡部英子・徳田弘子・西川千秋・青野茂子・松本美代子・水口美津子・岡本邦栄・金子育代・岡市美紀・喜安咲江・仙波千秋・仙波ミリ子・髙尾久子・東山里美・松下郁子・石丸由利子・小田裕美・定成登志子・矢野瑞枝・武市まゆみ・関正子・荻野ちよみ・吉井信枝・矢野久子・多知川冨美子・山本早苗・猪野美喜子・乗松和枝・眞木雅子・白石あさか・村上真由美・岩本美保・木下奈緒美・森田利恵・松本美知子・越智令子・田﨑真理・中村紫・宮内真弓・古角優子・山下満佐子・平岡直美・村上規子・渡部明日香・伊藤みわこ・竹内真琴・中平久美子・長岡千尋・渡辺いずみ・山下純代・福島利恵・豊田直美

8．ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次のとおりである。（敬称略）

上原真人（京都大学）／沢田正昭（奈良国立文化財研究所）／山中敏史（奈良国立文化財研究所）／猪熊兼勝（奈良国立文化財研究所）／松本修自（東京国立文化財研究所）／阿部義平（国立歴史民族博物館教授）／岡村道雄（文化庁記念物課）／下條信行（愛媛大学教授）／松原弘宣（愛媛大学教授）／田﨑博之（愛媛大学助教授）／村上恭通（愛媛大学助教授）ほか

9．ご指導・ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。

奈良国立文化財研究所／（株）古環境研究所／（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター ほか

# 本　文　目　次

平成７年度　松山市埋蔵文化財調査概要

太山寺経田遺跡３次調査地 …… 2
谷町遺跡 …… 6
瀬戸風峠遺跡（Ｂ・Ｃ区） …… 10
大峰ケ台遺跡９次調査地（４区） …… 12
古照ゴウラ遺跡５次調査地 …… 18
溝辺２号墳 …… 24
東野お茶屋台遺跡５次調査地 …… 28
樽味高木遺跡４次調査地 …… 36
桑原田中遺跡３次調査地 …… 40
釜ノ口遺跡８次調査地 …… 44
石井幼稚園遺跡２次調査地 …… 48
北久米浄蓮寺遺跡５次調査地 …… 52
乃万の裏遺跡２次調査地 …… 56
久米高畑遺跡24次調査地 …… 62
久米高畑遺跡25次調査地 …… 68
来住町遺跡６次調査地 …… 72
来住町遺跡７次調査地 …… 76
下苅屋遺跡 …… 82
桧山峠７号墳 …… 86

松山市埋蔵文化財調査関係資料

平成７年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧 …… 92
平成７年度　松山市埋蔵文化財本格調査一覧 …… 102

自然科学分析報告 …… 107

保存処理事業 …… 115

平成７年度　啓蒙普及事業 …… 117

1. 展示活動　2. 教育普及活動　3. 広報・出版活動　4. 収集・保管活動　5. 施設の利用
6. 職員研修・会議　7. 資料の貸出

# 挿図・写真目次


巻頭図版１　竪穴式石室（５世紀末　桧山峠７号墳）
巻頭図版２　横穴式石室（７世紀初頭　東野お茶屋台遺跡５次調査地）
巻頭図版３　横穴式石室（古墳時代後期　大峰ケ台遺跡９次調査地）
巻頭図版４　竪穴式住居址と掘立柱建物址（古墳時代後期　来住町遺跡７次調査地）
巻頭図版５　貯蔵穴（弥生時代末　釜ノ口遺跡８次調査地）

太山寺経田遺跡３次調査地 …… 2
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　調査地･トレンチ位置図（縮尺1:1,000）
図３　Ｂ区測量図（縮尺1：80）
写真１　Ａ区完掘状況遠景（北より）
写真２　Ｂ区完掘状況（西より）

谷町遺跡 …… 6
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：40）
図３　ＳＢ１測量図（縮尺1：40）
写真１　完掘状況（北西より）
写真２　ＳＢ１（北より）

瀬戸風峠遺跡（Ｂ・Ｃ区） …… 10
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
写真１　Ｃ区１号石棺〔手前〕と２号石棺（南より）
写真２　Ｂ区瀬戸風峠１号墳墓道検出状況（西より）

大峰ケ台遺跡９次調査地（４区） …… 12
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　調査地測量図（縮尺1：2,000）
図３　大池東３号墳ＳＫ１出土遺物実測図（縮尺1：３）
写真１　調査地全景（北東より）
写真２　大池東３号墳・４号墳（東より）
写真３　大池東２号墳（南西より）
写真４　大池東２号墳敷石検出状況（南西より）

古照ゴウラ遺跡５次調査地 …… 18
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　基本層位図（縮尺1：20）
図３　遺構配置図（縮尺1：600）
図４　出土遺物実測図（縮尺1：3）
写真１　Ａ区完掘状況（南より）
写真２　Ａ区ＳＫ２遺物出土状況（東より）
写真３　Ａ区ＳＫ１人骨・木棺出土状況（南西より）
写真４　Ａ区ＳＥ２井戸枠出土状況（西より）
写真５　Ｂ区ＳＫ３遺物出土状況（北より）
写真６　Ｃ区１号塚五輪塔出土状況（西より）

溝辺２号墳 …… 24
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　トレンチ測量図（縮尺1：400）
図３　２号墳石室平面図（縮尺1：30）
図４　２号墳出土遺物実測図（縮尺1：３）
写真１　調査地全景（北より）
写真２　２号墳石室内遺物出土状況（東より）

東野お茶屋台遺跡５次調査地 …… 28
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　調査地測量図（縮尺1：600）
図３　11号墳石室平面図（縮尺1：40、1：8）
写真１　排水路001完掘状況（東より）
写真２　調査地全景（西より）
写真３　11号墳と江戸時代の遺構（北北西より）
写真４　11号墳第１石室床面検出状況（南より）
写真５　石室の重複状況（南より）
写真６　第1石室階段状石積みと第2石室墓道(南より)
写真７　第３石室と第１・第２石室（北より）

樽味高木遺跡４次調査地 …… 36
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：160）
図３　出土遺物実測図（縮尺1：4、1：3）
写真１　ＳＲ１礫出土状況（北東より）
写真２　第２面遺構完掘状況（北東より）

桑原田中遺跡３次調査地 …… 40
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　基本層位図（縮尺1：40）
図３　遺構配置図（縮尺1：150）
写真１　完掘状況（北より）
写真２　調査区南側完掘状況（北より）
写真３　掘立１（西より）

釜ノ口遺跡８次調査地 …… 44
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：300）
図３　ＳＢ２測量図（縮尺1：80）
写真１　ＳＢ２貼り床検出状況（北より）
写真２　ＳＢ３貼り床検出状況（北より）

石井幼稚園遺跡２次調査地 …… 48
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：100）
図３　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図（縮尺1：20、1：4）
写真１　完掘状況（北より）
写真２　ＳＫ２遺物出土状況（南より）

北久米浄蓮寺遺跡５次調査地 …… 52
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
写真１　遺構検出状況（南東より）

図２　遺構配置図（縮尺1：120）
写真２　遺構完掘状況（東より）
写真３　ＳＢ１完掘状況（北より）
写真４　掘立２～４完掘状況（北より）

乃万の裏遺跡２次調査地 …… 56
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　基本層位図
図３　遺構の変遷図（縮尺1：320）
図４　ＳＸ５出土遺物実測図（縮尺1：４）
写真１　ＳＸ５遺物出土状況遠景（東より）
写真２　ＳＸ５遺物出土状況近景（北西より）
写真３　ＳＤ10検出状況（南より）
写真４　調査地全景（南西より）

久米高畑遺跡24次調査地 …… 62
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　調査区位置図（縮尺1：1,500）
図３　ＳＫ015測量図（縮尺1：40）
図４　遺構配置図（縮尺1：200）
写真１　調査地全景（北東より）
写真２　ＳＫ006・ＳＫ011土層堆積状況(南南東より)
写真３　土坑群完掘状況（南東より）

久米高畑遺跡25次調査地 …… 68
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：200）
図３　ＳＤ１測量図（縮尺1：100）
写真１　遺構検出状況（東より）

来住町遺跡６次調査地 …… 72
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：100）
図３　ＳＸ１測量図（縮尺1：40）
図４　ＳＸ１出土遺物実測図（縮尺1:2、1:3）
写真１　完掘状況①（北西より）
写真２　完掘状況②（南東より）

来住町遺跡７次調査地 …… 76
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：100）
図３　出土遺物実測図（縮尺1：３）
写真１　１区遺構検出状況（南東より）
写真２　ＳＢ004完掘状況（南東より）
写真３　２区完掘状況（南東より）
写真４　２区西部ＳＤ017工具痕跡（南西より）

下苅屋遺跡 …… 82
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺1：200）
図３　ＳＢ２測量図（縮尺1：100）
図４　ＳＢ５測量図（縮尺1：100）

図５　ＳＸ１遺物出土状況図（縮尺1：40）
図６　出土遺物実測図（縮尺1：2）

桧山峠７号墳 …… 86
図１　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図２　墳丘測量図（縮尺1：200）
図３　石室実測図（縮尺1：30）
写真１　墳丘完掘状況（北西より）
写真２　石室完掘状況（南より）
写真３　石室遺物出土状況（南より）

自然科学分析報告 …… 107
図１　辻町遺跡２次調査地の植物珪酸体分析結果
図２　植物珪酸体の顕微鏡写真（1）
図３　植物珪酸体の顕微鏡写真（2）
図４　辻町遺跡２次調査地出土種実

保存処理事業 …… 115
写真１　遺物の取り上げ状況（釜ノ口遺跡８次調査地）

啓蒙普及事業 …… 117
写真１　特別展「瀬戸内の初期農耕」
写真２　特別展記念シンポジウム
写真３　釜ノ口遺跡８次調査地現地説明会
写真４　特別展「瀬戸内の初期農耕」ポスター
写真５　松山市横谷古墳より出土の考古資料

平成７年度

# 松山市埋蔵文化財調査概要

タイ サン ジ キョウデン
# 太山寺経田遺跡３次調査地

所在地　松山市太山寺町乙694-2 外
期　間　平成７年６月１日～
　　同年８月31日
面　積　2,500㎡
担　当　山本健一・武正良浩

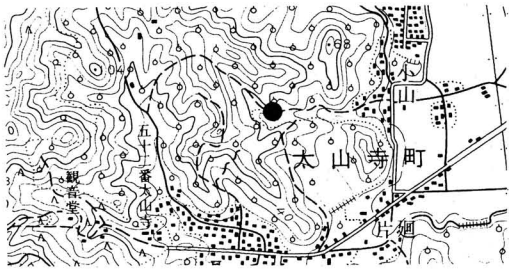


図１　調査地位置図

**経過**　本調査は「No.10 片廻遺跡（弥生時代）太山寺古墳群　片廻古墳群　素鵞神社」内における松山市農林土木課による農道新設工事に伴う事前調査である。平成７年４月４日～同年５月31日にかけて試掘調査を実施し、土坑状遺構１基、弥生土器、須恵器、石鏃等、弥生時代から近現代にかけての遺構及び遺物を確認した。そのため、当該地における遺跡の取扱について文化教育課と農林土木課（及び地権者）は協議を行い、開発工事によって失われる遺跡について、記録保存のために発掘調査を実施することとなった。

調査地は、松山平野北西部、太山寺丘陵の東側、標高44ｍ～57ｍの緩斜面上に立地する。太山寺丘陵上には、高月山古墳群、勝岡古墳群、太山寺古墳群、鶴ケ峠古墳群、船ケ谷古墳群、北山古墳群、東山町古墳群等の古墳群が所在している。これらのうち高月山古墳、船ケ谷向山古墳、船ケ谷三ツ石山古墳、鶴ケ峠古墳では発掘調査が実施され、前期～後期の古墳が継続経営されていることが分かっている。今回の調査では周囲のデータを踏まえ、太山寺経田遺跡１次、２次調査によって住居址、土坑、溝、集石遺構等が確認されていることより、集落関連遺構の広がりと古墳の確認を主目的として調査を行った。

**遺構・遺物**　試掘調査の結果よりＡ区、Ｂ区の２地点において本格調査を実施した。

Ａ区は、調査地南東部の尾根筋の緩斜面に位置する。層位は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層淡黄灰色砂質土、第Ⅲ層茶褐色土、第Ⅳ層茶褐色砂質土、第Ⅴ層黄橙色砂質土～茶褐色砂粒岩盤（地山）である。検出した遺構は溝と土坑である。ＳＤ３は幅50～85㎝で検出長は13.2ｍである。溝の中央に人頭大の礫石が配列されていた。また、不整楕円形の焼失土坑を１基検出した（時期不明）。

Ｂ区は、調査地西部の東方向へ開口する谷間部に位置する。層位は第Ⅰ層明灰黄色砂質土、第Ⅱ層淡黄灰色砂質土、第Ⅲ層淡黄茶色土、第Ⅳ層暗灰褐色砂質土、第Ⅴ層黒褐色粘質土、第Ⅵ層淡黄灰褐色土、第Ⅶ層灰色砂質土、第Ⅷ層灰色粘土、第Ⅸ層茶褐色粘質土である。調査の結果、三層の遺物包含層を検出した。第Ⅳ・Ⅴ層は弥生土器、土師器、須恵器を包含している。第Ⅵ層から石斧１点が出土した。遺構は第Ⅵ層上面にて溝４条、性格不明遺構２基を検出した。

**小結**　本調査において弥生時代から近現代に至る遺構・遺物を検出した。中でも興味深いのは、Ｂ区の遺物包含層である。堆積層も安定し分層できたことは、今後周辺の発掘調査をおこなううえでの好資料となるものである。　（山本）

太山寺経田遺跡３次調査地

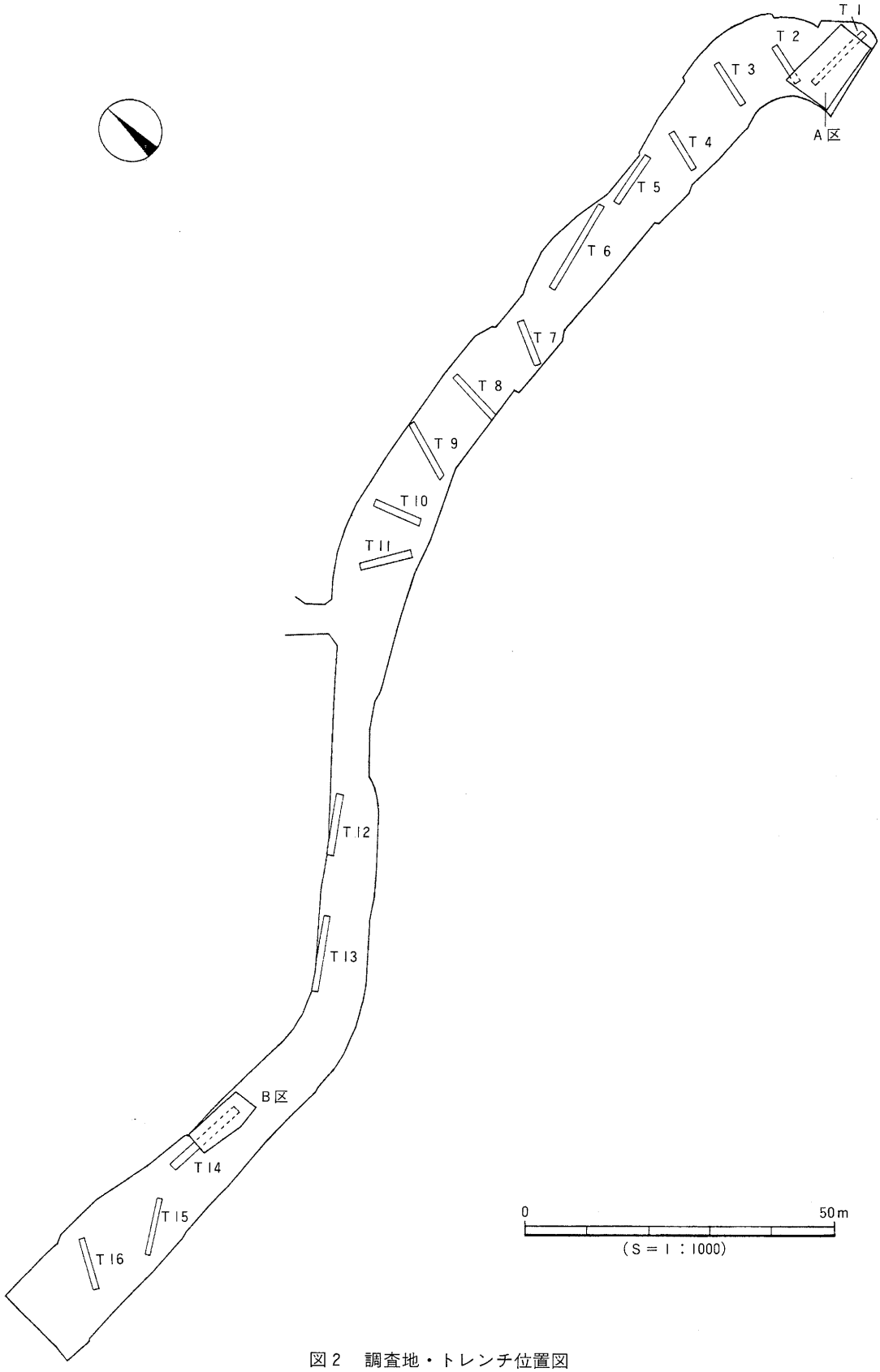



図２　調査地・トレンチ位置図

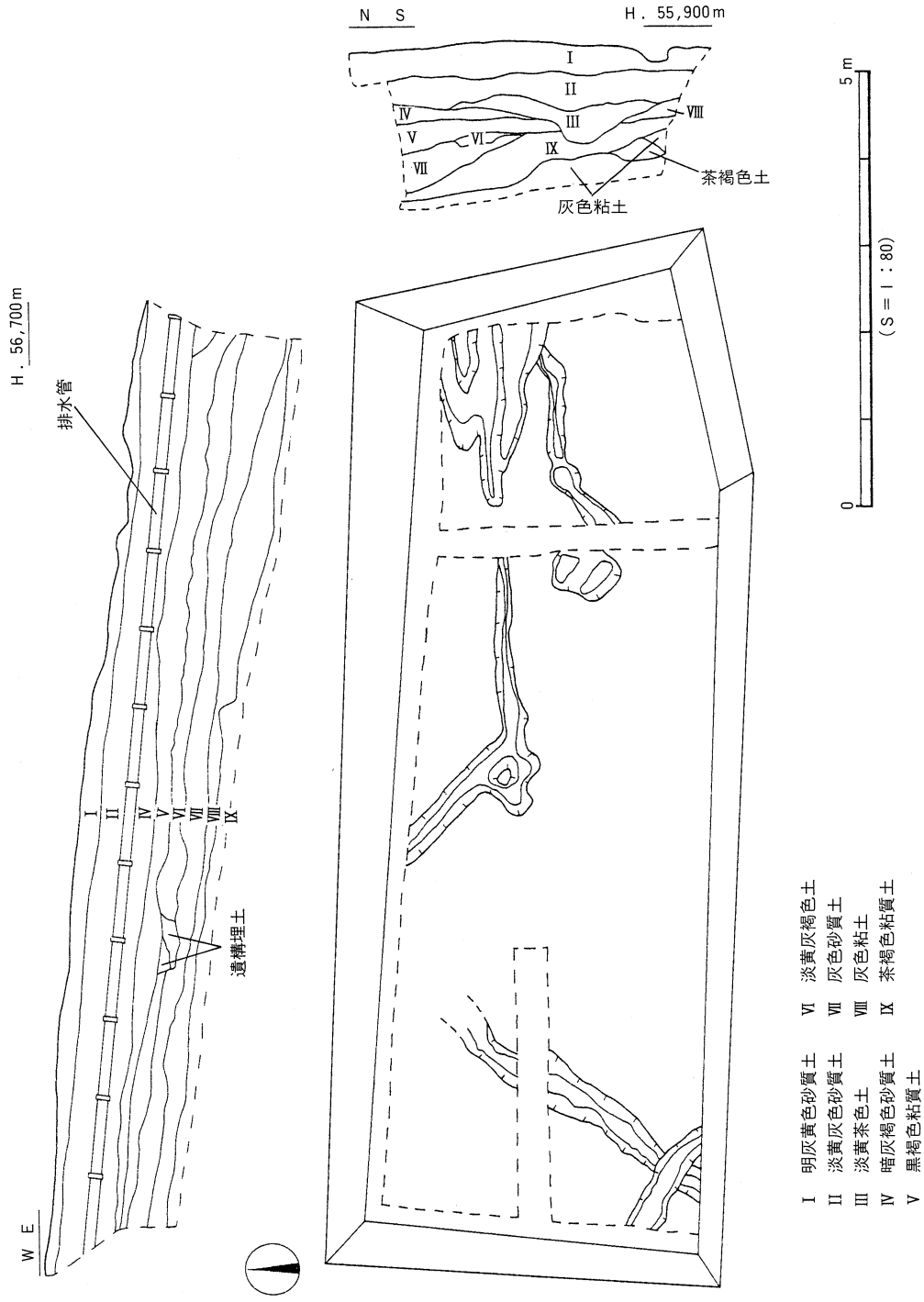

N S
H．55,900m
I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX
茶褐色土
灰色粘土
H．56,700m
排水管
遺構埋土
W E
0
5m
(S＝1：80)
I 明灰黄色砂質土
II 淡黄灰色砂質土
III 淡黄茶色土
IV 暗灰褐色砂質土
V 黒褐色粘質土
VI 淡黄灰褐色土
VII 灰色砂質土
VIII 灰色粘土
IX 茶褐色粘質土

図３　Ｂ区測量図

写真１　Ａ区完掘状況遠景（北より）

写真２　Ｂ区完掘状況（西より）

# 谷町遺跡（タニマチ）

所在地　松山市谷町371
期　間　平成７年９月１日～
　　同年10月26日
面　積　701㎡
担　当　山本健一・武正良浩

図１　調査地位置図

**経過**　本調査は「No.41 潮見古墳群・遺物包含地」内における宅地造成に伴う事前調査である。平成７年３月に試掘調査を実施し、竪穴状遺構、溝状遺構、弥生土器、土師器、須恵器等、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物及び包含層を確認した。そのため当該地における遺跡の取り扱いについて文化教育課と地権者は協議を行い、宅地開発によって失われる遺構について、記録保存のために発掘調査を実施することとなった。

調査地は、堀江地溝帯南東辺部の標高16ｍ、松山平野北東部にそびえる高縄山系分岐丘陵の南裾部に立地する。周辺の遺跡には、当調査地を含む丘陵裾部では金毘羅山遺跡、座拝坂遺跡、潮見遺跡が、堀江地溝帯西辺部では大渕遺跡、三光遺跡、船ケ谷遺跡等がある。今回の調査地の約70ｍ南東の座拝坂遺跡では弥生時代から古代の集落の存在が確認されており、今回もこれら遺構の確認を主目的として調査を行った。

**遺構・遺物**　今回の調査によって確認された遺構は、弥生時代～中世を含め、竪穴式住居址１棟、溝状遺構３条、土坑２基、柱穴13基を検出し、遺物は弥生土器、須恵器、土師器、瓦器の他に鉄製品、石製品などが出土している。

弥生時代の遺構としては竪穴式住居址（ＳＢ１）がある。調査区東半分で検出された。調査区の南東隅で周壁の一部分を検出したが、全容及び平面形態は不明である。検出された規模は東西4.5ｍ、南北3.4ｍ、壁高は44㎝を測る。住居址内からは内部施設として主柱穴２基、周壁溝、ベット状の高床部、貯蔵穴２基、土坑２基を検出した。遺物は弥生土器の甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器の他に石器１点が出土した。

古墳時代の遺構は溝（ＳＤ１）がある。調査区西部で検出した。調査地地山面（第Ⅵ層上面）の等高線とほぼ平行する南北溝である。検出長2.8ｍ、幅1.1ｍ、深さ19㎝を測る。埋土は黒灰色土である。遺物は須恵器の他に弥生土器、礫石が散在して出土した。溝の性格については解明できなかった。

**小結**　今回の調査は調査地が狭小であったため課題を残すものであったが、弥生時代から中世までの遺構と遺物を確認することができた。弥生時代については、弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての境目に位置する時期の竪穴式住居址が確認された事から、当時代の集落の存在が明らかとなった。古墳時代から中世については遺構・遺物が確認されてはいるが、その性格は不明であり、解明については今後の周辺地での発掘調査の資料の増加とともに検討をしてゆきたい。　（山本）

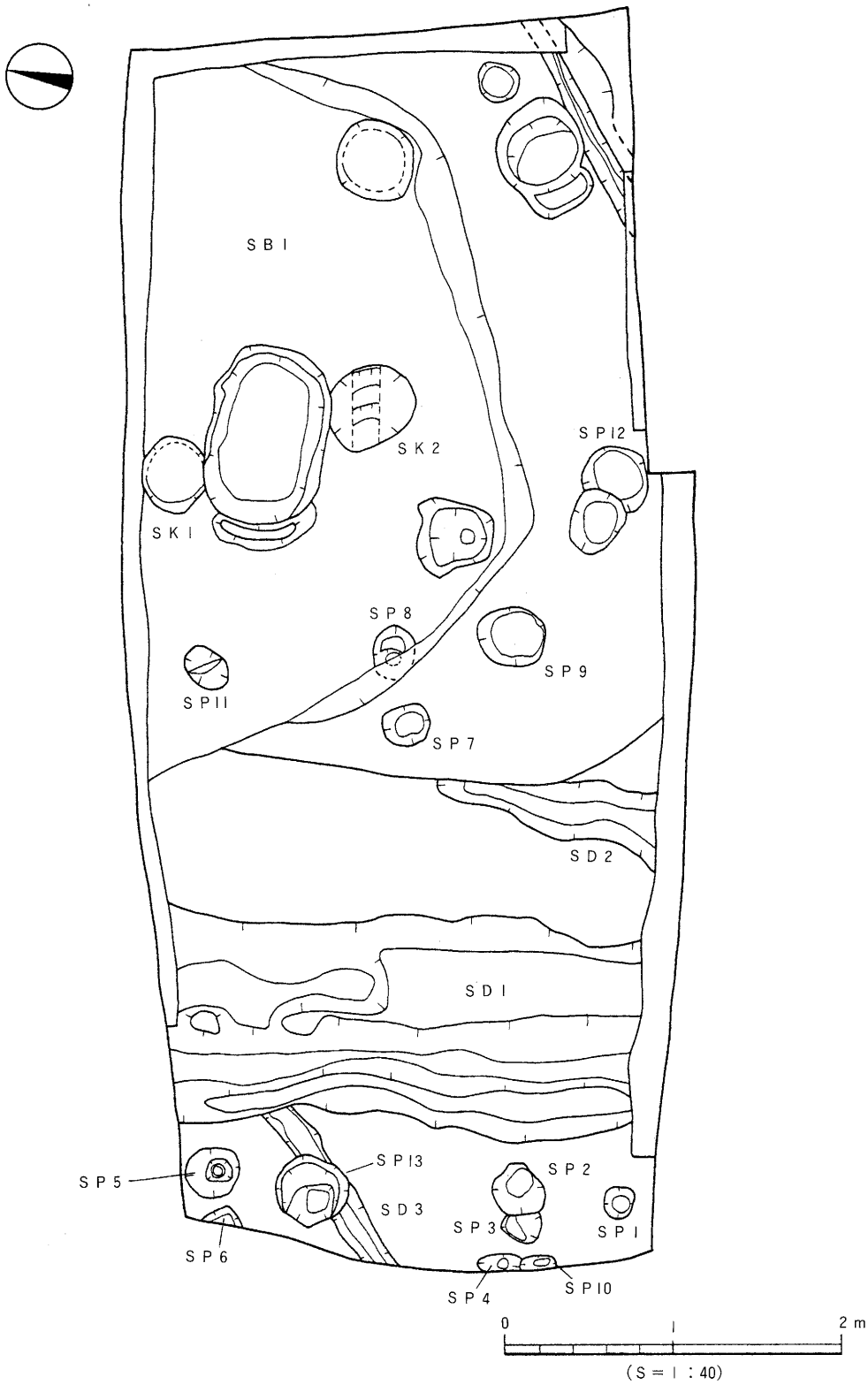
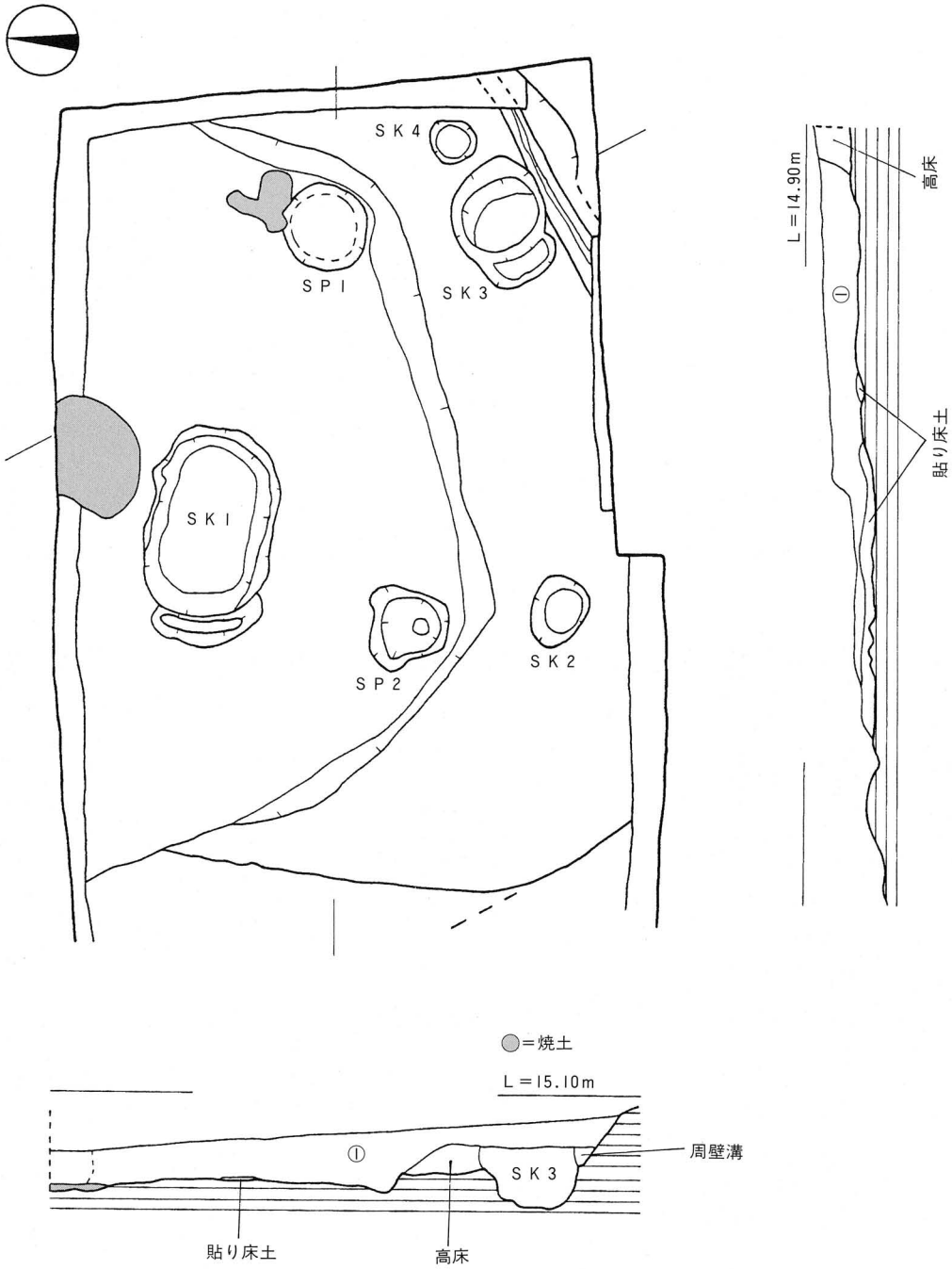

SB1
SK2
SK1
SP12
SP8
SP9
SP11
SP7
SD2
SD1
SP5
SP13
SP2
SD3
SP3
SP1
SP6
SP4
SP10
0
1
2 m
(S＝1：40)

図2　遺構配置図




①黒灰褐色土（黄色土の粒状混り）

0　1　2 m
（S＝1：40）

図3　SB1測量図

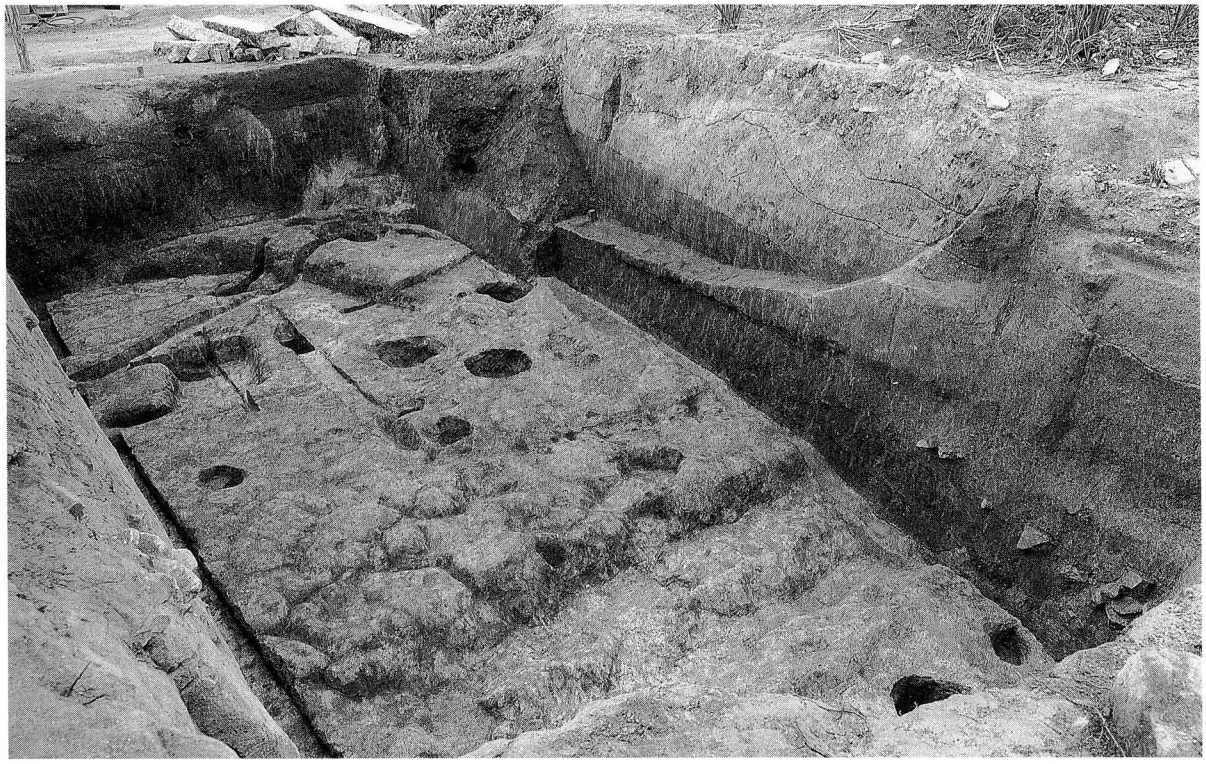


写真１　完掘状況（北西より）

写真２　ＳＢ１（北より）

# 瀬戸風峠遺跡（B・C区）

セ　ト　カゼトウゲ

所在地　松山市下伊台町乙188-1外106筆
期　間　平成７年４月５日～
　　平成９年９月30日（予定）
面　積　257,349㎡
担　当　相原浩二・大森一成

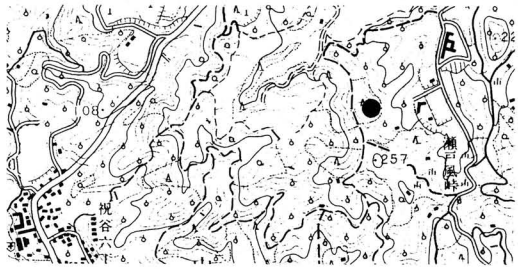



図１　調査地位置図

**経過**　瀬戸風峠遺跡は下伊台町の南西丘陵部、瀬戸風峠の北西丘陵部に所在する。本調査は松山市の指定する包蔵地の「№52 瀬戸風峠古墳群」内における宅地開発に伴う事前緊急調査である。

調査対象面積が広大なため丘陵部全体の遺跡の有無について、平成６年４月から翌年の３月にかけて、丘陵支群ごとにＡ区～Ｆ区までの６区画に区分し、確認調査を行った。その結果、Ａ区では遺構・遺物は検出されなかったが、Ｂ区で古墳２基（うち丘陵頂部にある古墳については、愛媛県教育委員会が行った古墳分布調査において瀬戸風峠１号墳として紹介されており、周知の古墳である。）、箱式石棺２基（うち１基については調査により石蓋土壙墓であった。）、Ｃ区で箱式石棺２基、Ｄ区、Ｅ区、Ｆ区でそれぞれ古墳を１基ずつ確認したことから、それらの遺構と周辺部について調査を行うこととなった。尚、現在調査はＣ区の箱式石棺２基（１号石棺、２号石棺）の調査を終え、Ｂ区、Ｄ区の調査途中である。

**遺構・遺物**　Ｃ区の１号、２号石棺はＢ区から北東へのびる丘陵尾根上で検出された。両者とも尾根筋に直交するように造営され、墓壙の掘り方には余裕はなく、石材には同丘陵中に普通にみられる花崗岩が使用されている。１号石棺は主軸方位をＥ－20°－Ｓにとり、天井石３枚が残存するが安定した状態ではなかった。棺内長1.70ｍ、棺内幅0.25ｍ～0.40ｍで西側が狭くなる。遺物は出土していない。２号石棺の主軸方位はＥ－14°－Ｓにとり、天井石と西側の側石は削平されている。棺内長は現存で1.40ｍ、棺内幅は0.40ｍを測る。棺内には人骨が遺存しており、頭骨を東にして脊椎、大腿骨の一部を検出しているが副葬品は見られない。１号、２号石棺とも時期決定に有効な遺物が検出されず時期不明の石棺である。

次に、Ｂ区にある調査中の瀬戸風峠１号墳について若干ふれておく。標高254ｍにあるこの古墳から望む景色は絶景で松山平野はもとより瀬戸内海の島々を一望のもとに見渡せる。主体部は天井石が残っており、盗掘により奥壁と側壁の一部が落下しているものの、比較的遺存状態の良好な横穴式石室である。石室内には流入土砂が堆積しているものの、現況で石室の高さ2.0ｍ、室長約4.0ｍ、幅2.2ｍを測る。現在は墓道の調査を終え、遺存する閉塞石の一部を取り除き、石室内に流れ込んだ土砂の除去を行っているが、遺物は出土していない。

**小結**　瀬戸風峠遺跡は現在も調査途中のため、今回は平成７年度の調査状況を簡単に報告するものである。８年度調査予定のＢ区、Ｄ区、Ｆ区の調査については次回の年報にて報告するものとする。

（相原）

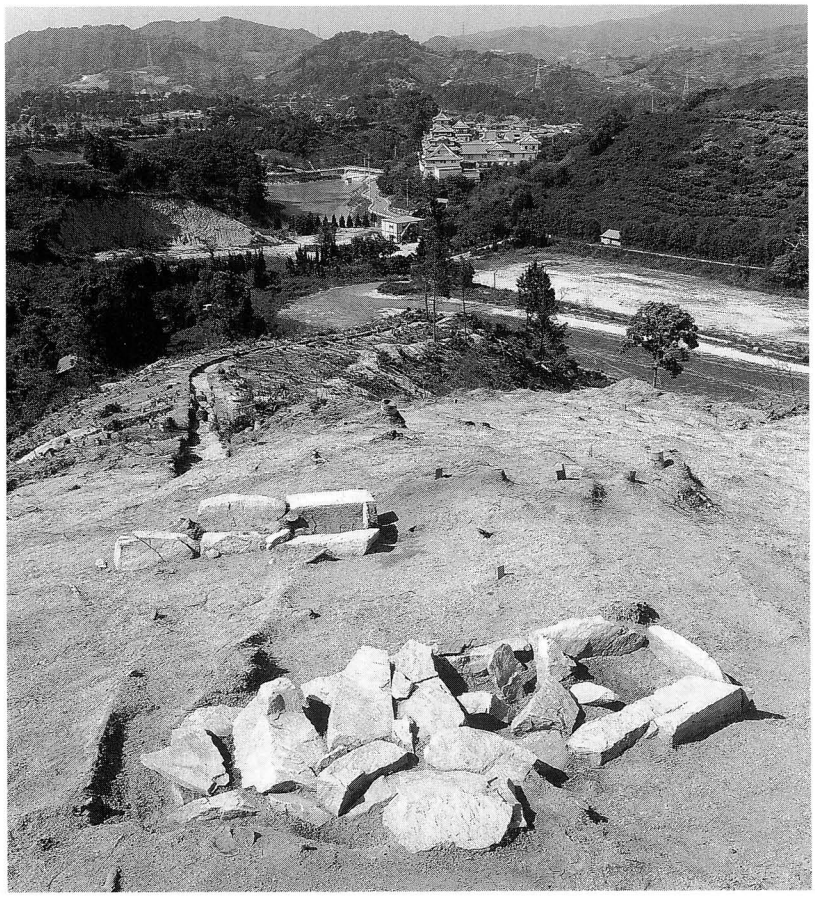


写真１　Ｃ区１号石棺〔手前〕と２号石棺（南より）

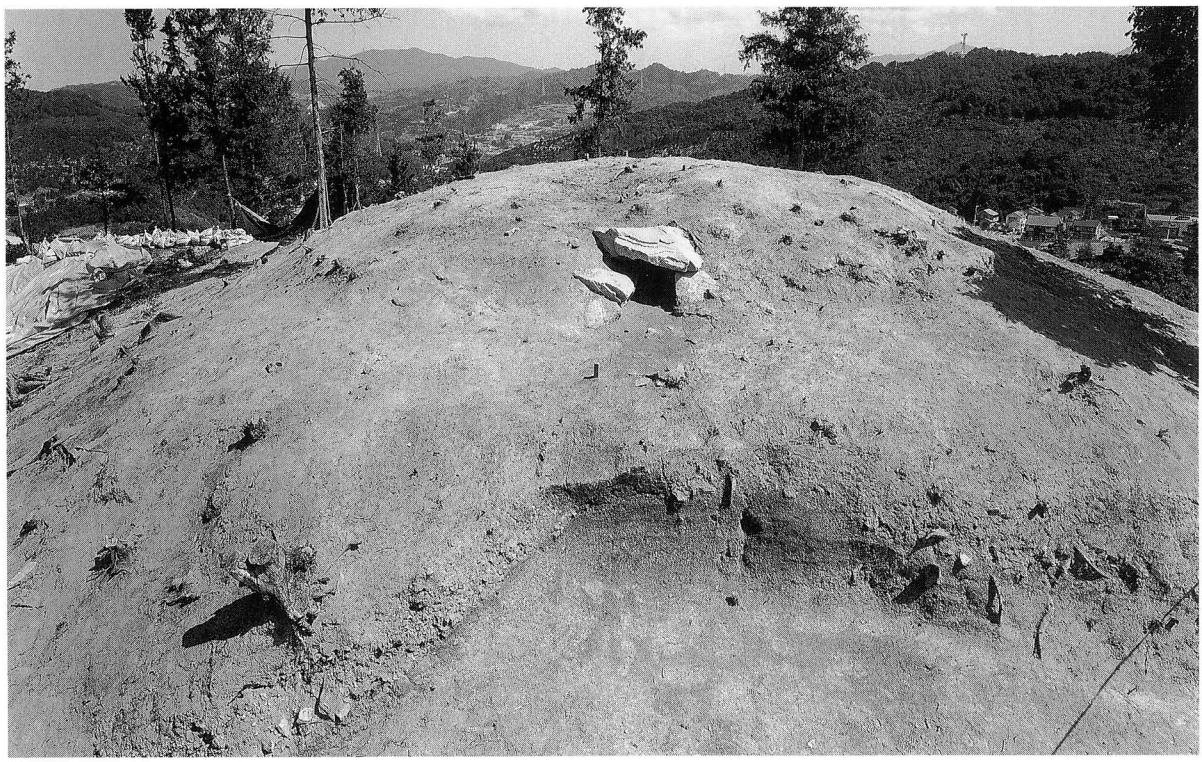


写真２　Ｂ区瀬戸風峠１号墳墓道検出状況（西より）

# 大峰ケ台遺跡９次調査地（４区）

所在地　松山市南江戸５丁目・６丁目
期　間　平成７年４月１日～
　　平成８年３月31日
面　積　12,000㎡
担　当　梅木謙一・高尾和長・相原浩二
　　宮内慎一・水本完児

図１　調査地位置図

経過　本調査地は大峰ケ台主丘陵に対して谷間を挟んだ西側に聳える分岐丘陵上に位置する。調査地の地形は南北方向に尾根線が長く、裾部は東西に広がり、丘陵全体にわたり急勾配をもった斜面である。調査地周辺には大峰ケ台遺跡（弥生時代中期）や朝日谷古墳、客谷古墳などが存在する。とりわけ昨年度の調査では古墳時代後期の横穴式石室をもつ大池東１号墳が確認されている。

**遺構・遺物**　調査は南北に延びる頂上尾根部〔①区〕と南西に向けて分岐する丘陵部〔②区〕とに分けて行った。両地区の調査ともにトレンチ調査を主体とした。その結果、①区では１基、②区では３基の古墳を検出した。

〔1〕①区の調査　調査は19本のトレンチを設定し、土層観察及び古墳の有無の確認を行った。その結果、東斜面裾部北端にて石室を検出した（客谷11号墳と呼称）。墳丘はすべて消滅しており、主体部がわずかに残存している。石室は天井石は失われ、側壁と奥壁は１～２段目までが残る程度で、床面は1/2を検出するにとどまった。主軸は東西方向であり、東へ開口する。規模は奥壁長1.3ｍ、側壁長1.4ｍ、両側壁間は床面中央部で1.2ｍ、奥・側壁の残存高は約30㎝を測る。敷石等の施設は未検出であるが床面の一部には貼り床が施されていた。遺物はトレンチ調査時に須恵器提瓶が１点出土した。遺物はＴＫ43型式に比定されることから、本古墳の造営時期は６世紀後半頃と考えられる。

〔2〕②区の調査　調査は①区と同様にトレンチ調査を主体とした。調査地の地形を考慮したうえで上段・中段・下段に分けて順次、調査を行った。下段の調査では11本のトレンチを設定し土層確認等を行った。その結果、下段のほぼ中央部にて古墳を１基確認した（大池東２号墳と呼称）。

次に中段では、現況でマウンド状になる土の高まりを２ケ所確認した。これら２つのマウンドに対してトレンチを設定し、土層観察を行った結果、各々に周溝状の遺構を確認した。それぞれ、大池東３号墳、大池東４号墳と呼称し、調査を進めた。上段は尾根線上に沿ってトレンチを設定し、土層確認を行ったが、古墳を確認するには至らなかった。

(1) 大池東２号墳の調査　本古墳は昨年度確認した大池東１号墳の北東部、標高約30ｍに立地する。１号墳と同様、南西方向に開口する横穴式石室を有する円墳である。墳丘を構築する盛土の多くは失われ、現在の地表面から30㎝下で石室を検出した。石室は天井石は失われ、奥壁と両側壁の1/2程度が残存している。規模は奥壁長1.8ｍ、側壁長4.2ｍ、奥壁の残存高は約1.5ｍを測る。羨門は石の抜き跡から判断すると、幅1.5ｍ前後と推測される。床面には中央部より奥壁側に20～30㎝程度の大きさの角礫が敷かれており、一部ではあるが貼り床を検出した。

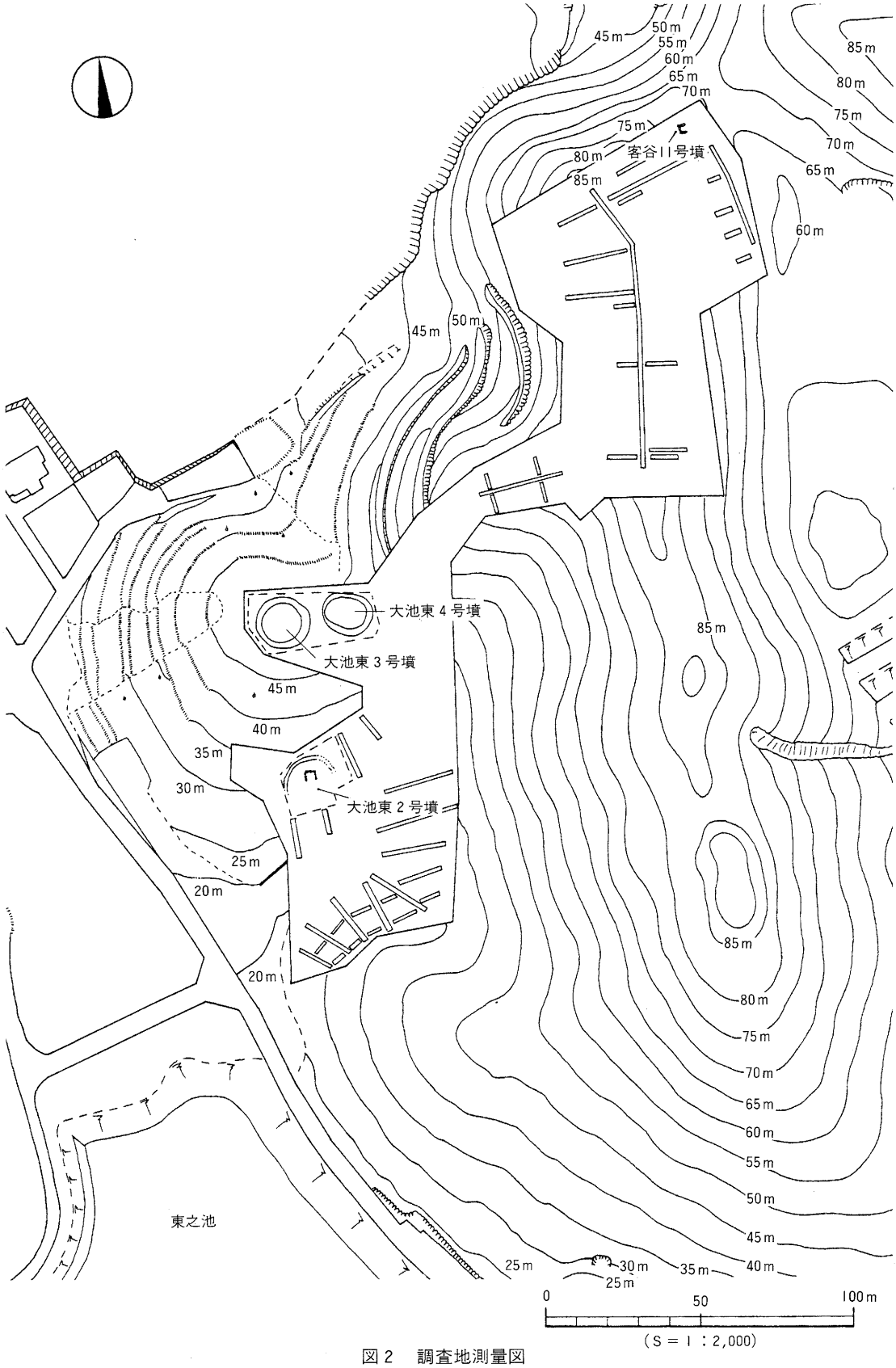

45m
50m
55m
60m
65m
70m
75m
80m
85m
客谷Ⅱ号墳
大池東４号墳
大池東３号墳
大池東２号墳
40m
35m
30m
25m
20m
東之池
0
50
100m
（S＝１：2,000）

図２　調査地測量図

石室掘り方は楕円形を呈し、主軸長6.0m、幅4.0m、深さ2m前後を測る。周溝は全周せず石室の北西部と北東部の一部に検出された。幅60～80cm、深さ20cm、断面形は浅い「U」字状を呈している。遺物は石室内から須恵器坏蓋・坏身１点、土師器坏１点、耳環３点、鉄器２点他が出土した。出土した須恵器がＴＫ209型式に比定されることから、本古墳の造営時期は６世紀後半頃と考えられる。

(2)大池東３号墳の調査　大池東３号墳は大峰ケ台西丘陵の南北に延びる尾根線上の緩傾斜地の標高51～53mに４号墳とともに東西に並んで立地する。本墳は周溝を伴う円墳で、墳丘は直径11m、盛土は全体的に大きく削られており、特に周囲の墳端部近くでは殆ど失われている。盛土が残っているのは、墳丘中央付近に厚さ0.3mを最大として、他の部分では0.1m前後である。主体部は削平のため失われていると思われ未検出である。周溝は、幅1.5～3.0m、深さ0.05～0.25mで西側が浅くなるもののほぼ全周する。

出土遺物は西側周溝内の基底面に掘られた長軸1.0m、短軸0.65m、深さ0.1mの長方形を呈する土坑ＳＫ１より完形の須恵器高坏と蓋がセットで10点出土したほか、周溝南東部から南西部にかけて周溝底より須恵器大甕、甕、土師器甕片、円筒埴輪片、坏笠片、人物埴輪片が出土している。周溝内からは埴輪が出土したものの墳丘上、墳丘中からは埴輪の出土はなく、本墳築造時から比較的早い段階に墳裾から全て周溝内に崩落したものと思われる。

この古墳の時期については、主体部が失われており、主体部内からの土器によって知ることはできないが、周溝内出土の須恵器はＴＫ23型式もしくはＴＫ47型式に比定されるもので、６世紀初頭におさまるものと思われる。

(3) 大池東４号墳の調査　大池東４号墳は３号墳から東へ21mに位置する。本墳の北東部は若干調査区外となるものの、３号墳と同様の周溝を伴う円墳と思われる。墳丘は直径約13mで、盛土は全体的に墳裾から墳端にかけて削平されている。特に北西部から南西部にかけては近現代の地割りの溝等により大きくカットされ盛土は殆ど失われている。中央付近は厚さ0.45mと３号墳よりは若干残りはよい。主体部は明確に検出していない。周溝は北東側が調査区外になるため全容はしれないが、検出部では幅1.0～3.0m、深さ0.05～0.20mで、南から西にかけてはやや急傾斜になるためか、溝幅が小さくなり、周溝外側の立ち上がりが見られなくなる。また、東から北にかけても岩盤層になるため掘削が行われず、溝は途切れてしまう。

出土遺物は墳丘中央部盛土上面と裾部表土中で鉄刀が一振ずつ出土している。埴輪は上部2/3近くを失った円筒埴輪が墳裾から１点出土しているが原位置を保った状態ではなかった。周溝中からは、周溝南東部から南西部にかけて須恵器片、土師器片、円筒埴輪片、楯形埴輪片などが出土している。

この古墳の時期についても周溝内の出土遺物より３号墳とほぼ同時期と思われる。

**小結**　本調査では４基の古墳を確認した。客谷11号墳は大峰ケ台西側丘陵の東斜面流部に立地し、６世紀後半の古墳と考えられる。近隣には客谷１号墳、２号墳があり、これらの古墳とほぼ同時期のものであろう。また、大池東２号墳、３号墳、４号墳は南東方向に分岐する丘陵尾根線上に立地し、６世紀前半から７世紀前半に比定される古墳である。出土品より３号墳と４号墳は６世紀初頭頃に同時に存在し、使用されたものと考えられる。今回の調査結果は、大峰ケ台丘陵西側における古墳時代の墓域とその構造を解明するうえで貴重な資料となるものである。　（宮内・相原）

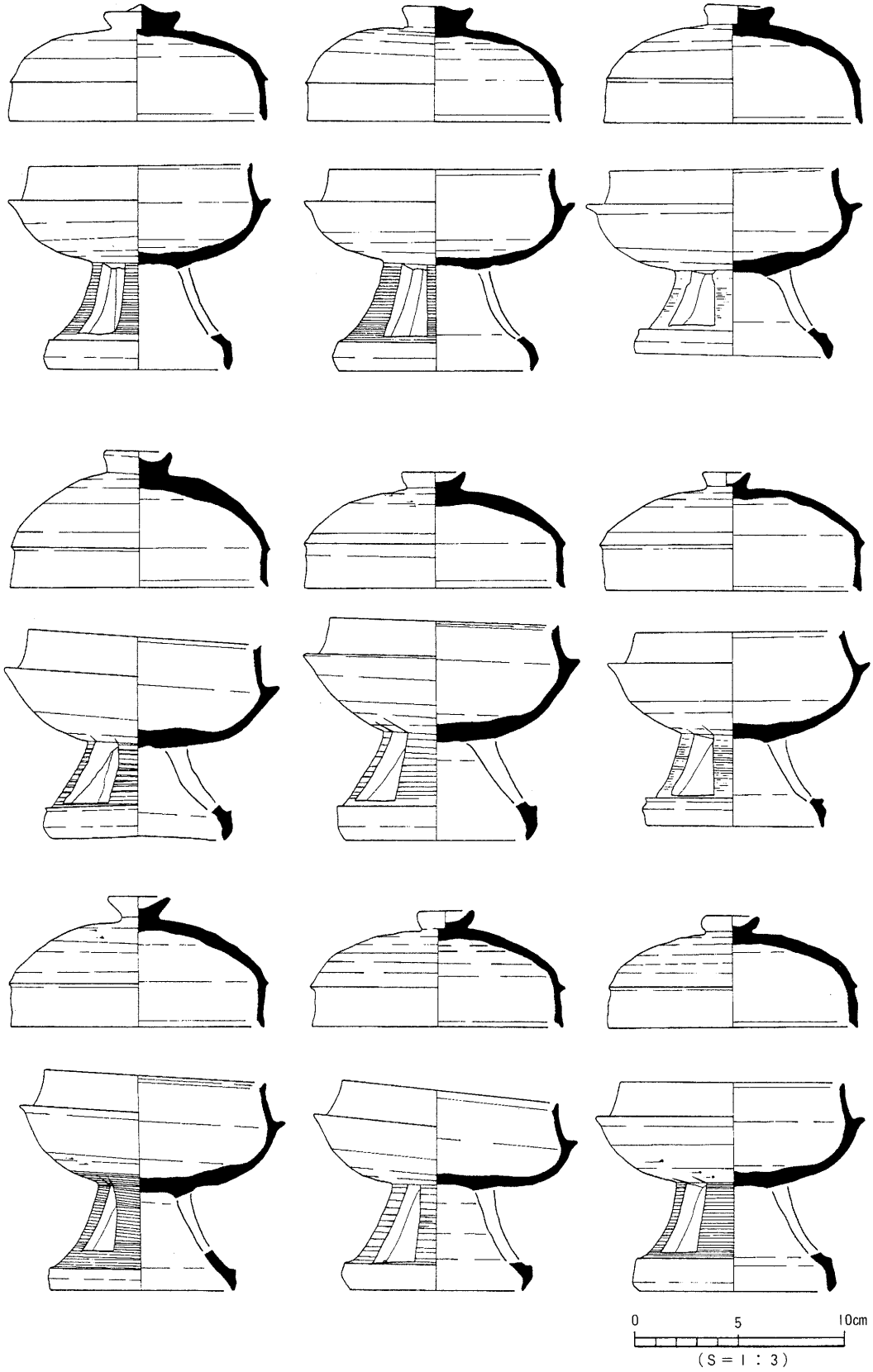



図３　大池東３号墳　ＳＫＩ出土遺物実測図

写真１　調査地全景（北東より）

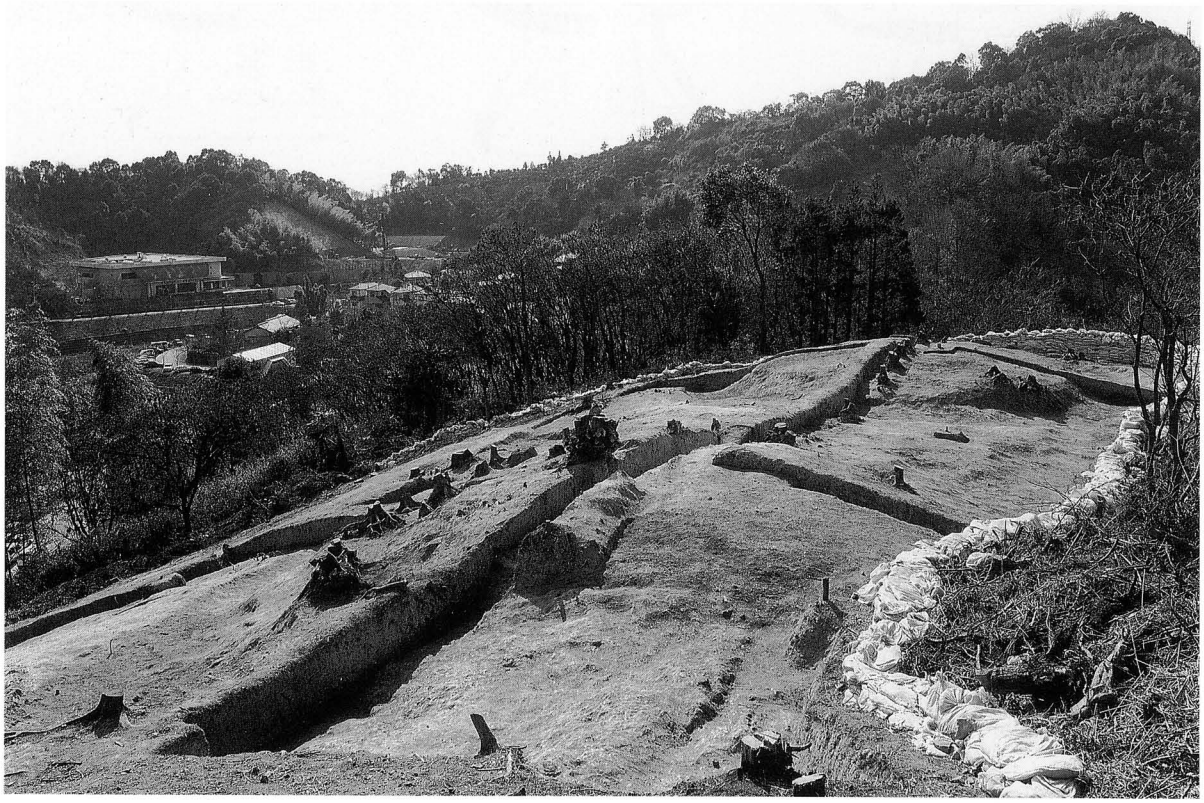


写真２　大池東３号墳・４号墳（東より）

写真３　大池東２号墳（南西より）

写真４　大池東２号墳敷石検出状況（南西より）

# 古照（コデラ）ゴウラ遺跡５次調査地

所在地　松山市南江戸３丁目912,913,913-2
915,916,917-1

期　間　平成７年４月５日～
同年９月22日

面　積　6,319㎡

担　当　河野史知・相原秀仁

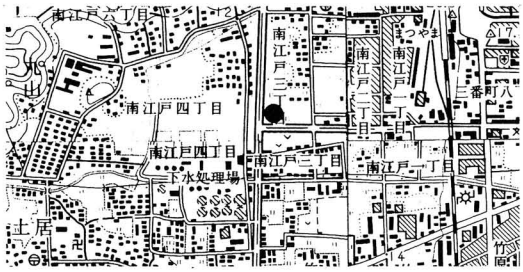



図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.35 古照遺跡」内における店舗建設に伴う事前調査である。調査地は松山平野中央部を東から西に流れる石手川等により形成された沖積平野の扇端付近の標高12.6～13.0ｍに立地する。

本調査地西方には古照遺跡が位置しており、第１～11次までの調査が行われた結果、「井堰」に纏わる周辺環境や中世における集落址が検出されている。また、北西の大峰ケ台丘陵では弥生時代の集落址や古墳時代の集落址・古墳群の存在が確認されている。特に西隣の松環古照遺跡や東隣の古照ゴウラ遺跡４次調査において中世集落の存在が確認されており、当地域における中世集落の復元がなされつつある。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層旧耕作土、第Ⅴ層は中世の遺物包含層、第Ⅵ層上面にて遺構を検出し、第Ⅶ層淡黄色粗砂、第Ⅷ層粘土、第Ⅸ層シルト、第Ⅹ層微粒砂、第Ⅺ層の粘土層上面にて古墳時代の文化層を検出した。

Ａ区南壁にて自然堤防と考えられる砂層の盛り上がり、Ｂ区南壁の第Ⅴ層上面に近世の河川の氾濫原が西に延びることを確認した。

検出遺構はＡ区より掘立柱建物址２棟、柵列１条、木棺墓１基、土坑８基、溝４条、柱穴103基、井戸２基、鋤跡状遺構、水田面を検出した。

Ｂ区は掘立柱建物址２棟、柵列１条、木棺墓１基、土壙墓１基、土坑２基、柱穴35基、溝５条、井戸１基、鋤跡状遺構、水田面、性格不明遺構４基を検

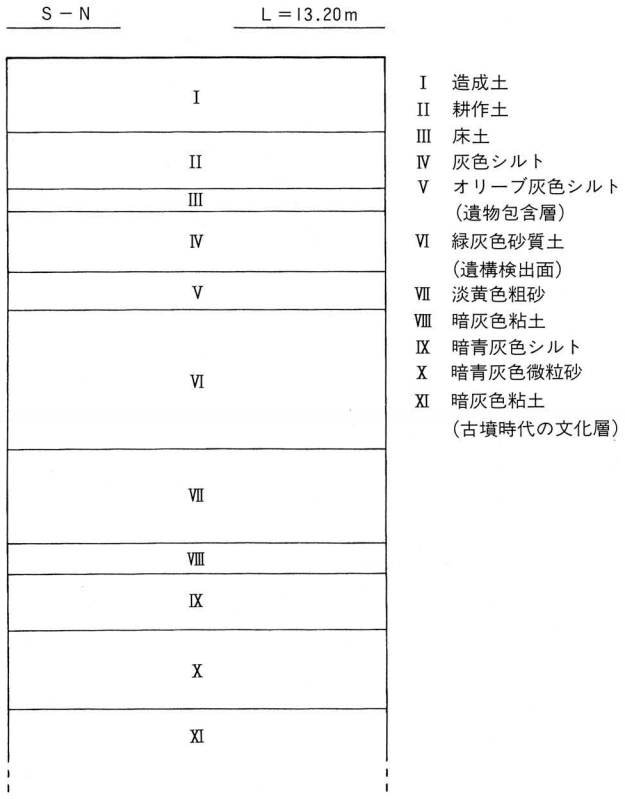



図２　基本層位図（Ｓ＝１：20）

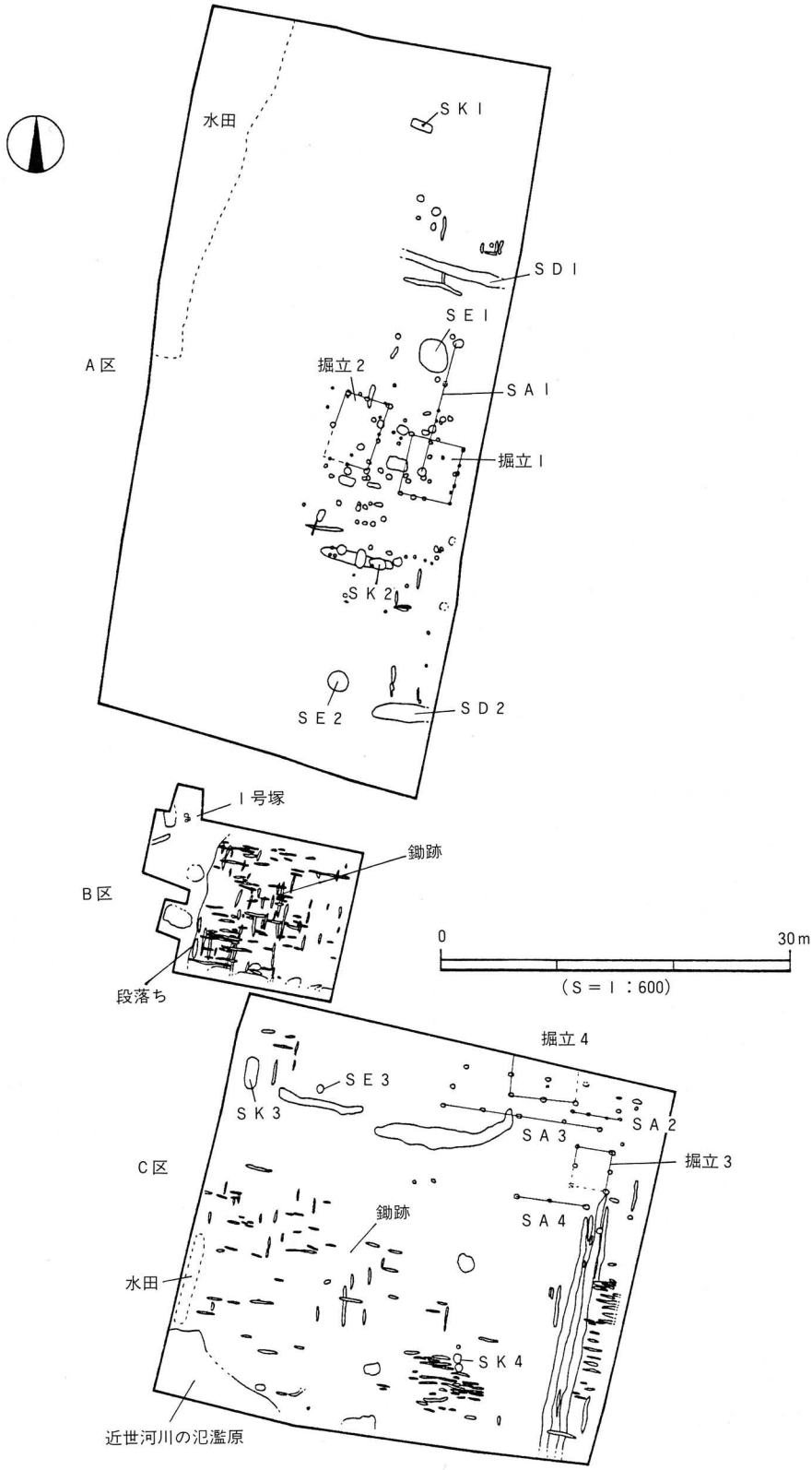

水田
ＳＫ１
ＳＤ１
ＳＥ１
Ａ区
掘立２
ＳＡ１
掘立１
ＳＫ２
ＳＥ２
ＳＤ２
１号塚
鋤跡
Ｂ区
段落ち
0
30m
（Ｓ＝１：600）
掘立４
ＳＥ３
ＳＫ３
ＳＡ２
ＳＡ３
掘立３
Ｃ区
鋤跡
ＳＡ４
水田
ＳＫ４
近世河川の氾濫原

図３　遺構配置図

出した。Ｃ区は土坑３基、塚１基、溝１条、鋤跡状遺構、第Ⅶ層の段落ちを検出した。

〔Ａ区〕 調査区中央部に南北棟の掘立柱建物址が２棟検出された。その南側の東西に延びる浅い溝の床面より、土坑（ＳＫ２）を検出した。平面形は長方形で断面形は逆台形状を呈しており、土坑内より、ほぼ完形で鋳造製の鉄鍋が南北壁面から床面にもたれる様に相向い合わせに置かれた状態にて出土した。掘立柱建物址の南北において曲げ物井戸を検出しているが、北側の井戸（ＳＥ１）からは曲げ物の据え代えが確認できた。

調査区北側に掘立柱建物址とそれに直交する区画溝が東西に走っており、その北側に木棺墓（ＳＫ１）を検出した。遺構上層の地上に墓標施設と考えられる約10cm大の礫を散乱した状態で検出し、平面形は長方形、断面形は皿状を呈する。木棺の側板・蓋板は土圧で崩落している。薄く残存している底板上に北向き東枕の人骨の安置が推定され、骨・歯より成人男性が考えられる。副葬品は、頭部付近の側板の外側より土師器皿４枚、瓦器皿１枚を出土した。

調査区北西部にて西に広がる水田面を検出した。粘土層上面において無数の人・牛の足跡を砂層に覆われた状態で検出した。

〔Ｂ区〕 調査区の北東部において掘立柱建物址２棟とそれに付随する柵列、東側に南北に延びる溝を検出した。調査区南半分に東西の鋤跡群とそれに直交する鋤跡を検出し、南西部には水田面とそれに伴う牛の足跡を検出した。調査区北西部で検出された土壙墓（ＳＫ３）は床面に小石を敷いており、木片が残存している。

第Ⅶ層下の砂質土層において、第Ⅶ層が埋土となり東西に延びる溝状遺構４条を確認した。調査区北寄り２ヶ所に、つぼ掘り調査を実施した。その結果、標高11.7ｍより、古照遺跡９・10次調査において多数の布留式土器が出土した層につながると考えられる黒褐色のシルト層を検出し、上面より炭や木片が出土した。

〔Ｃ区〕 Ａ・Ｂ区の鋤跡のつながりと考えられる小溝群を東西・南北方向に検出した。遺構検出面である第Ⅶ層が調査区西側において段落ち状に約10cm下がっていることを確認した。

拡張区において塚（１号塚）を検出した。この塚は第Ⅶ層に礫が積まれた状態で築かれており、礫に混じって凝灰岩製の五輪塔が混在している。土坑内に水輪部が埋まった状態で検出された。礫は上部が近世の耕作面にまで達している。おそらく、五輪塔が何らかの原因で崩壊した後、河原石を積み上げ塚として伝承したものが考えられる。

**小結** 今回の調査において古照遺跡、その周辺遺跡で検出された中世遺跡のつながりが確認できた。特に、Ａ地区において検出された遺構は、人が生活する場所である生活域、農耕行為を行う生産域、生活域よりやや離れた所の墓域に分かれており、一つの集落の構成が窺える。農耕は畑作が中心であり、西側の低湿地において水田が営まれている。墓の形態もそれぞれ個性があり、当地域における中世墓変遷にも貴重な資料である。また、土坑内より出土した鉄鍋は松山平野において初めての出土であり、埋納状態も全国的に見ても珍しく、何らかの祭祀として使用されたのかを解明することが今後整理していく上での重要な課題である。この様に、今回検出した遺構は当地域における遺跡の全体像を映す上で非常に興味深い資料の出現である。 （河野）

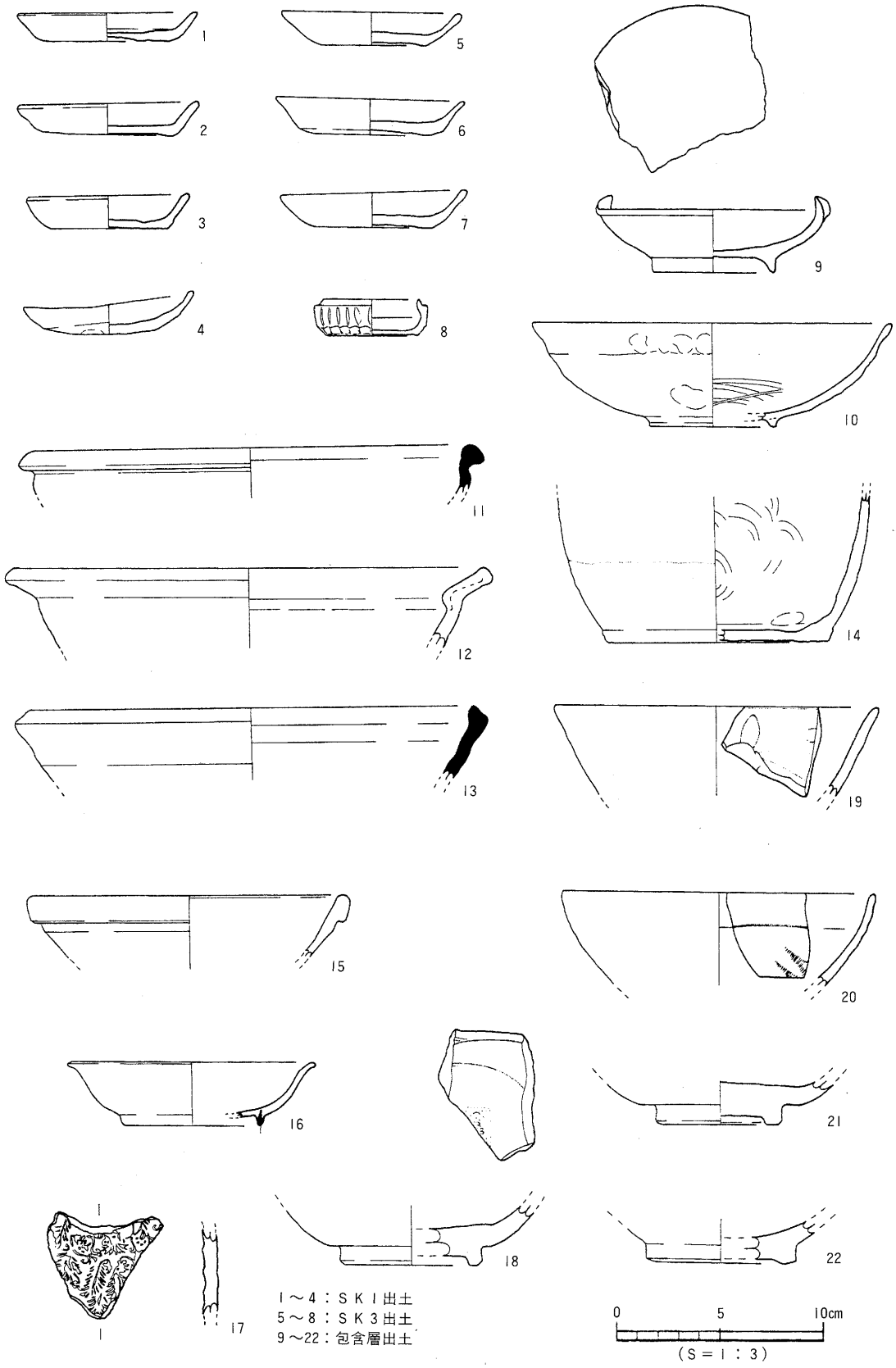



図４　出土遺物実測図

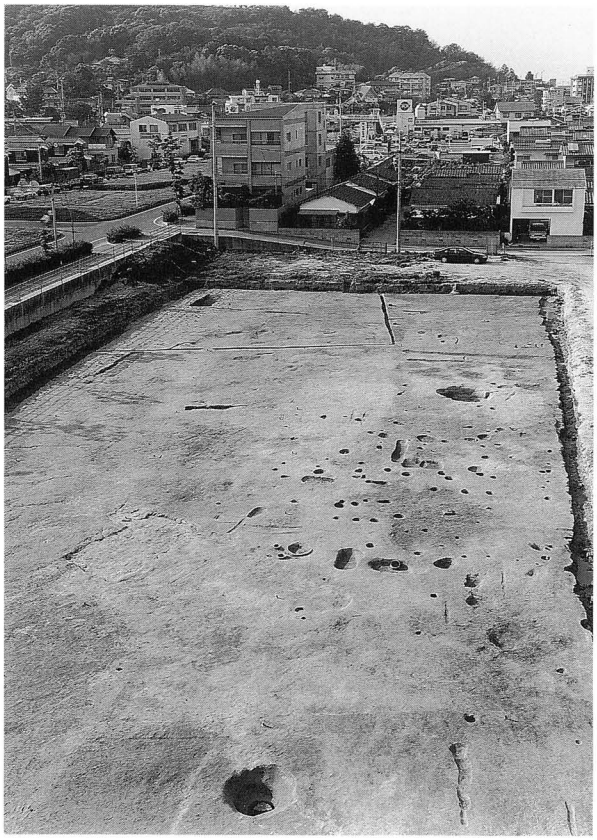


写真１　Ａ区完掘状況（南より）

写真２　Ａ区ＳＫ２遺物出土状況（東より）

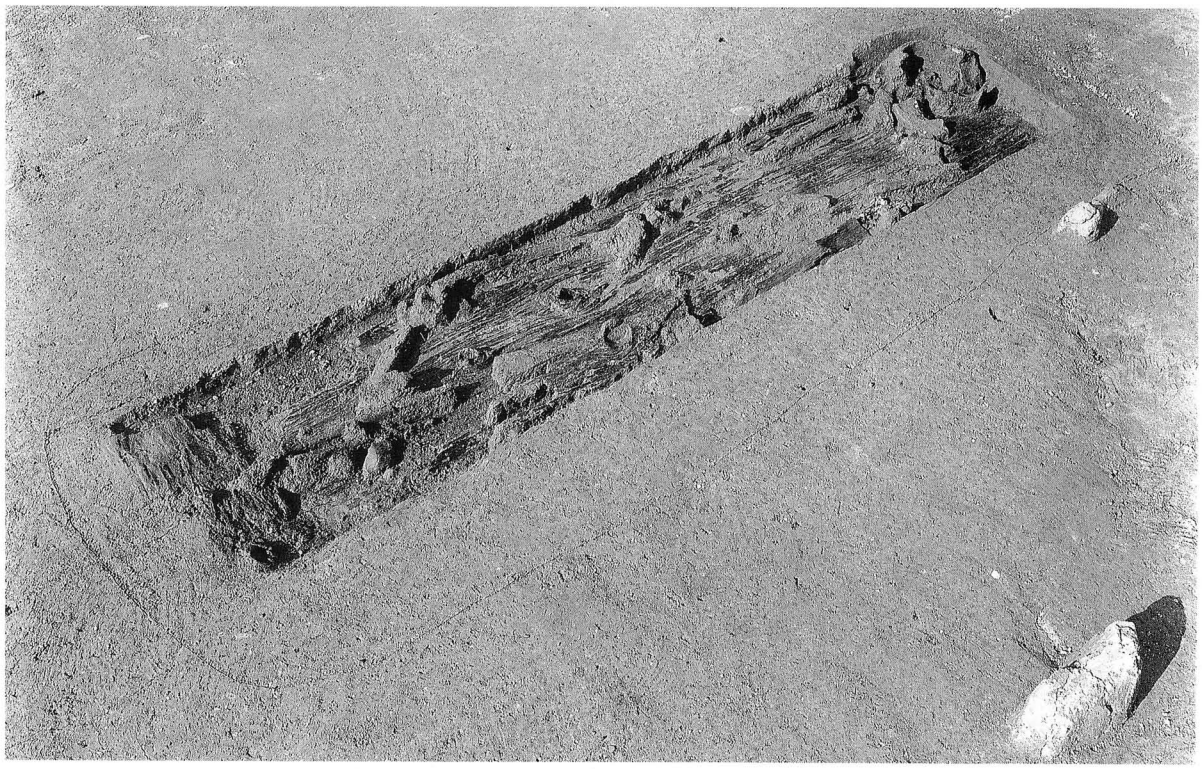


写真３　Ａ区ＳＫ１人骨・木棺出土状況（南西より）

写真４
Ａ区ＳＥ２
井戸枠出土状況
（西より）

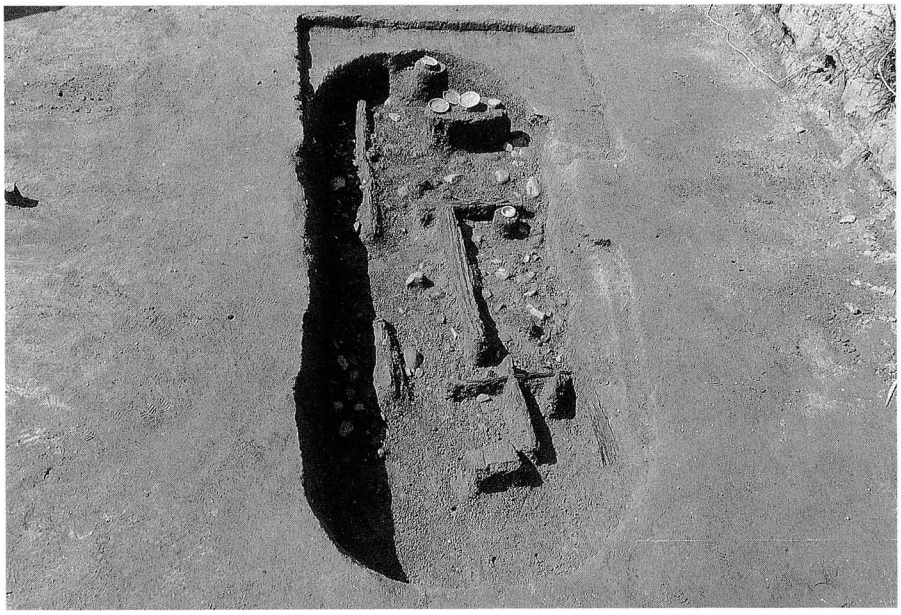


写真５
Ｂ区ＳＫ３
遺物出土状況
（北より）

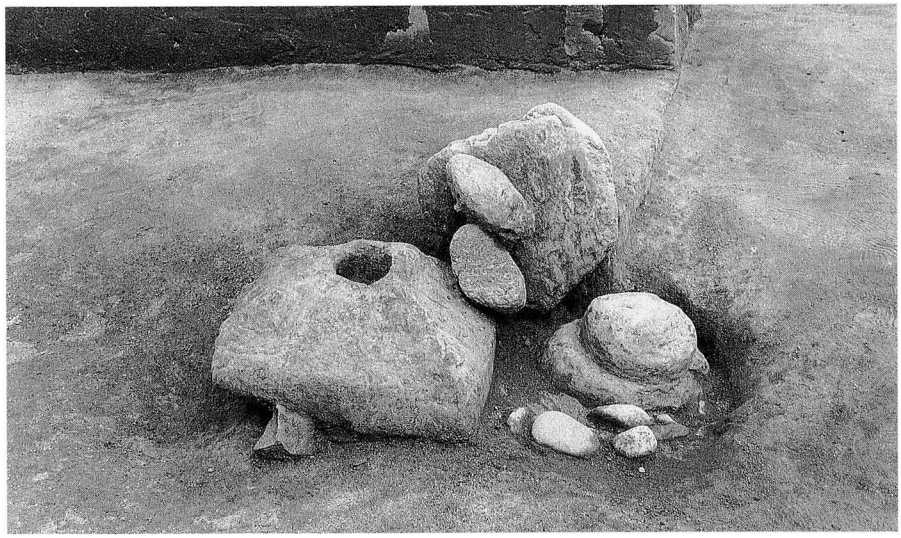


写真６
Ｃ区１号塚
五輪塔出土状況
（西より）

# 溝辺（ミゾノベ）2号墳

所在地　松山市溝辺町乙437番
期　間　平成８年１月16日～
　　同年１月23日
面　積　2,732㎡
担　当　栗田正芳

図１　調査地位置図

**経過**　本墳は、包蔵地「溝辺古墳群」内に所在している。本調査は、墓地造成工事に伴う事前のトレンチ調査である。３本のトレンチを尾根上に設定し調査を行った。その結果、周溝と石室１基が検出された。開発工事が本墳にまで及ばないため、現状保存することになっている。

本墳は、石手川の左岸の北側の丘陵尾根上、標高112ｍに立地しており、この丘陵は「神前（かみのまえ）」と呼ばれている。本墳周辺には、石手川対岸に溝辺１号墳（１・２号石室）が発掘調査されており、西南方にある四国八十八ケ寺51番札所の「石手寺」裏山の丘陵には現在も多数の古墳が確認されている。

**遺構・遺物**　本墳は、墳丘や石室の天井部は既に削平されているが、石室の北側で周溝の一部を確認した。トレンチ調査ではあるが、小規模な竪穴式石室を内部主体とする円墳と思われる。

本墳の石室内法は、南北長0.63ｍを測り、東西長は0.5ｍ分のみを検出しているが、試掘棒による調査では東西約２ｍ前後あることを確認している。石室の長軸方向は、Ｎ－29°－Ｅを測る。石室は削平を受けているため、基底石またはその上の２段積み分が遺存している状況である。

石室内からは、土師器甕１点、須恵器には高坏１点、坏身１点、坏蓋２点、無蓋・有蓋短頸壺各１点、璃１点が出土している。土師器甕には、坏蓋（図４－３）が逆さまに入れ子状にされていた。他に、有蓋短頸壺の周辺には赤色顔料がまかれ、人骨と思われる小片１点が確認されている。

石室の周囲には、地山面で南北幅約1.5ｍを測る墓坑を確認し、東西約0.9ｍ分を検出している。墓坑の南西角からは、尾根の傾斜に合わせ南へと排水溝が延びている。この排水溝は、幅約0.20ｍ、深さ約0.15ｍを測り、断面逆台形状を呈している。

本墳は、出土遺物から田辺昭三氏の陶邑編年のＭＴ－15に併行する時期が考えられる。

**小結**　本墳に副葬されていた須恵器と土師器は、当平野における当該期土器の基準的資料になるもので貴重な遺物である。

本墳と同時期の古墳には溝辺１号墳の１号横穴式石室が挙げられるが、本墳が小型の竪穴式石室で松山平野の中でも調査例がないため、本墳の位置づけは今後の資料増にゆだねるものである。

（栗田）

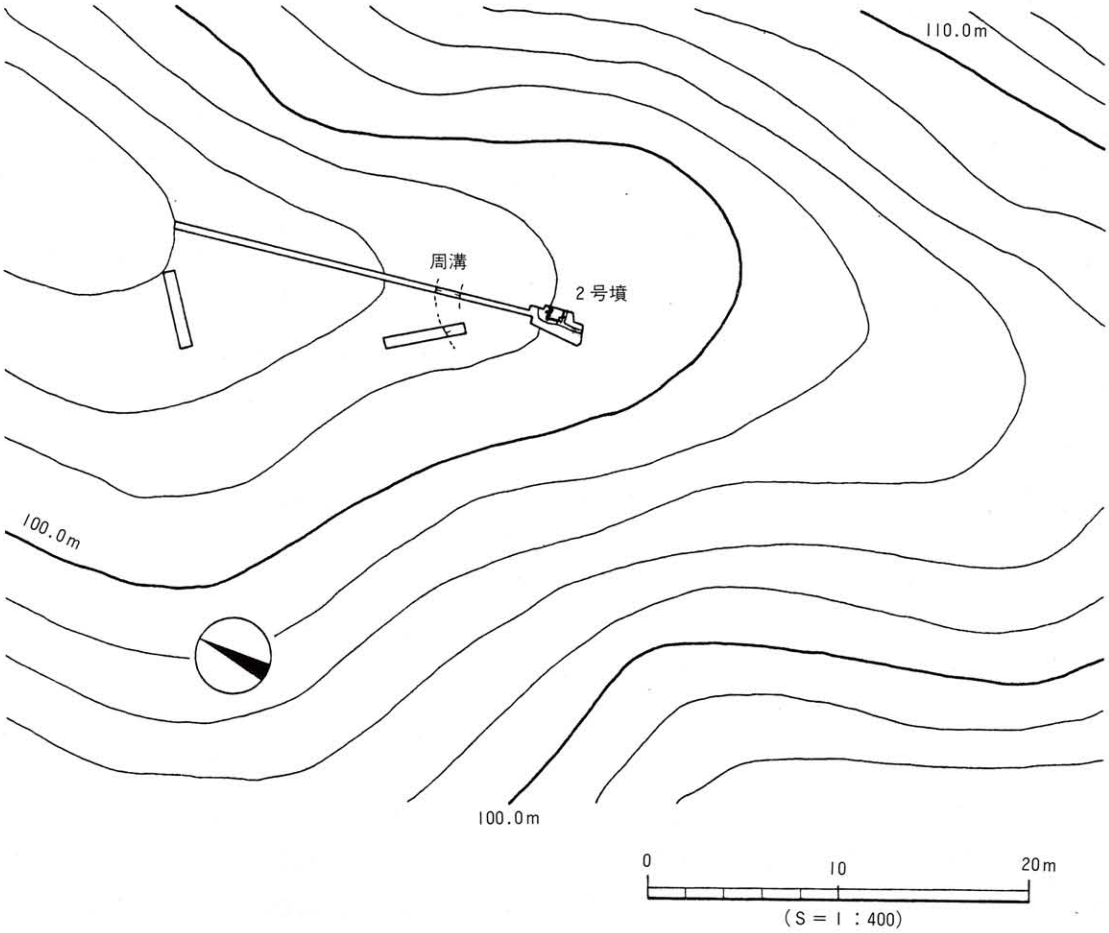



図２　トレンチ測量図

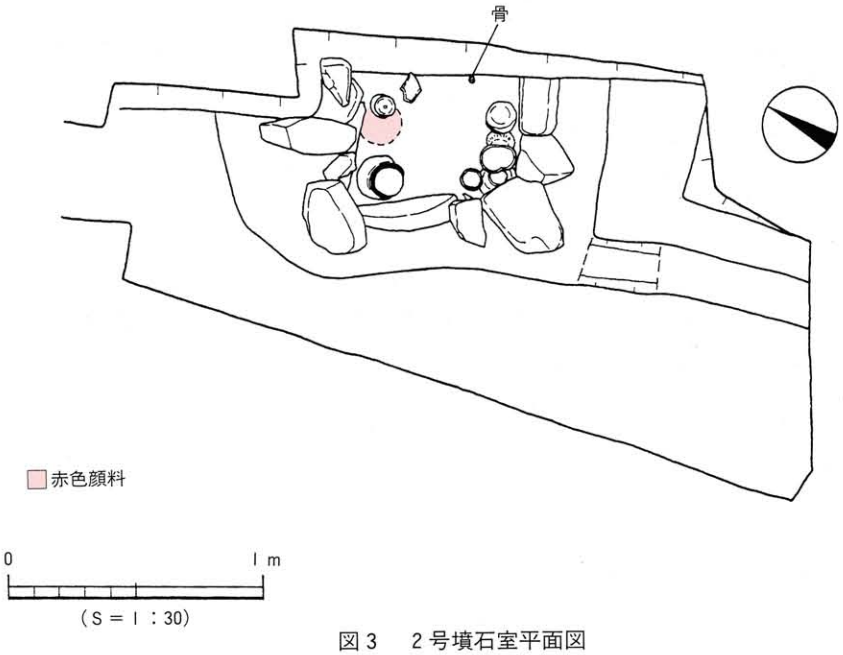



図３　２号墳石室平面図

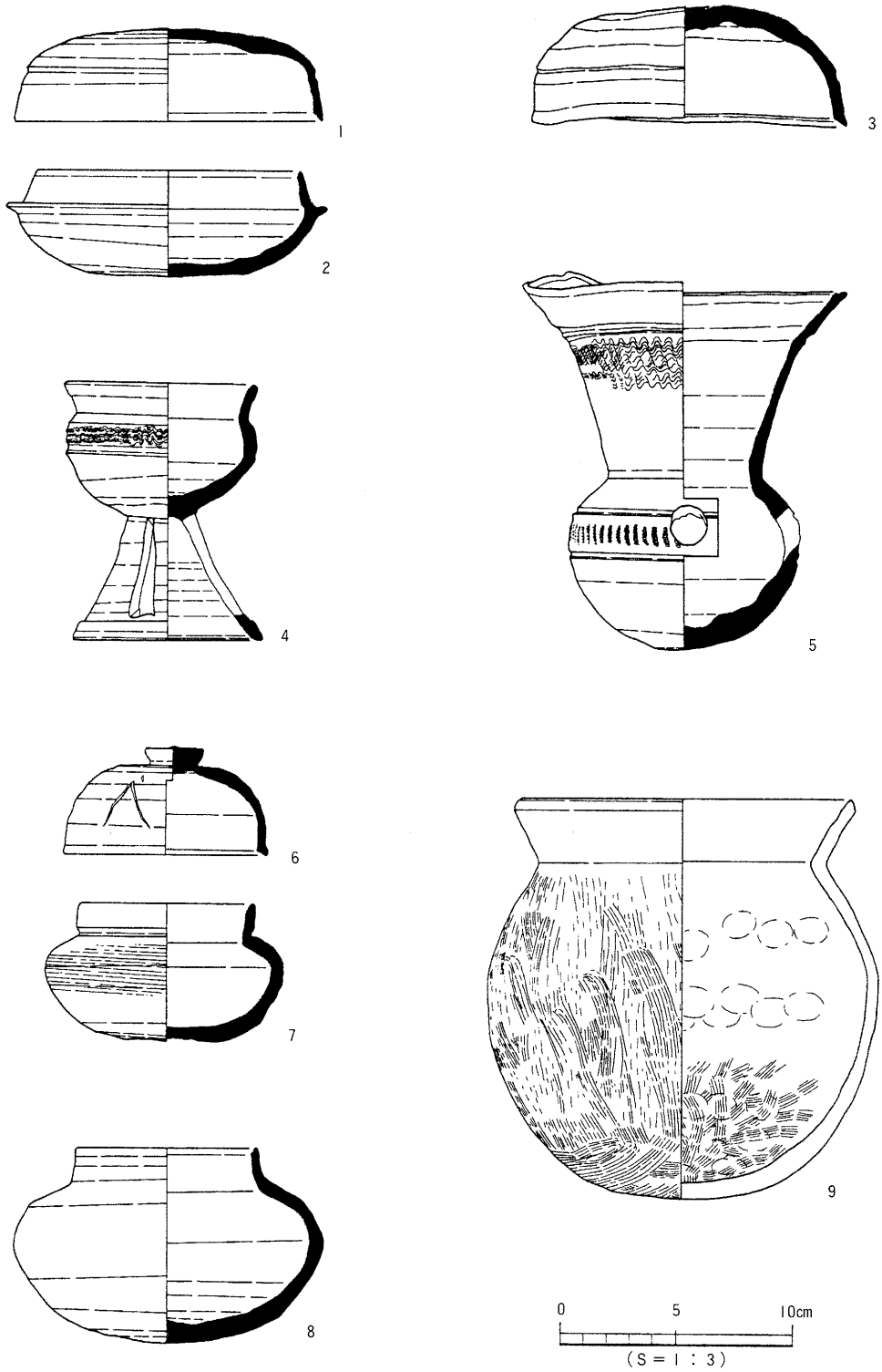



図４　２号墳出土遺物実測図

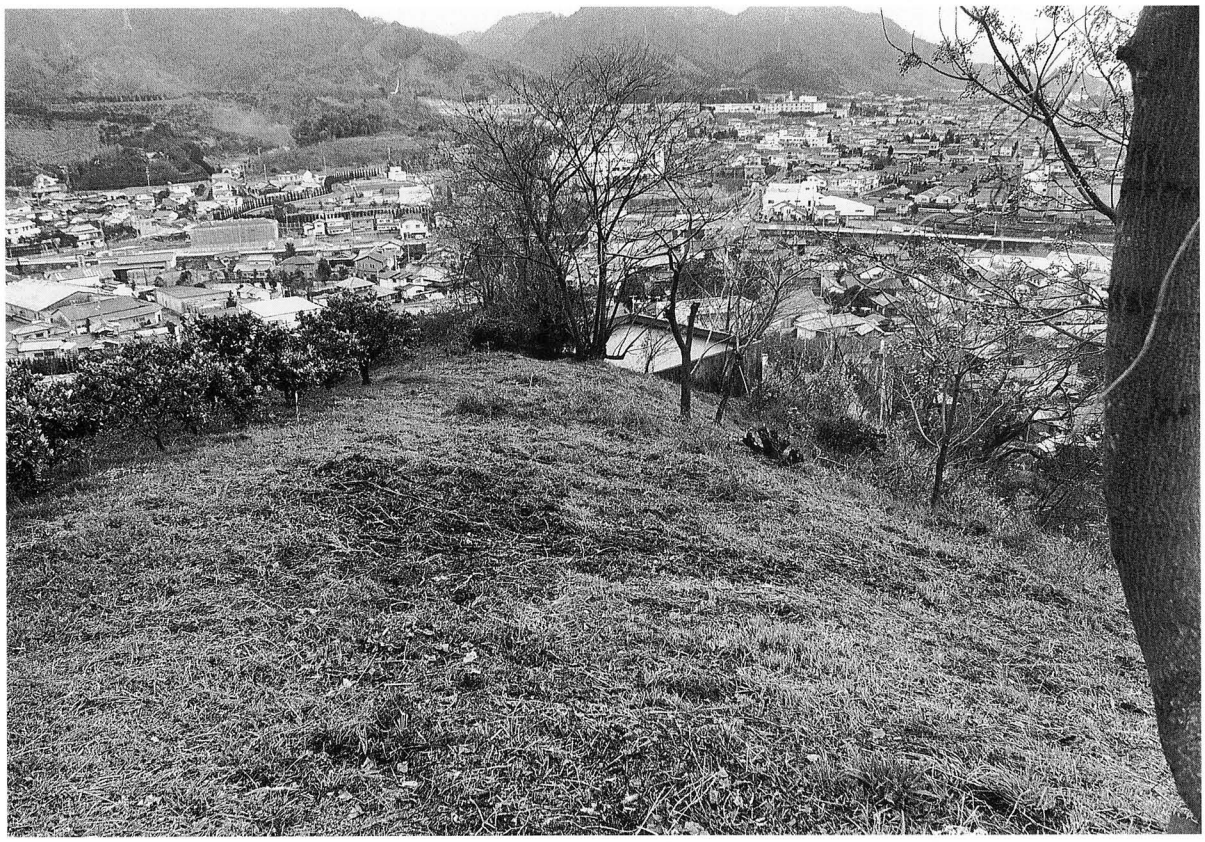


写真１　調査地全景（北より）

写真２　２号墳石室内遺物出土状況（東より）

# 東野お茶屋台遺跡５次調査地

ヒガシノ　チャヤダイ

所在地　松山市東野５丁目甲838番１外７筆
期　間　平成７年６月１日～
　　同年11月30日
面　積　3,465㎡
担　当　橋本雄一・小笠原善治

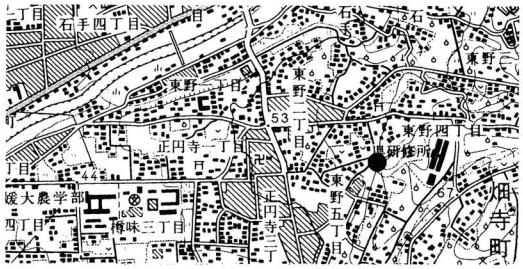



図１　調査地位置図

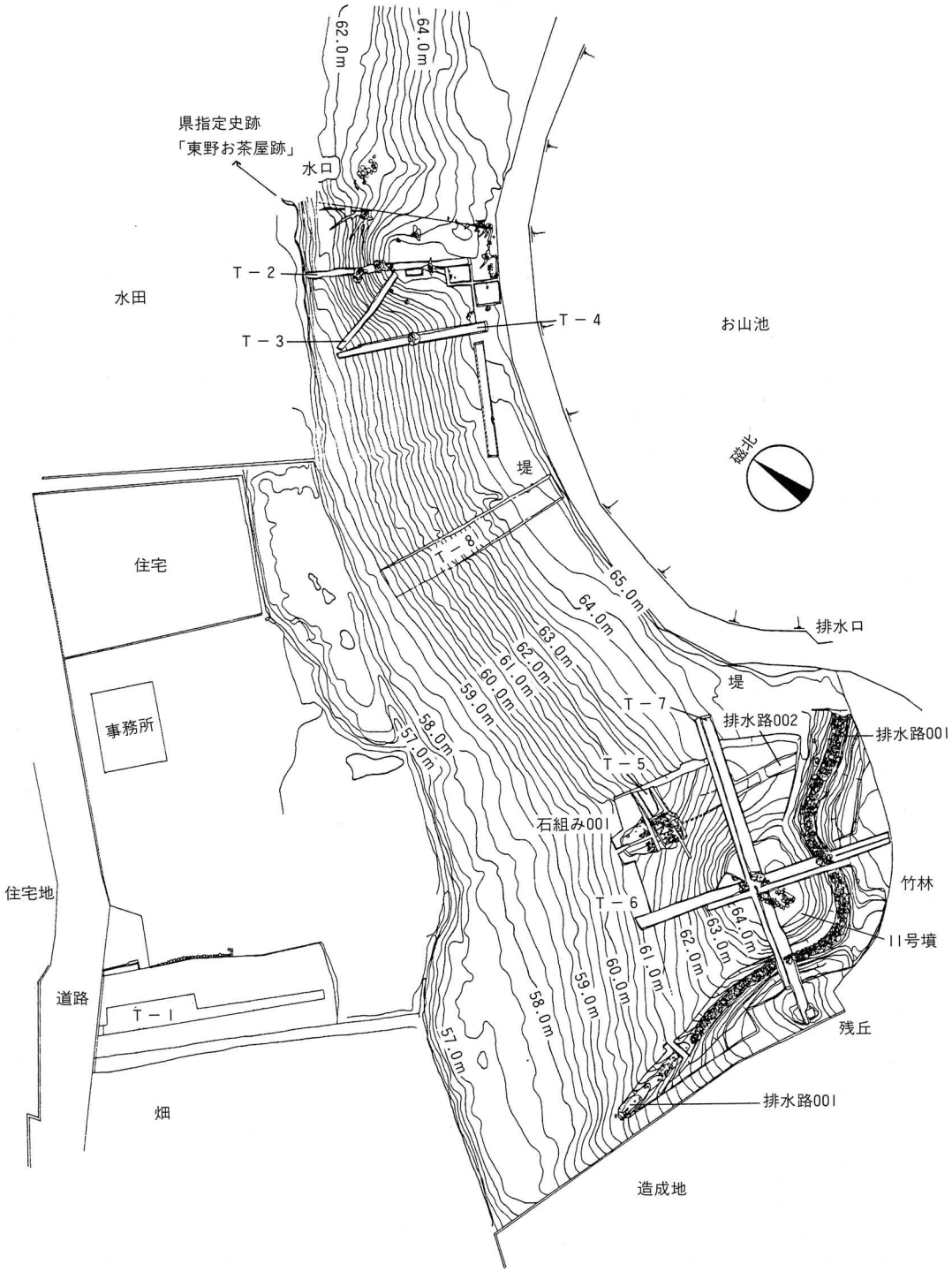
**経過**　東野と呼ばれる地域は、市の北東部の高縄山塊に平野が接する場所に位置している。この地点は、道後平野を流れる石手川が平野部に至る箇所の南側に位置し、川を挟んで対岸の山際には、四国霊場五十一番札所である石手寺を望むことができる。周辺においては、過去に県と市によって４次にわたる本格調査が実施され、古墳群や江戸時代の遺構の存在が明らかにされている。今回、民間の宅地開発に先立って、江戸時代に松山藩主の別邸として造られた「東野御殿」の中に位置する「お山池」と呼ばれる池の堤と、それに隣接する古墳について発掘調査を行った。

**遺構・遺物**　発掘調査の成果は主として２つの項目に区分される。ひとつは、江戸時代の藩主の別邸の庭園の一部に関する諸施設の確認が行われたこと。第２点は、江戸時代の盛り土に半ば埋もれた未確認の古墳一基を検出し、７世紀初頭の特徴的な石室の在り方を解明することができた点にある。

当調査地周辺の開発は、1650年代に行われた松山藩主松平定行による隠居所の造営以降、本格化する。加藤家の転封、蒲生家の断絶の後、この地に入った松平（久松）家の初代にあたるこの人物の存在は、その後の松山藩政史に大きな影響を与えることになる。その定行によって東野に造られた別邸が後に「東野御殿」と呼ばれるもので、庭園施設の一部として造られた「お山池」の側には、多くの茶屋や御殿が建てられていたという。明治維新の後、敷地の大半は松平家の手を離れ、県や民間の所有地となった。現在、県有地の一部には県の関連施設が建てられているほか、古墳群が現存する池の周囲については、その一部が県指定史跡として景観の保全がなされている。

調査の着手当初は、調査地内にある「丘陵」を自然の丘であると誤認していたが、調査が進展するにつれて、盛り土による堤であることが判明した。調査地北端に位置する「盛り土」部分は、お茶屋台古墳群８号墳として県がまとめた古墳台帳にも登録されているものであるが、これについても池の堤と同一工程で造られたものであることが判明した。この「盛り土」部分の頂上部からは、祭祀に用いられたと考えられる土師器の皿が複数個体、さらに寛永通宝が数枚出土した。これらの遺物は、頂上部もしくは堤との接点の谷部において、攪乱土中から散乱した状態で検出されたことから、どのような状況のもとにおいて使用されたものか、その詳細は明らかではない。ただし、出土した銭の内、判読可能なもの３点が、1650年代までに鋳造された「古寛永」と呼ばれる書体が用いられていることと、調査地のほかの場所からは出土していないことなどから、盛り土部分と土師器の皿、寛永通宝は密接な関係にあったものと理解している。堤完成後の祭祀の場として設定されたのが「盛り土」部分ではないかと考えている。

東野お茶屋台遺跡５次調査地




江戸時代に築かれた池の堤の一部を掘削し、
11号墳の墳丘斜面などを検出した段階の
全測図である。

0　10　20m
（S＝1：600）

図２　調査地測量図

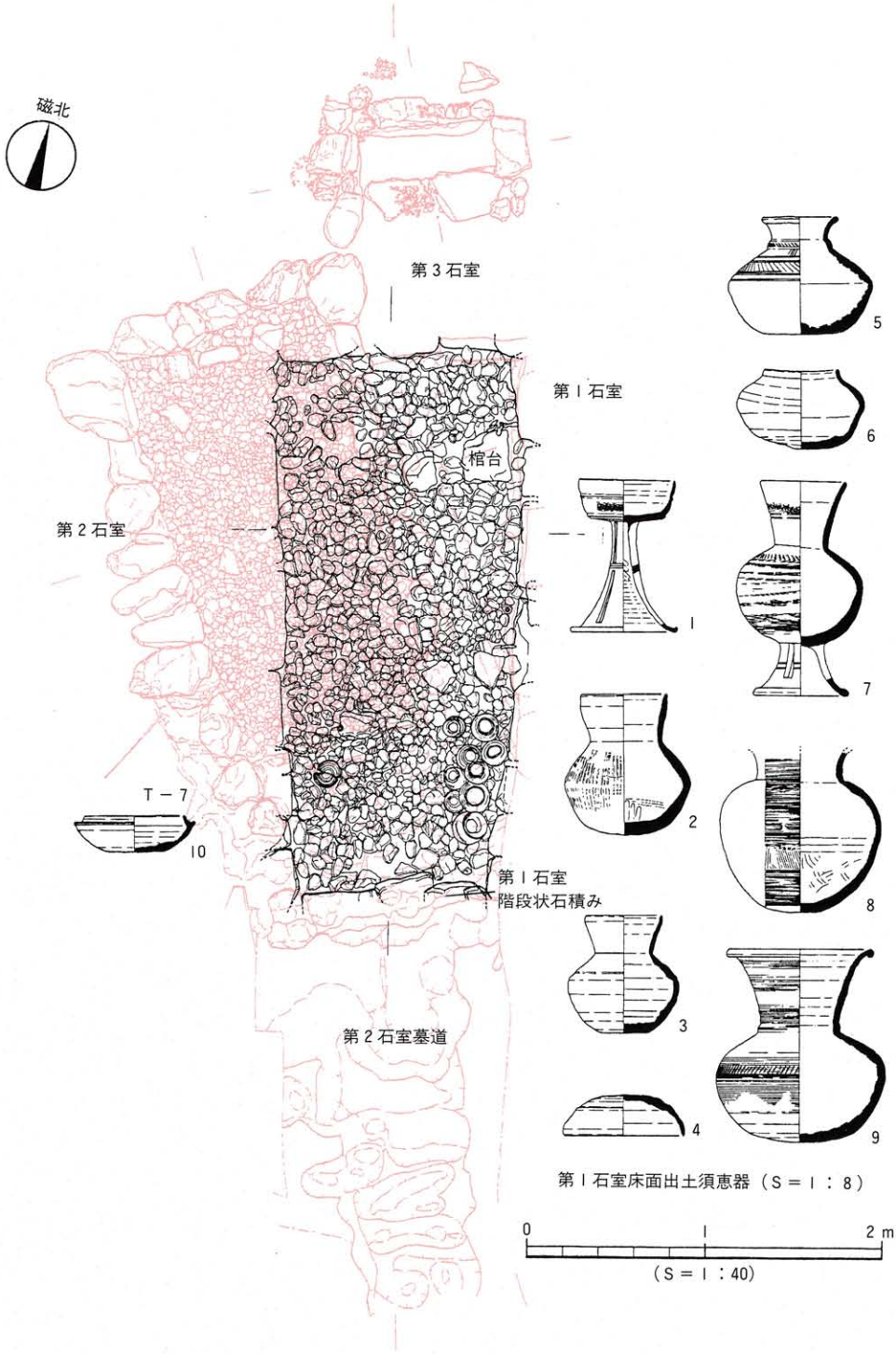



図３　11号墳石室平面図

この他の江戸時代の遺構としては、11号墳周辺の調査地南部に位置する池の排水に関わる一連の施設が挙げられる。排水路001は、11号墳の墳丘の南斜面を回り込む位置に設定されている。この水路は、池からあふれ出た水を流す為に設けられたもので、その半ばまで埋没していたが、大雨の際などには現在でも機能しているものである。堤と地山をＶ字形の谷状に掘削し、底に円礫を敷き詰め、両脇には花崗岩の大きな石を間隔を開けて配置している（写真１）。この石は、水を流す水路の壁の保護の為だけでなく、むしろ装飾を意図したものであると考えられる。池の水があふれた際の排水施設としては、当初、排水路002と石組み001が設定されていた。この水路は、堤の盛り土を最大で深さ３ｍ以上にわたって掘削し、最終的に石組み001に至るものと考えられる。この石組みから先には、溝の続きは延びていないことから、石組みの部分において水を地下にしみ込ませる構造であったものと考えられるが、何らかの不都合により最終的に埋め戻され、古墳を回り込む排水路001に付け替えられたようである。堤の高さは、調査地の中央部において旧地表面から約７ｍにも達している。南に向かうにしたがって、徐々にその高さを減じ、調査地南端において新たに確認された11号墳が構築されている丘陵部に連結する。したがって、堤の構築によって11号墳は部分的に覆い隠されていたわけである。

11号墳は直径20数ｍの円墳であると考えられる古墳で、３基の石室が検出された。墳丘の構築と同時に造られたのが第２石室と第３石室の２基である。その後、第２石室が使えなくなる事情が生じたので、穴を掘って石室の基底部の一部や床面を除く大半の石材を抜き取り、平均で20cm程度の厚さに粘土を貼って第１石室の床面を造っている。第２石室の床面はきれいに片付けられているため、土師器片１点を除いて遺物は出土していない。この第２石室の床面を基礎として活用しながら、第１石室の基底石の一部が設置されているのだが、それらの石は第２石室の基底石と比べて大きく、石材の広い面が石室の壁面となるように配置されている。このように新旧２基の石室を比較すると、石材の使用のあり方に大きな差異が認められる。

第１石室の入り口部分の構造は、スロープ状の短い「墓道」を通って階段状の石積みを降りて玄室内に至る形が採られている。調査時に天井石は失われていたが、石積みが施されている墓道の側壁部分には、基本的に天井石は架からないものと考えられている。したがって羨道と呼べる場所は、閉塞部の石積みが行われている箇所のみということになる。他の石室の例では、この箇所の側壁部分に袖が造り出されたり玄門立柱が設けられるケースもあるが、この石室の場合、無袖の形状が採用されている。第１石室よりも下位に位置する第２石室の墓道は、前者と同様にスロープ状の構造で、地山を削り出すことによって形成されている。この墓道部分の掘削は、第２石室を構築する際の墓壙を掘る工程と同時に行われたようである。その後、穴を掘って石材が抜き取られ第１石室が構築されるが、その段階の墓道面は前段階の墓道埋土を削って設定されている。閉塞の石積みはこの面に置かれている（写真６）。

第２石室および墳丘と同時に構築された第３石室は、非常に規模が小さなものである。側壁はひとつの石か上下２段積みで形成され、板状の３枚の天井石が載せられていた。第２石室に近接する木口面の石材が小さく、天井石との隙間を角礫で埋めた構造になっていることから、こちら側が入り口として意識されていた可能性がある。したがって、箱式石棺あるいは小竪穴的なものではなく、横穴式石室の一形態であると理解しておきたい。なお、この石室の内部は、天井から10cm程度の空間を残して、親指の先大の円礫を大量に含む土砂によって均一に埋められていた。これらの小礫は、天井石を固定する際にも隙間に詰められており、外部からの流入ではなく、円礫そのものが埋納されたもので

ある。何らかの行為に使用された特別な小礫が、第２石室の基底石を設置する段階に、小型の石室に納められたものと考えられる。

**小結**　第１石室において埋葬が行われた年代は、床面から出土した須恵器の形状から、６世紀末から７世紀初頭前後であると推測される。棺台である可能性が高いいくつかの礫の配置から、遺物が集中する右側壁沿いに一体の埋葬が行われたことは確実であるが、左側壁側にも候補となる礫が位置することから、複数回の埋葬が行われた可能性も否定できない。ただし墓道埋土の観察からは裏付けがとれていない。なお、第１石室からは、２点の銅製の耳環のほか、鉄斧１点、鉄鏃３点が出土したが、鉄釘は一本も出土していない。松山市北梅本町の葉佐池古墳（年報Ⅶ）において鉄釘を使用しない組み合わせ式の木棺の実例が知られているので、これと同様の形態の埋葬が行われた可能性が高い。

（橋本）

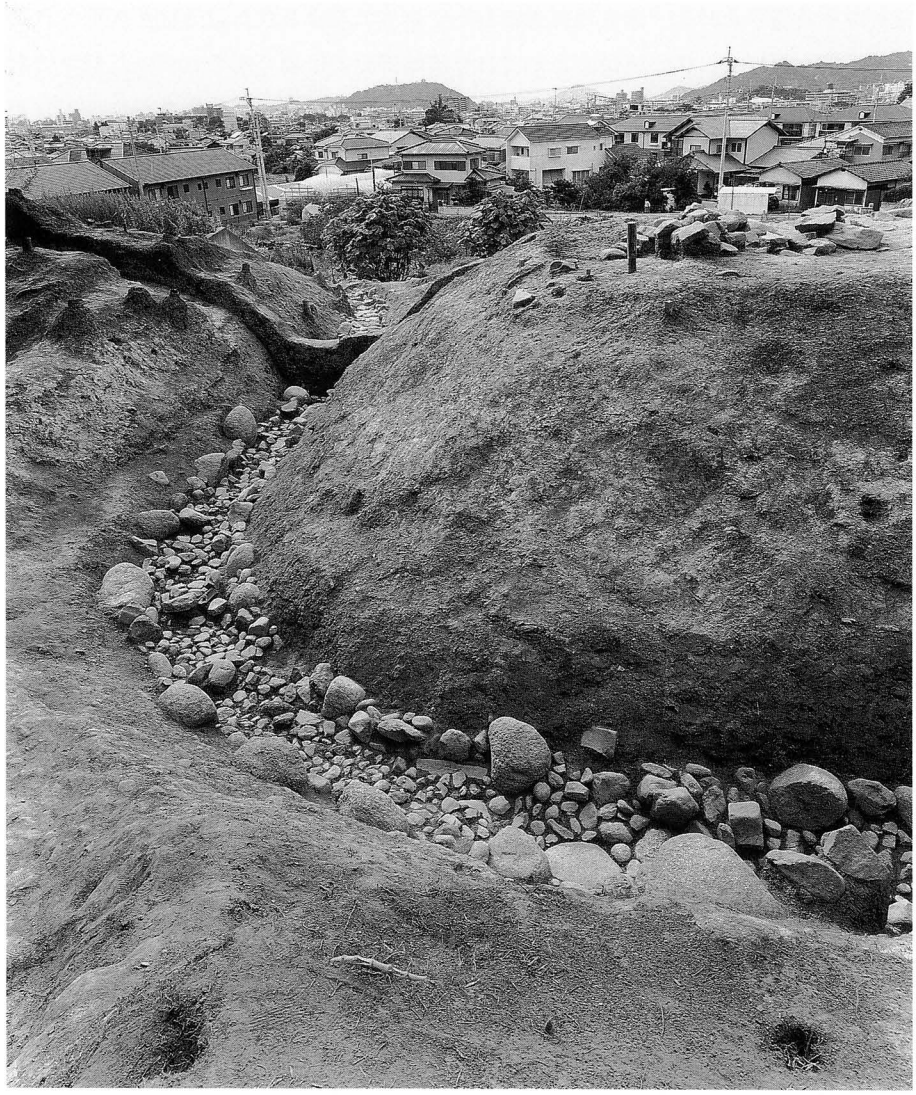


写真１　排水路001完掘状況（東より）

写真２　調査地全景（西より）

写真３　11号墳と江戸時代の遺構（北北西より）

写真４　11号墳第１石室床面検出状況（南より）

写真５　石室の重複状況（南より）

写真６　第１石室階段状石積みと第２石室墓道（南より）

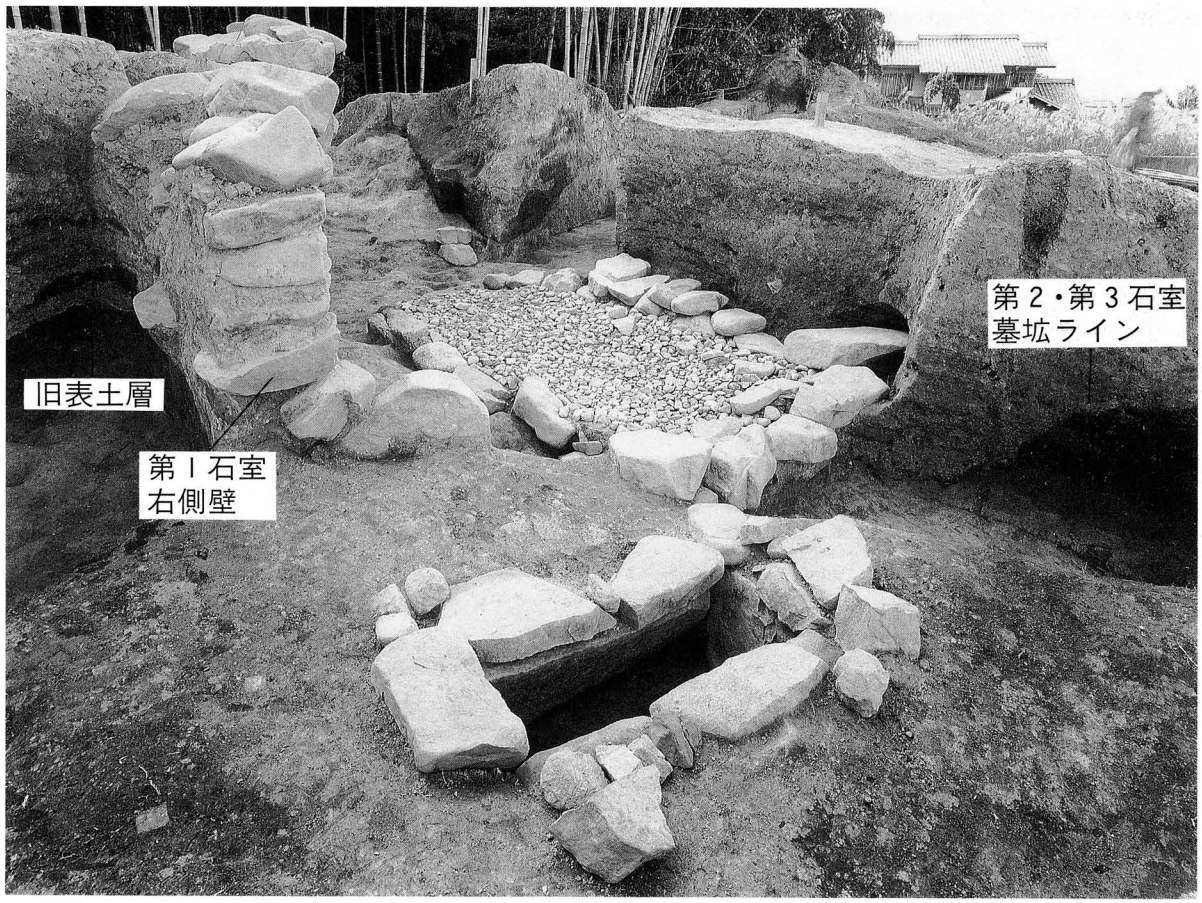



写真７　第３石室と第１・第２石室（北より）

# 樽味高木遺跡４次調査地

タルミタカギ

所在地　松山市樽味２丁目278-1・5
期　間　平成７年10月11日～
　　同年12月11日
面　積　462㎡
担　当　河野史知・相原秀仁

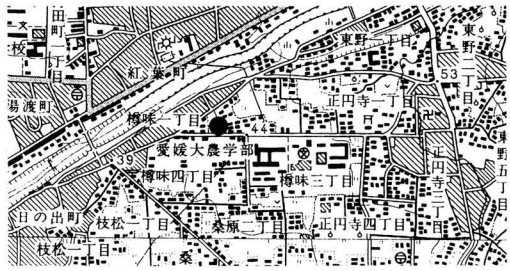



図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「№81 樽味遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は石手川左岸の洪積世扇状地上の標高41ｍ前後に立地する。周辺ではこれまでに樽味遺跡（愛媛大学農学部）をはじめ、樽味四反地遺跡、樽味立添遺跡、樽味高木遺跡１～３次調査、東本遺跡など数多くの調査が行われ、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が多数検出されている。特に調査地の北東約150ｍの樽味立添遺跡では、中国古代貨幣である『貨泉』が中四国では初めて出土している。また、南方約40ｍの樽味高木遺跡３次調査においては「船」を描いた線刻画土器など貴重な資料が出土している。

**遺構・遺物**　基本層位は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層黄灰色シルト（地山とよばれるものであり、この面において遺構を検出した）である。

検出された遺構は主に、古墳時代から近世までのものである。古墳時代は土坑８基、柱穴12基を検出している。ＳＫ２は平面形は円形、断面形は皿状を呈し推定直径3.6ｍを測る。ＳＫ３はＳＲ３に大半を切られた状態で検出した。残存状況は一辺が約４ｍの隅丸方形プランの様相を呈している。出土遺物は、上面より須恵器の高坏、ガラス玉が出土している。古代は自然流路３条、土坑４基を検出しており、ＳＲ３の床面よりＳＲ１・２を検出した。石手川の支流とみられるＳＲ１・２は調査区西側にて合流している。ＳＲ１内から多数の礫が検出された。近世は柵列１条、土坑２基、集石遺構１基、溝３条、柱穴６基を検出しており、この集石遺構上面より藁で束ねられた寛永通寶10枚（古寛永１枚、新寛永８枚、不明１枚）が出土している。

**小結**　古墳時代の土坑であるＳＫ２は規模・残存状況より円形の竪穴式住居址、ＳＫ３・９は隅丸方形の竪穴式住居址の可能性が考えられる。古代においては、８世紀代の集落に関連する土坑はＳＲ１・２が機能する以前に埋没したことが考えられる。ＳＲ１は暗渠状の施設があったことも想定できる。その後、氾濫によりＳＲ１・２が崩壊し、大きな自然流路ＳＲ３が形成されたのであろう。このＳＲ３は、８世紀中頃まで機能していたことが推測できる。なお、自然流路内からは線刻画土器が出土している。この土器は弥生時代後期に属する広口壺の口縁部内面に、格子状の広がりをもつ線刻がなされており、これが何を意味しているか現在のところ不明である。

近世の溝に付随する柵列、その柵列に直交する円形の土坑（ＳＫ01・02）や集石遺構（ＳＸ01）の関連性も含め、その性格を探ることが、今後の整理上での課題となるものである。　（河野）

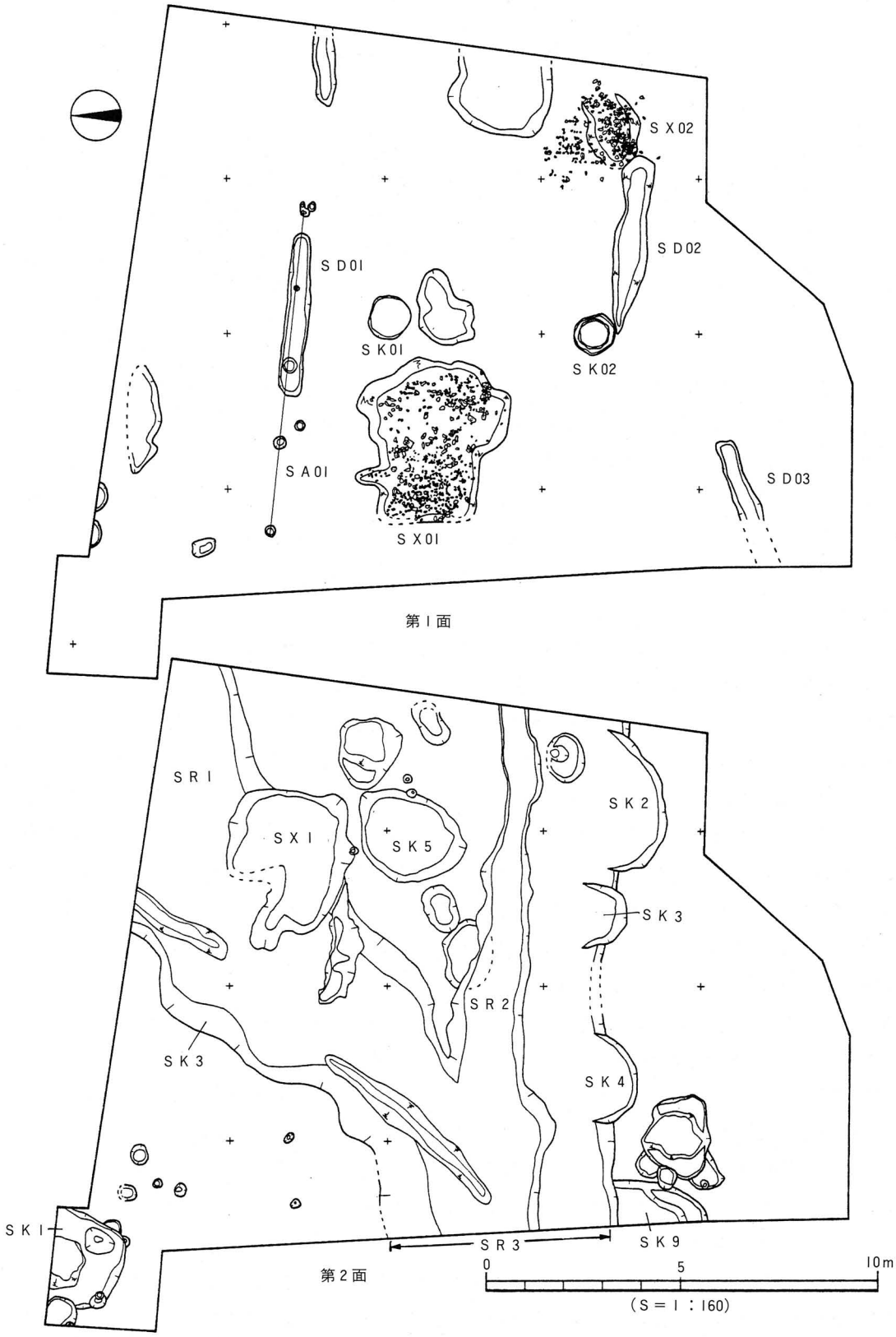
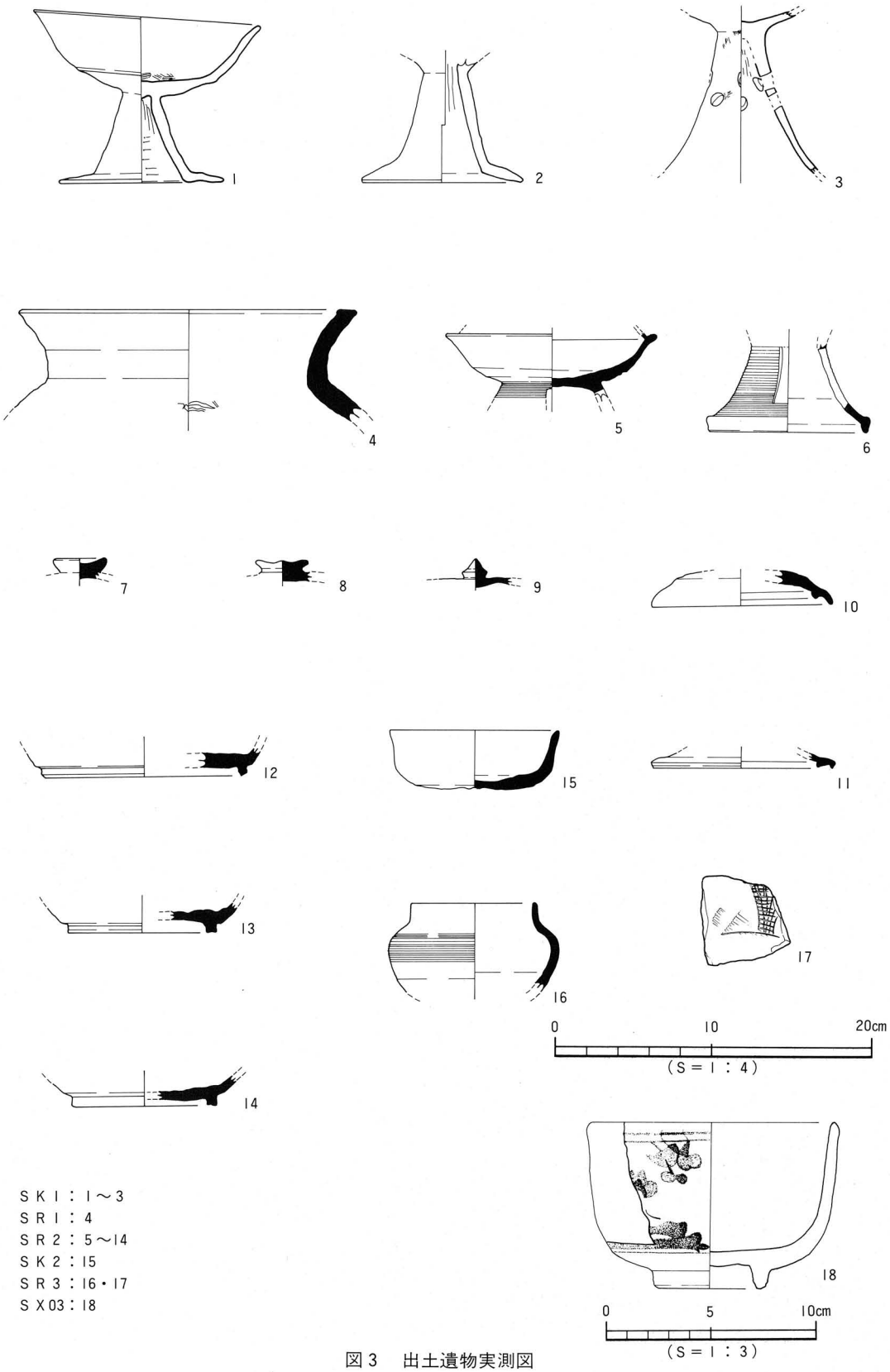

S X02
S D02
S D01
S K01
S K02
S A01
S D03
S X01
第１面
S R 1
S X 1
S K 5
S K 2
S K 3
S R 2
S K 3
S K 4
S K 1
S R 3
S K 9
第２面
0
5
10m
(S＝1：160)

図２　遺構配置図




ＳＫ１：１～３
ＳＲ１：４
ＳＲ２：５～14
ＳＫ２：15
ＳＲ３：16・17
ＳＸ03：18

図３　出土遺物実測図

写真１　ＳＲＩ礫出土状況（北東より）

写真２　第２面遺構完掘状況（北東より）

クワバラタナカ
# 桑原田中遺跡３次調査地

所在地　松山市桑原５丁目559-2、-4
期　間　平成７年11月10日～
　　平成８年１月12日
面　積　896㎡
担　当　山本健一・武正良浩

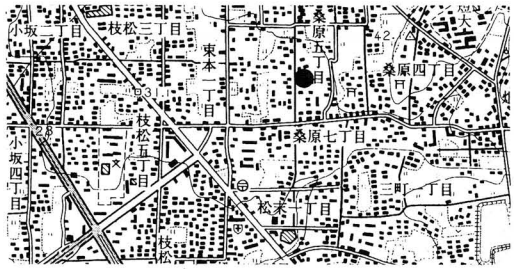


図１　調査地位置図

**経過**　本調査は「No.82 東本遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。本調査に先立つ試掘調査の結果、土坑状遺構、溝、柱穴、土師器、須恵器等、古代から近現代にかけての遺構及び遺物を確認した。そのため、当該地における遺跡の取り扱いについて文化教育課と地権者は協議を行い、開発によって失われる遺跡について、記録保存のために発掘調査を実施することとなった。

本調査地に近接する桑原田中遺跡１次及び２次調査地からは、掘立柱建物址、土坑、溝等が確認されている。よって本調査は弥生時代から中近世にわたる集落構造解明を主目的とした。

**遺構・遺物**　検出した遺構は掘立柱建物址１棟、溝10条、土坑10基、柱穴59基、性格不明遺構８基である。掘立柱建物址は調査区南側中央に所在しており、10基の柱穴を確認した。規模は、２×４間の東西棟で桁行長7.7ｍ、梁行長3.3ｍを測る。柱穴プランは、楕円形と不整円形である。各柱穴とも埋土は灰茶色土で柱痕は確認されなかった。なお各柱穴の基底部からは根石が検出されている。出土遺物は、柱穴（ＳＰ６）の基底部から銭貨が一枚検出された。腐食の為、銭文の判読は不可能であった。また検出された土坑10基の内４基から土師質土器の坏が出土した。

**小結**　本調査において検出された遺構・遺物は、概ね３時期に分けられる。

１．中世　土坑ＳＫ10からは土師質土器の坏、皿、小皿がセットで出土した。松山平野の土師質土器編年を考える上で好資料（一括資料）となるものである。また、ＳＫ７、８、９からは同形状の土師質土器の小皿が１点ずつ出土している。

２．中近世　遺構の切り合い関係から土坑ＳＫ７、８、９、10より後出するのが１号掘立柱建物址である。柱穴から銭貨が出土したことより建立時に「地鎮め」の祭祀が行われた可能性がある。

３．近現代　調査区内において随所に粘土の抜き取り痕が見受けられた。しかし、詳細な時期については不明である。　（武正）

図２　基本層位図（Ｓ＝１：40）

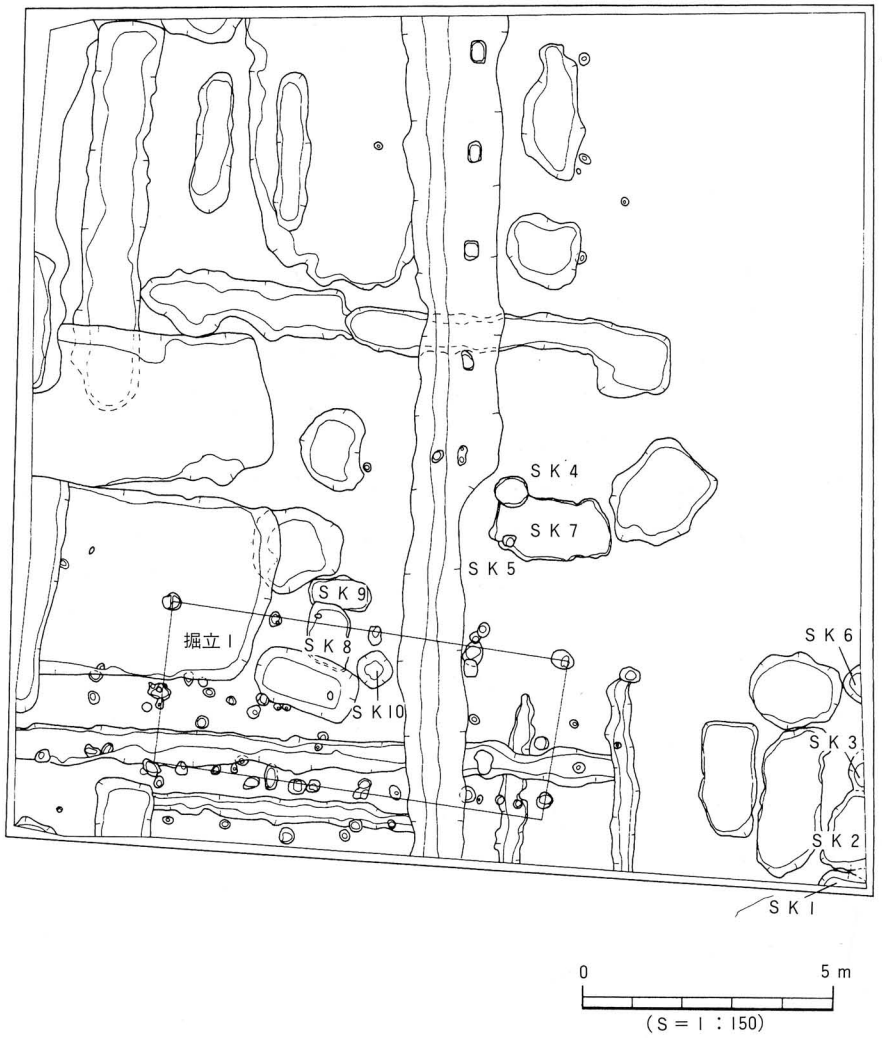



図３　遺構配置図

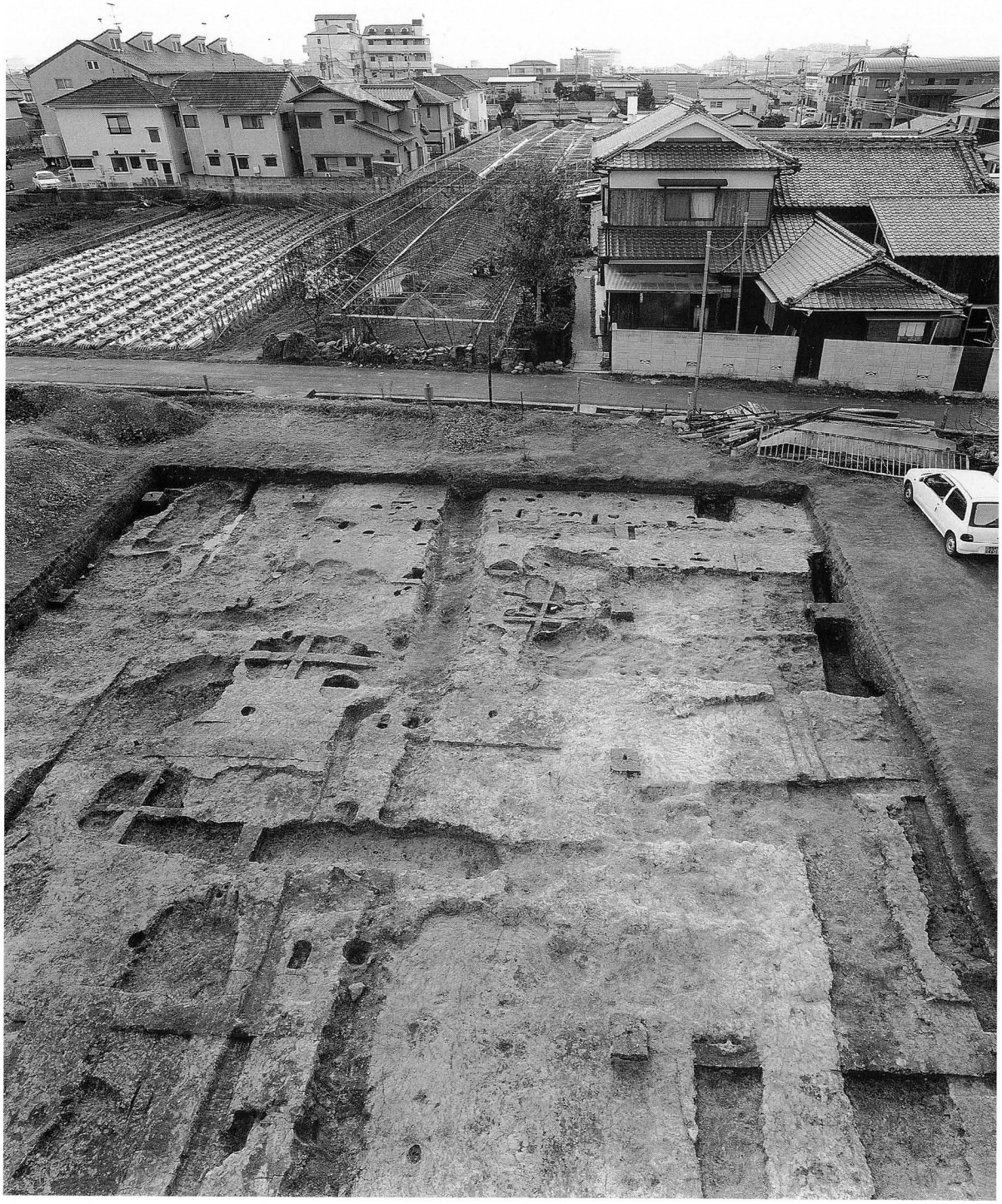


写真１　完掘状況（北より）

写真２　調査区南側完掘状況（北より）

写真３　掘立Ⅰ（西より）

# 釜ノ口遺跡８次調査地

所在地　松山市小坂４丁目1-28-1-1、2他
期　間　平成７年12月１日～
　　平成８年３月21日
面　積　1,485㎡
担　当　山本健一・相原秀仁

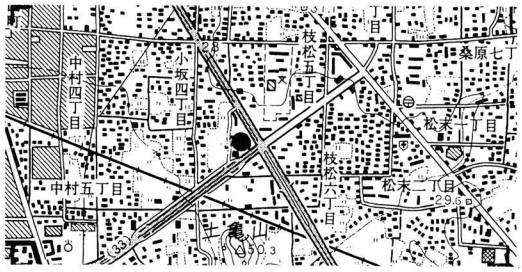


図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、民間の土地開発に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.113 枝松５丁目遺物包含地」内にあたり、周知の遺跡として知られている。

本遺跡周辺では、東本遺跡・拓南中学校遺跡・中村松田遺跡などの調査が実施されており、弥生時代の集落が存在していたことが明らかになっている。調査は、枝松・小坂地区の広い範囲にみられる集落の西南地域の広がりや集落構造の解明を主目的に実施された。

**遺構・遺物**　調査地は、石手川左岸の標高26.0ｍ前後に立地し、調査以前は水田と駐車場であった。遺構や遺物は地表下20cm～30cmの間で確認された。

調査地の基本層位は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層旧耕作土、第Ⅳ層包含層（中世）、第Ⅴ層－ａ暗灰黄色土、第Ⅴ層－ｂ灰黄色土、第Ⅵ層茶褐色土、第Ⅶ層－ａ浅黄色土（ＡＴ火山灰２次堆積）、第Ⅶ層－ｂ乳褐色土（ＡＴ火山灰１次堆積）、第Ⅷ層オリーブ灰色土である。遺構は第Ⅵ層上面で検出した。

検出された遺構は、弥生時代から中世までのもので竪穴式住居址４棟、掘立柱建物址２棟、土坑１基、貯蔵穴１基、溝７条、柱穴31基他である。

ＳＢ２は、直径約5.5ｍの円形竪穴式住居址で、３カ所に張り出し部が設けられた花弁型住居の可能性が考えられる。この住居の主柱穴は５本柱で構成され、内部施設として中央部に炉をもつものである。このような平面形の住居址は、県内でも数例しか確認されておらず非常に珍しいものである。ＳＢ３は隅丸方形を呈し、１辺約５ｍ規模のもので内部施設として中央部に炉が設けられている。なお、住居内からは焼土や炭化材が検出された。柱穴の数よりこの住居は４本柱で建っていたと考えられる。また、柱材が柱穴から良好な状態のままで出土している。両者の竪穴式住居址からは弥生土器、石庖丁、ガラス玉が出土している。

ＳＫ１は円形の土坑で直径74cm、深さ46cmを測る。遺物は、弥生時代後期の甕形土器の他に種子、果実の核、炭化米が出土した。これらの遺物から貯蔵穴と考えられる。

遺物の中で特に注目されるものの中にＳＤ３出土の破鏡（中国鏡）がある。鏡の大きさは6.1cm×1.1cm、厚みが2.55mmであった。

**小結**　今回の調査で弥生時代後期の集落が広い範囲で存在することが明らかになった。さらに破鏡が出土したことにより、弥生時代後期における松山平野の主要な集落のひとつであることを確認することができた。ＳＢ２の張り出し部の機能については判然としないが、弥生時代の住居構造研究の上で、貴重な資料を得ることができた。またＳＫ１出土の植物遺体、住居の炭化材、柱材、土壌の分析をすることにより、当時の食生活や自然環境が復元されるものと思われ、現在調査中である。　（相原）

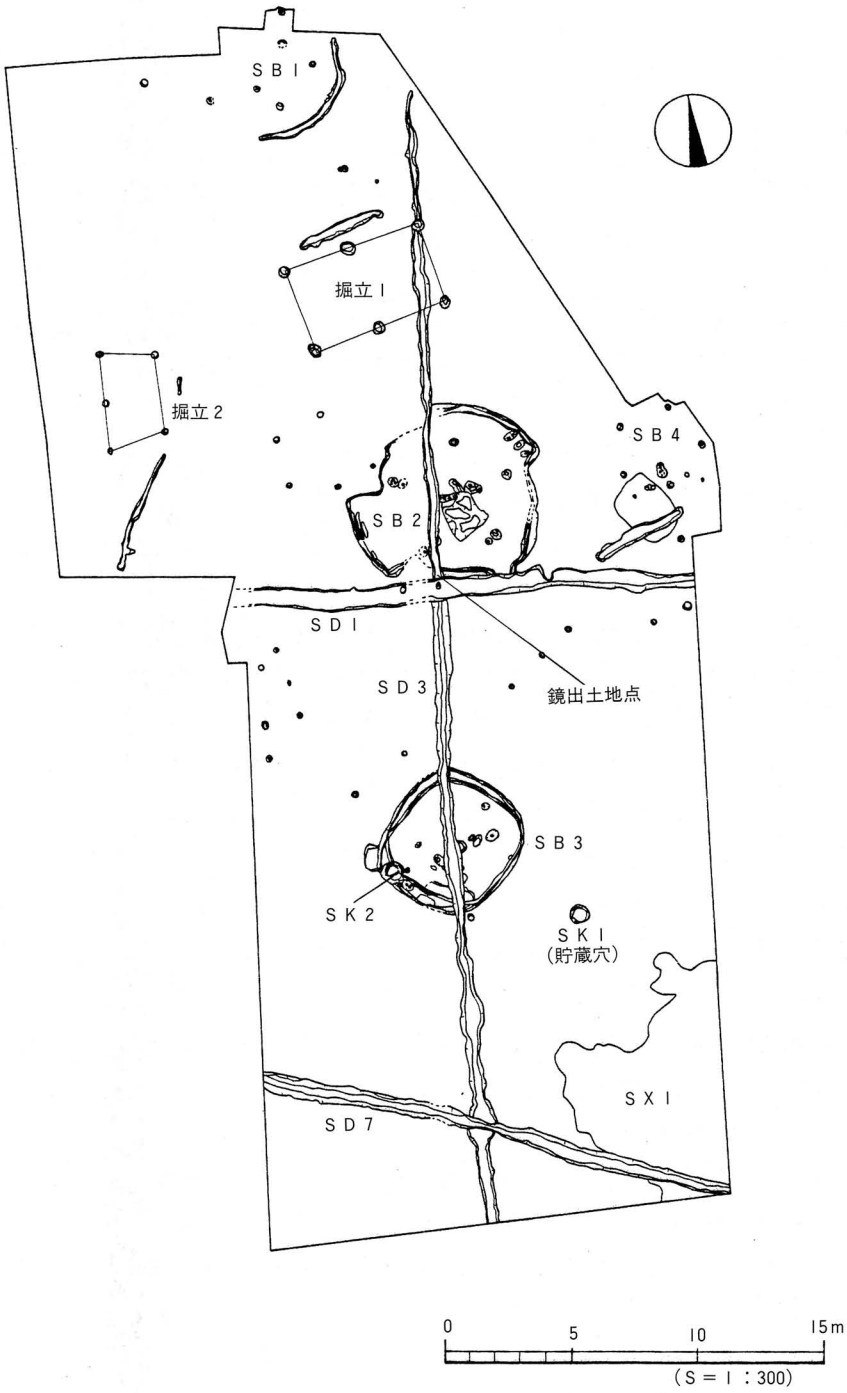

ＳＢ１
掘立１
掘立２
ＳＢ４
ＳＢ２
ＳＤ１
ＳＤ３
鏡出土地点
ＳＢ３
ＳＫ２
ＳＫ１
（貯蔵穴）
ＳＸ１
ＳＤ７
0
5
10
15m
（Ｓ＝１：300）

図２　遺構配置図

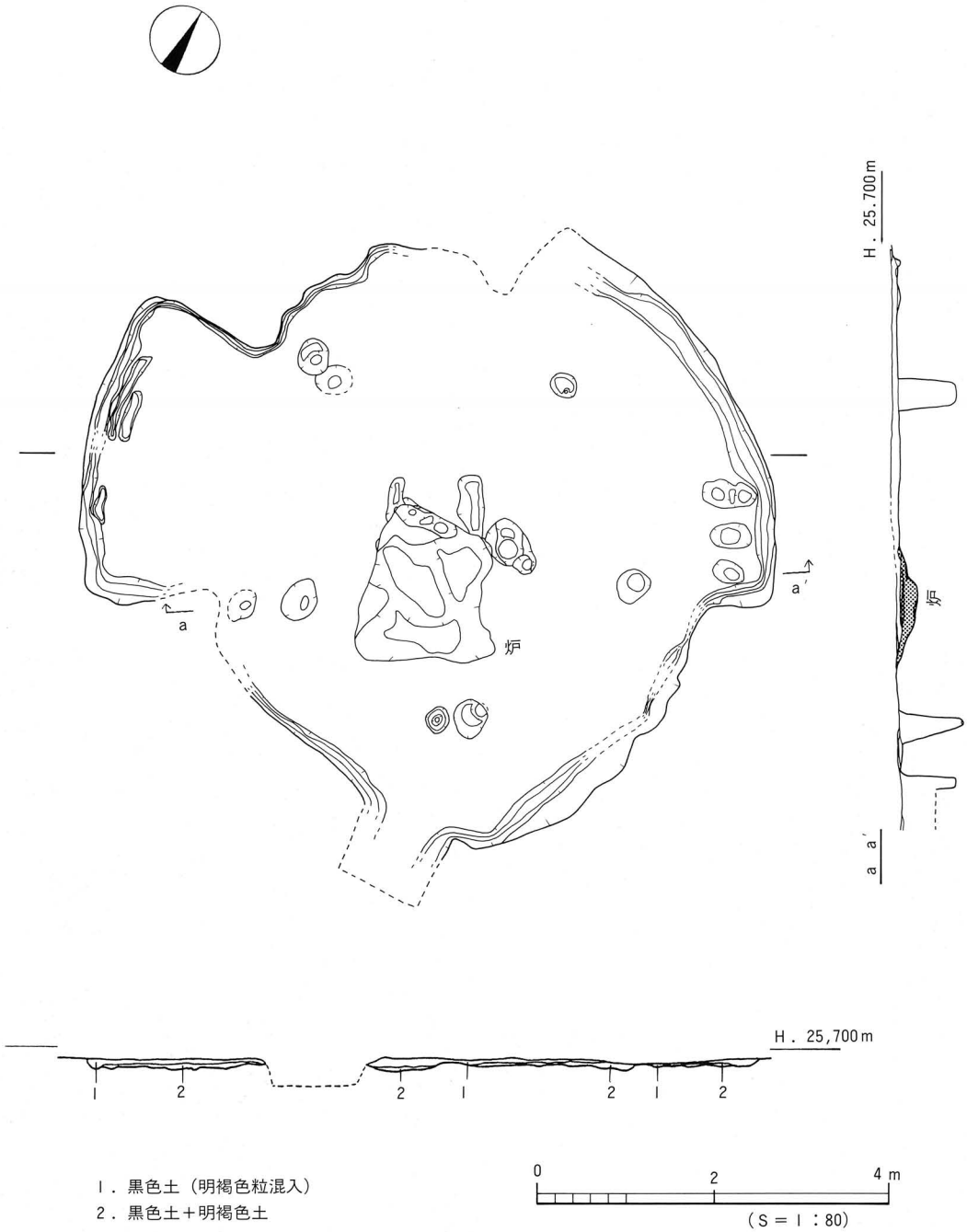



図３　ＳＢ２測量図

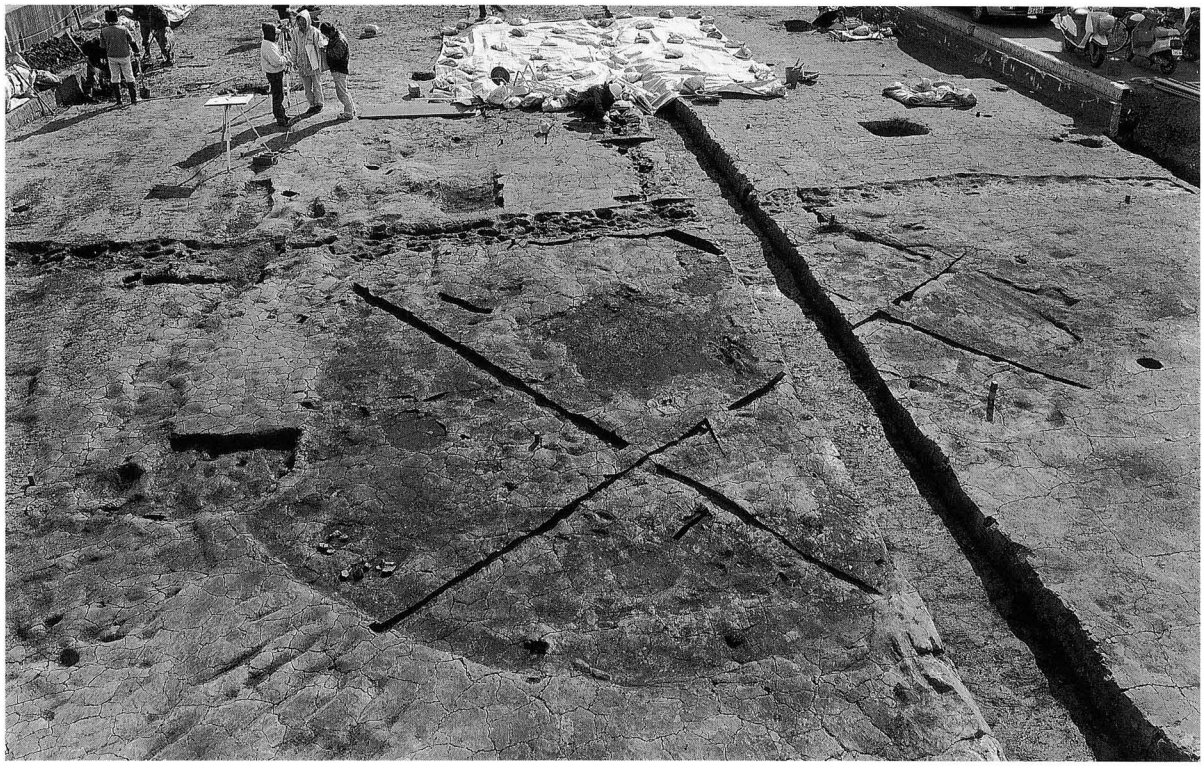


写真１　ＳＢ２貼り床検出状況（北より）

写真２　ＳＢ３貼り床検出状況（北より）

# 石井幼稚園遺跡２次調査地

（イシイヨウチエン）

所在地　松山市西石井町4-1
期　間　平成７年４月24日～
　　同年７月４日
面　積　884㎡
担　当　梅木謙一・宮内慎一
　　水本完児

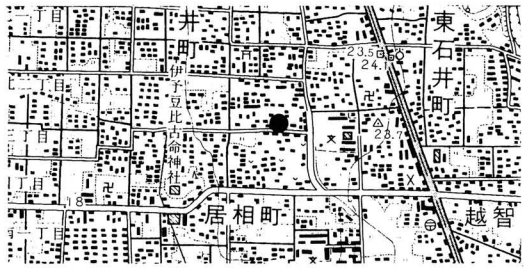



図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、西石井町に所在する石井幼稚園の運動場建設に伴う緊急調査である。調査地は松山平野中央部に広がる重信川の氾濫原上、海抜21ｍに立地する。石井幼稚園遺跡（栗田茂敏1994）は1985年に１次調査が行われ、古墳時代から中世の遺構・遺物が検出され、同時代の集落の存在が明らかになっている。

**遺構・遺物**　調査地の基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土＋水田床土）、第Ⅱ層黒色シルト（包含層）、第Ⅲ層黄褐色シルト（包含層）、第Ⅳ層黒褐色シルト、第Ⅴ層茶褐色砂、第Ⅵ層灰色砂礫である。第Ⅴ層と第Ⅵ層は重信川の氾濫により形成されたものである。第Ⅱ層は古墳時代の遺物包含層である。第Ⅲ層は細分され第Ⅲ①層は弥生時代の遺物を包含している。

遺構は第Ⅲ①層上面と第Ⅲ②層上面で検出した。第Ⅲ①層上面では竪穴式住居址１棟（古墳時代中期）、掘立柱建物址３棟（古代～中世）、土坑５基（ＳＫ１：中世、ＳＫ２～４：弥生時代後期、ＳＫ５：時期不明）、土器溜り１基（弥生時代後期）、柱穴81基を検出した。また、第Ⅲ②層上面では柱穴１基を検出している（図２）。

竪穴式住居址ＳＢ１は調査区外に続くが、平面形態は方形になるものと考えられる。屋内施設は貼り床を検出したが、炉・壁体溝・主柱穴は未検出であった。土坑ＳＫ２は完形品の甕２点が出土しており、貯蔵施設の性格をもつものである。１号掘立柱建物址は３間×５間の東西棟で、床面積は36㎡である。２号掘立柱建物址は３間×３間の東西棟で、床面積は約25.2㎡である。３号掘立柱建物址は南北３間、東西１間分を検出し調査区外へ続く。床面積は6.38ｍ以上である。

遺物は遺構内及び第Ⅱ・第Ⅲ①層中から出土し、弥生時代後期の土器と石器（石庖丁）、古墳～中世の土師器と須恵器、陶磁器がある。

**小結**　本調査においては弥生時代から中世に至る遺構と遺物を確認することができた。今回の調査は１次調査では確認できなかった弥生時代後期の資料を得ている。当地域に弥生時代後期の集落が存在していたことを新たに示すものである。古墳時代の竪穴式住居址ＳＢ１は、１次調査においても同時期の住居址が検出されており、当地域の古墳時代中期における集落構造解明の追認資料になるものである。古代～中世にかけての掘立柱建物址の検出は１次調査にはみられなかったものである。なお、１次調査検出の10世紀代の溝は当調査地では確認できなかった。（水本）

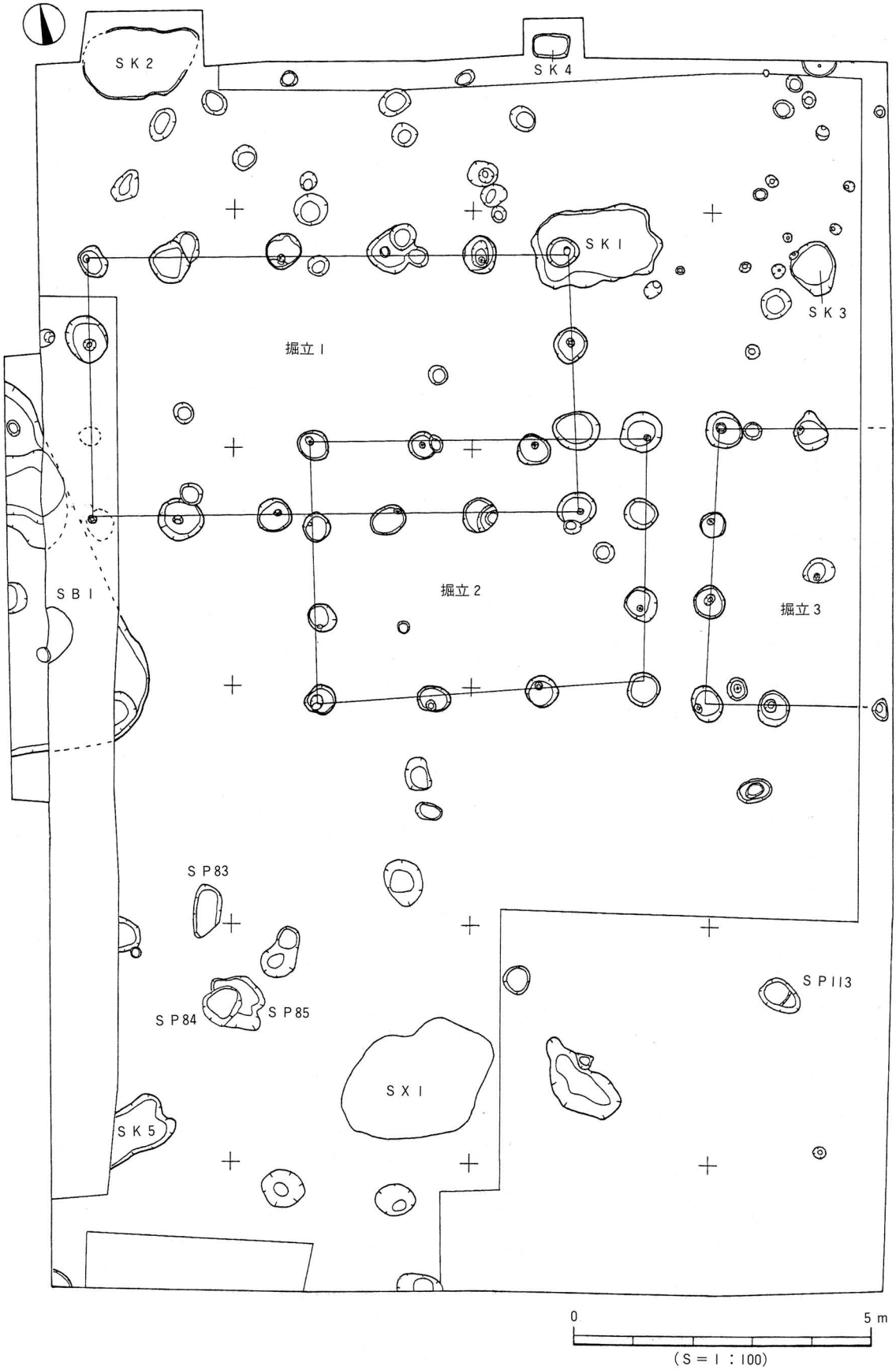

ＳＫ２
ＳＫ４
ＳＫ１
ＳＫ３
掘立１
掘立２
掘立３
ＳＢ１
ＳＰ83
ＳＰ84
ＳＰ85
ＳＰ113
ＳＸ１
ＳＫ５
0
5 m
（Ｓ＝１：100）

図２　遺構配置図

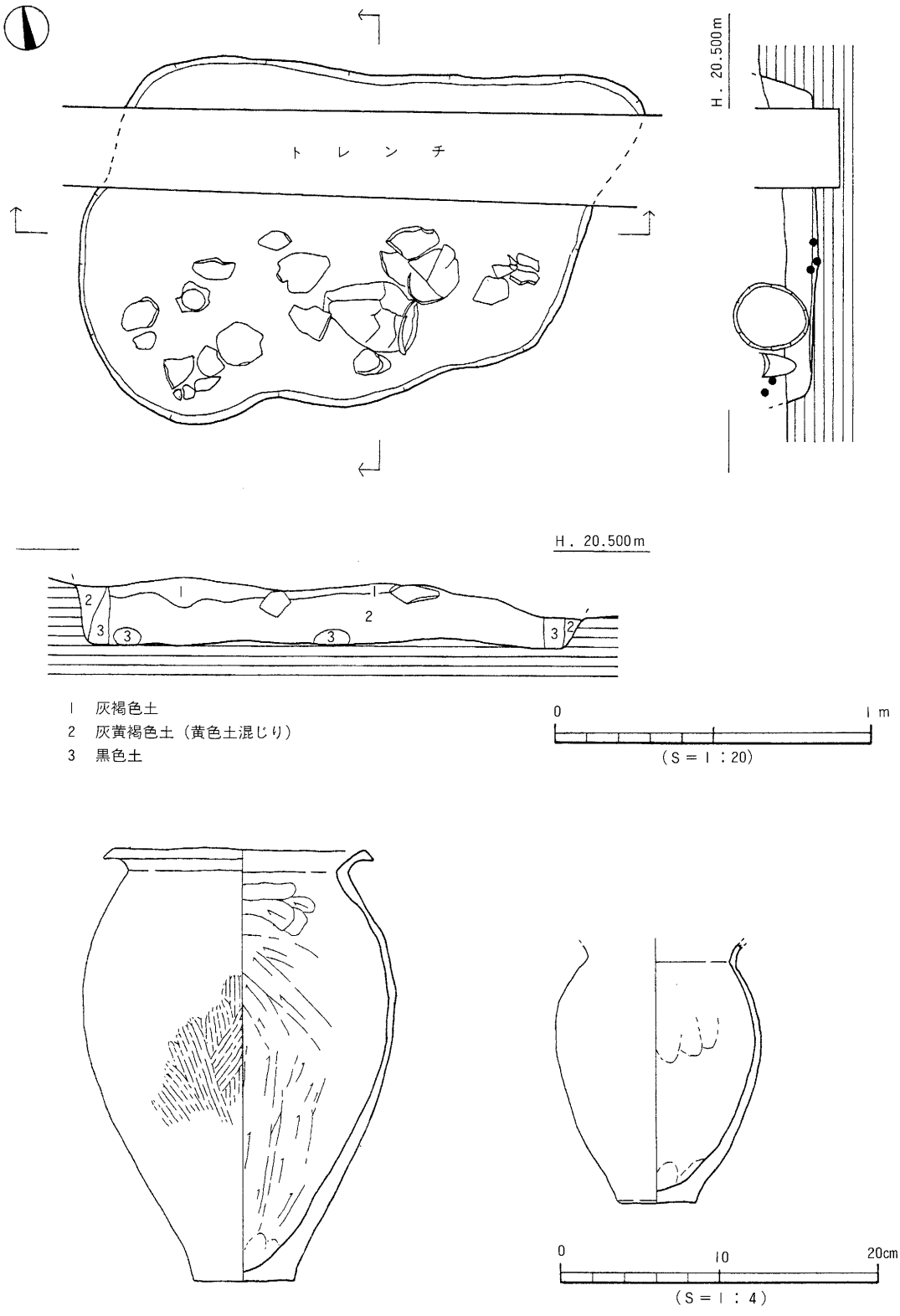



図３　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図

写真１　完掘状況（北より）

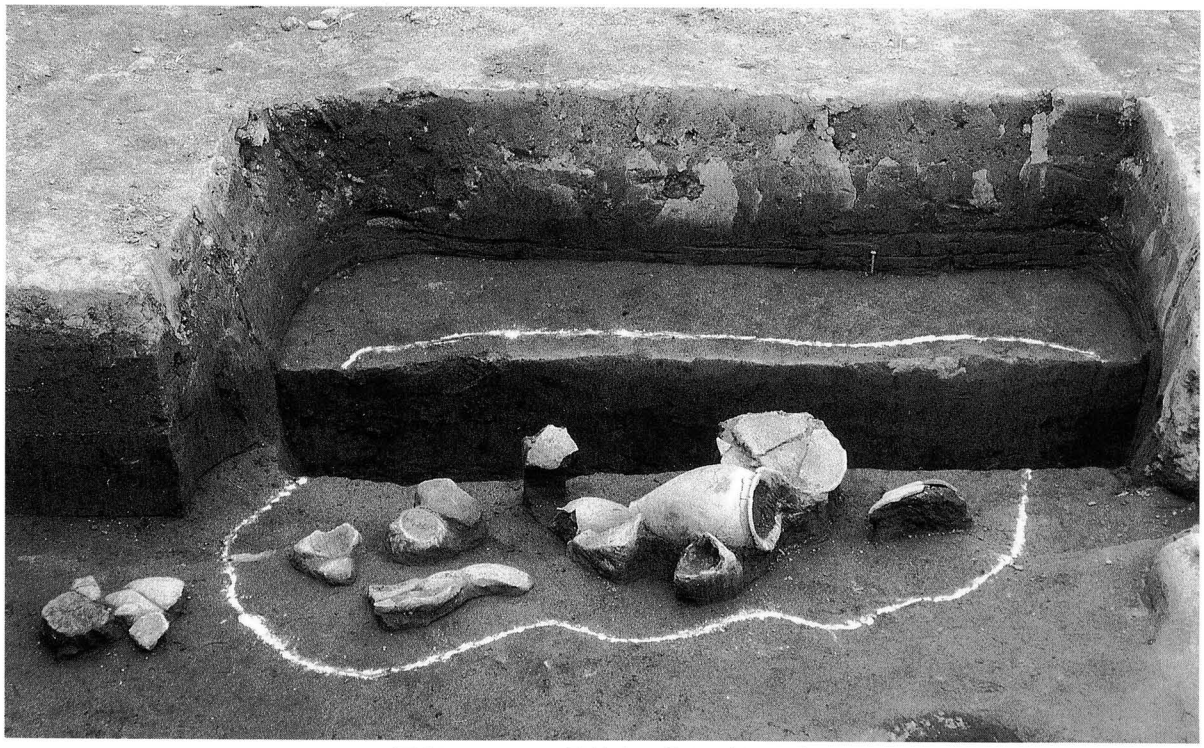


写真２　ＳＫ２遺物出土状況（南より）

# 北久米浄蓮寺遺跡５次調査地（キタクメジョウレンジ）

所在地　松山市北久米町703番地
期　間　平成８年２月15日～
　　同年３月31日
面　積　252㎡
担　当　河野史知・武正良浩

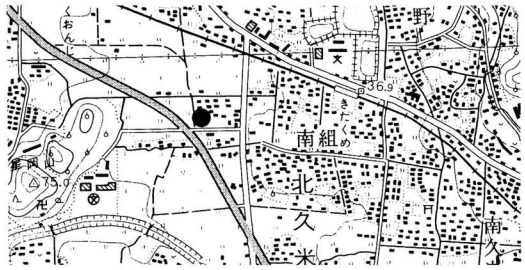


図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.124 北久米遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、来住台地から福音寺にかけての低丘陵地上の標高31.5ｍに立地する。

調査地周辺ではこれまでに、北西に国道11号線バイパス建設に伴う発掘調査や福音小学校構内遺跡、筋違遺跡、南東の来住台地には、久米高畑遺跡群、来住遺跡群など有数の遺跡地帯があり、弥生時代から古代にかけての遺構や遺物を多数検出している。また、隣接する北久米浄蓮寺遺跡１～４次調査においては古墳時代から古代に至る集落に関連した遺構・遺物を多数検出している。

**遺構・遺物**　調査地は調査以前は水田である。基本層位は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層明黄色シルト（北側は小礫を多く含む）の地山であり、旧地形は西側へ緩傾斜をしていたことが窺える。

検出された遺構は古墳時代から中世のもので、掘立柱建物址５棟、竪穴式住居址１棟、土坑１基、溝３条、柱穴28基、小穴36基、倒木痕６基、性格不明遺構５基を検出した。

竪穴式住居址ＳＢ１は、建物の大部分が調査区外へ延びており、倒木３を切り、掘立３・４に切られている。平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北5.5ｍ、東西2.2ｍ以上、壁高は10cmを測る。主柱穴、周壁溝等の施設は未検出である。

掘立２・３の主軸は真北より西へ11～12°振っており、柱穴の規模が70～100cmの大型のものに対し、掘立１・５は主軸が西へ26～39°振り、柱穴の規模が35～80cmである。他に、主軸がほぼ真北で柱穴の規模が30～65cmの小型のものに分けられる。掘立１は２×３間の南北棟であるが、他は調査区外へ延びており規模は不明である。時期決定の出来る遺物は掘立２より６世紀後半の須恵器の坏身片が出土している。

ＳＸ１は平面形が長方形で、東西に長く浅い人為的な遺構であり、床面に凹凸がみられる。

ＳＤ１は、２次調査で検出した南北の正方位を指向する区画施設である溝のつながりであり、北側は調査区外へ延びる。

**小結**　今回の調査では、当地域における古墳時代中期から中世にかけての遺構を検出した。掘立柱建物址の時期は古墳時代後期であり、掘立２・３は柱穴の大きさに比較して柱痕は小さい。ＳＸ１は、中世期における家畜の水飲み場として使用していたことも考えられる。これらのことから浄蓮寺地区で見られた集落の北西部への広がりを確認することができた。今後の課題として、掘立柱建物址の詳細な重複関係を検討する必要がある。（河野）

真北
掘立５
倒木４
倒木５
ＳＫＩ
ＳＤＩ
ＳＸＩ
ＳＢＩ
掘立１
掘立３
倒木１
倒木３
掘立４
掘立２
倒木２
0
5 m
（Ｓ＝１：120）

図２　遺構配置図

写真１　遺構検出状況（南東より）

写真２　遺構完掘状況（東より）

写真３　ＳＢＩ完掘状況（北より）

写真４　掘立２～４完掘状況（北より）

# 乃万（ノマ）の裏（ウラ）遺跡２次調査地

所在地　松山市北久米町773-1外
期　間　平成７年７月17日～
　　同年11月24日
面　積　2,475㎡
担　当　栗田茂敏・加島次郎・小玉亜紀子

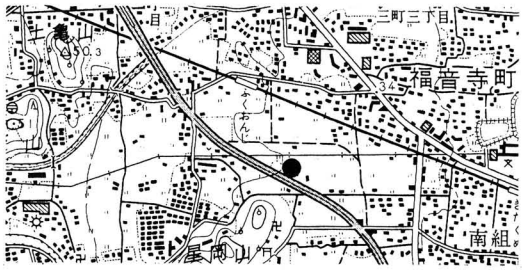


図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.116 川付遺物包含地」内にあたり、周知の遺跡地帯として知られている。本調査地は、松山平野の主要河川である重信川の中流右岸を東から西へ流れる川附川や小野川によって形成された扇状地間の洪積台地上の標高27ｍ前後に立地する。同包蔵地内ではこれまでに、福音小学校構内遺跡や筋違遺跡（Ａ～Ｊ）など多くの調査が実施されている。また、調査地の東には５世紀～７世紀段階の集落遺跡である北久米浄蓮寺遺跡が位置している。既往の調査成果から、当地周辺では弥生時代から中世にかけての集落遺跡が存在していたことが明らかとなっている。本調査は、弥生時代から中世にわたる集落関連遺構の広がりと、各期の集落構造の解明を主目的に実施した。

**遺構・遺物**　調査地は、調査以前は耕地整備された水田であった。基本層序（図２）は、第Ⅰ～Ⅲ層までが現在の水田にかかわる土層であり、地表下40～60cmまで開発が及んでいる。この第Ⅲ層までを重機による掘削で除去している。

第Ⅳ層（灰褐色土）は弥生～中世の遺物包含層であり、層厚15～20cmを測る。本層上面で、中世以降の比較的新しい時期の遺構を検出している。第Ⅴ層（黒褐色シルト質土）は弥生後期～古墳時代の遺物包含層であり、層厚30～35cmを測る。本層上面で古墳～中世の遺構を多数検出した。第Ⅵ層（黄褐色シルト質土）は「地山」と呼ばれる層であり、人力によって深掘りをおこなったが遺物は出土しなかった。本層上面では弥生～古墳時代を主体とする遺構と旧河川を検出した。なお、第Ⅴ層の調査中に、遺物集中地点（ＳＸ５）を検出し多量の遺物を確認している。

弥生時代の主要遺構は、区画溝（ＳＤ10）、遺物集中地点（ＳＸ５）、旧河川（ＳＲ１）である（図３－１期）。ＳＤ10は、遺存は良好ではなく、後述するＳＤ11に大きく切られる。幅６ｍ以上を測り、埋土から判断して、恒常的に流水があったとは考え難い。遺物は、土器が溝の西端から比較的まとまって出土した。ＳＸ５は、面的に遺物の集中が認められたところである。遺物は、調査区東端付近で11ｍ×７ｍの範囲に集中しているが、遺物に伴う人為的な掘り込みは認められない。遺物は、拳大の円礫とともに多量の破砕した土器が出土した（図４）。甕と壺を主体として鉢、高坏、器台、支脚が伴う。ＳＲ１は、東西に走る幅10ｍを越える旧河川である。洪積台地端に沿うかたちで旧河川が東西方向に流れていたと考えられる。旧河川埋没土である砂礫土からは、磨滅の著しい弥生土器片、土師器片、須恵器片等が多量に出土したが、その多くは小破片であった。このことからＳＲ１は弥生後期から古墳後期にかけて機能していたと理解できる。ＳＤ10、ＳＸ５は弥生後期後半段階に位置付けられる。

古墳時代の主要遺構は、区画溝（ＳＤ９・ＳＤ11）、性格不明遺構（ＳＸ12・ＳＸ13）、ＳＲ１であ

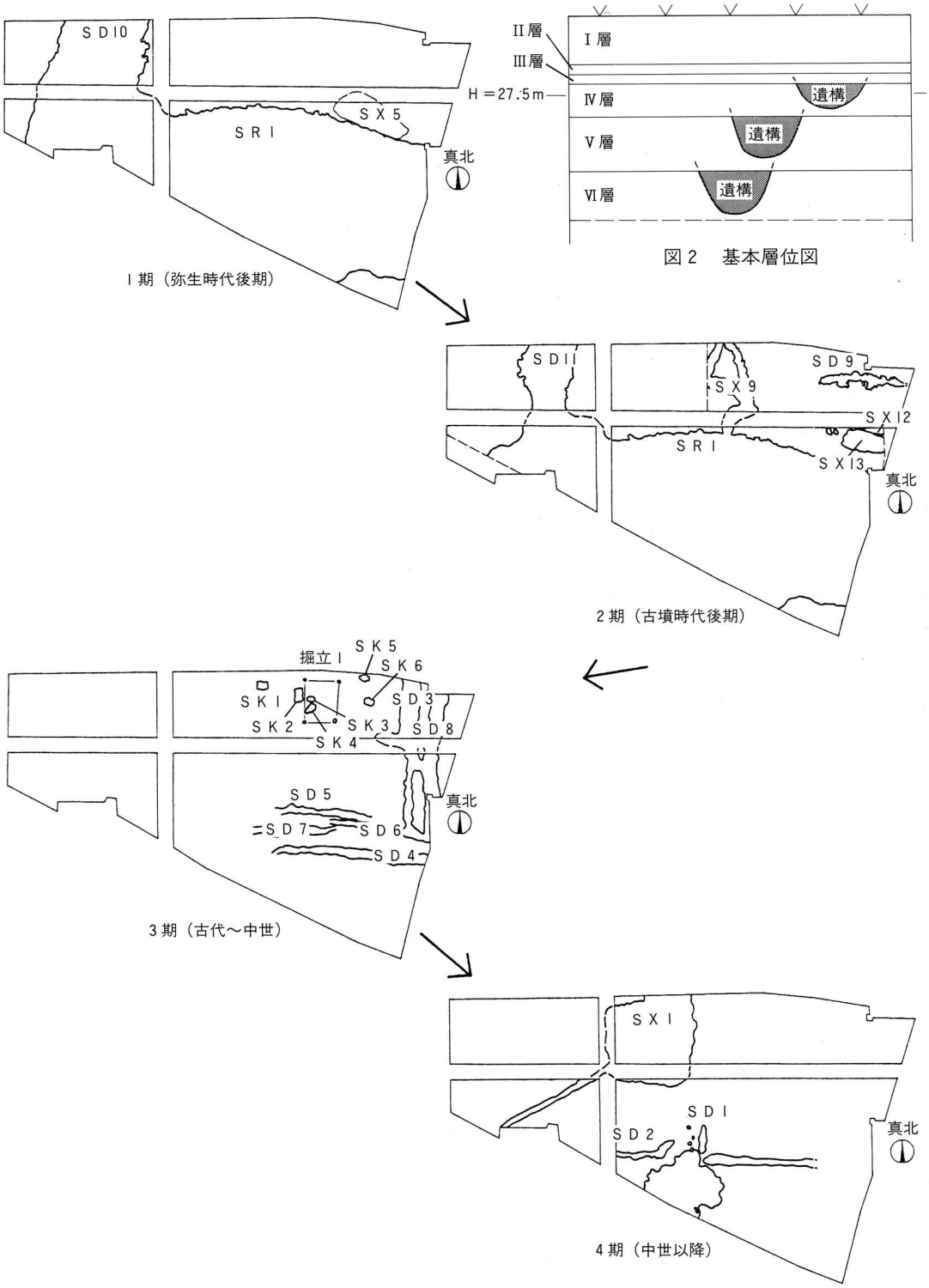



図３　遺構の変遷図　（S＝1：320）

る（図３－２期)。ＳＤ11は幅1.4～5.6ｍを測り一定していない。埋土は拳～人頭大の円礫を含む砂礫土で構成されており、洪水のような土石流的な流れによって本遺構が埋没したと考えられる。埋土中から磨滅した弥生土器片、土師器片、須恵器片が出土し、特に須恵器片が多く認められた。また、完存で出土した翡翠製の丁字頭勾玉は注目すべき遺物として挙げられる。性格不明遺構は、いずれも須恵器片が多量に出土した不整形の土坑状の遺構である。これらの古墳時代の遺構は、６世紀後半～７世紀段階に位置付けられる。

古代～中世の遺構は、１号掘立柱建物址（掘立１)、土坑群（ＳＫ１～６)、小溝群（ＳＤ３～８）である（図３－３期)。掘立１は、梁間、桁行ともに１間の建物である。梁間2.4ｍ、桁間3.1ｍと小規模である。建物を構成する４基の柱穴からは出土遺物が認められず、埋土と規模から時期を想定している。土坑群は、調査区の中央北寄りに６基を検出している。形態や規模に大きな差異は認められず、また、分布範囲が限定するが、切り合い関係にはないことから計画的に構築されたことが考えられる。土坑に伴う遺物はわずかしかみられないことから、遺構の時期や性格を特定することは困難である。小溝群は幅１ｍ前後の規模を有する。南北方向を指向する溝は、田畑に水を引く小規模な水路の可能性がある。ＳＤ３からは土師器の三足付き羽釜片が出土している。

中世以降の遺構は、第Ⅳ層上面で検出された、性格不明遺構（ＳＸ１・２)、小溝群（ＳＤ１・２)、柱穴群（ＳＰ１～６）である（図３－４期)。ＳＸ１は方形プランの土坑状遺構で、南西部に幅の狭い小溝が取り付くものである。埋土の堆積状況から２次的に埋め戻された可能性が高く、本来は溜め池として機能していたことが考えられる。

包含層からは多量の遺物が出土している。遺物には弥生土器（後期)、土師器、須恵器、瓦器のほかに、石庖丁、刀子、瓦、貿易陶磁器等があり、本調査地を含めた周辺地域が弥生後期～中世の複合遺跡として機能していたことが理解される。

**小結**　本調査において、弥生～中世にわたる遺構と遺物を確認することができた。このことは当時の人々が積極的に土地開発をおこなったことを示し、既往の調査を裏付けるものであった。弥生時代の遺構は、いずれも該期の景観ならびに集落構造を考える上で有効な資料となるものである。ＳＤ10やＳＸ５は、福音小学校構内遺跡で検出されたＳＤ３や土器溜りと有機的な関係にあるものと考えられる。これらの遺構から出土した多量の土器は、近年精力的に進められている該期の土器編年を考える上で有効な追加資料となるものである。確認された二層の遺物包含層から弥生後期と古墳後期に時期比定されるものが多く出土している。これは、多量の余剰生産物を生み出せる拠点的な集落が該期に当地周辺に存在したことを示唆するものである。さらに、古代～中世の遺構と遺物の存在は、古墳時代以降も継続して土地開発が行われていたことを示している。

なお、本調査の詳細は報告書にておこなうものとする。　（加島）

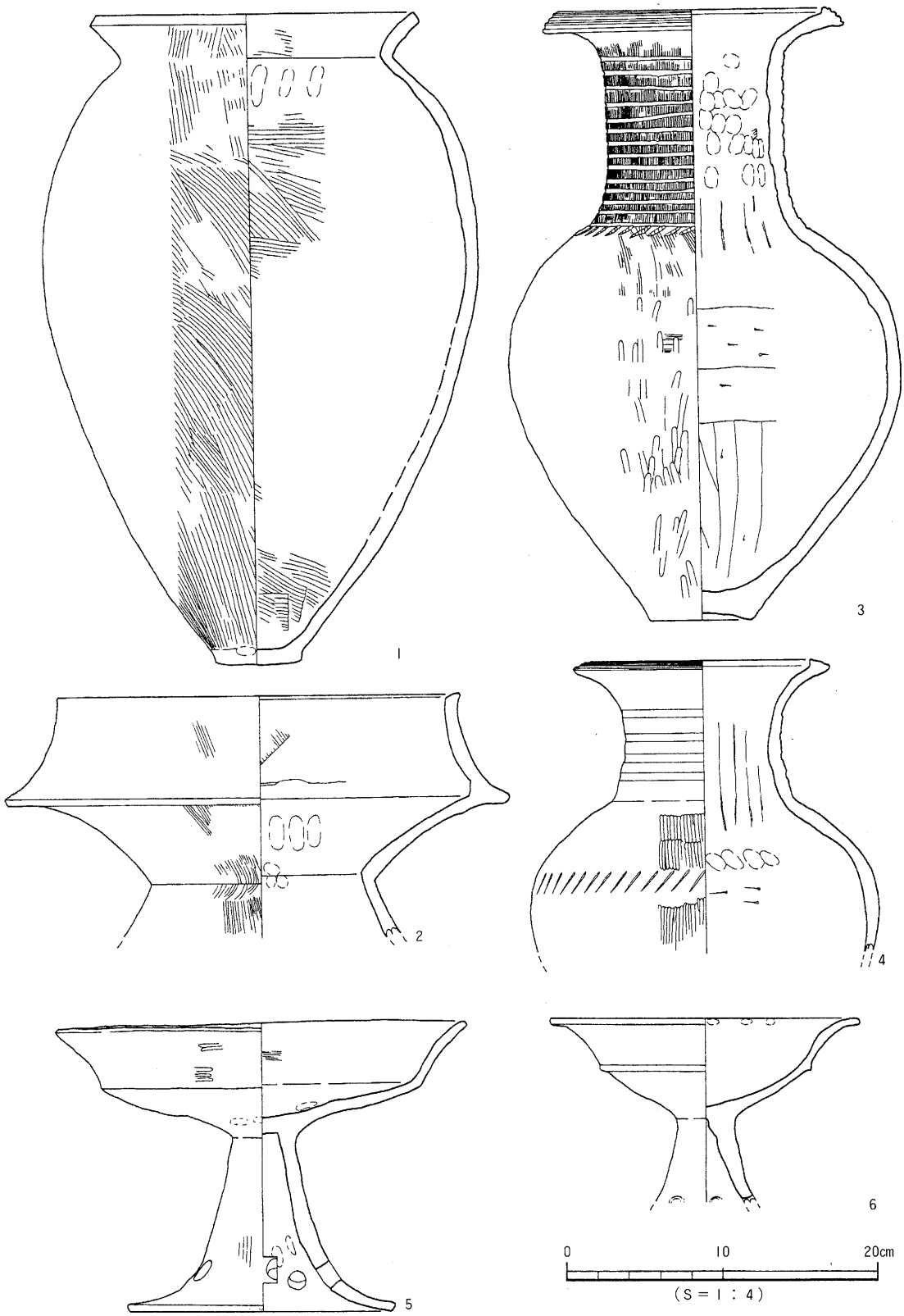



図４　ＳＸ５出土遺物実測図

写真１
ＳＸ５遺物出土状況遠景
（東より）

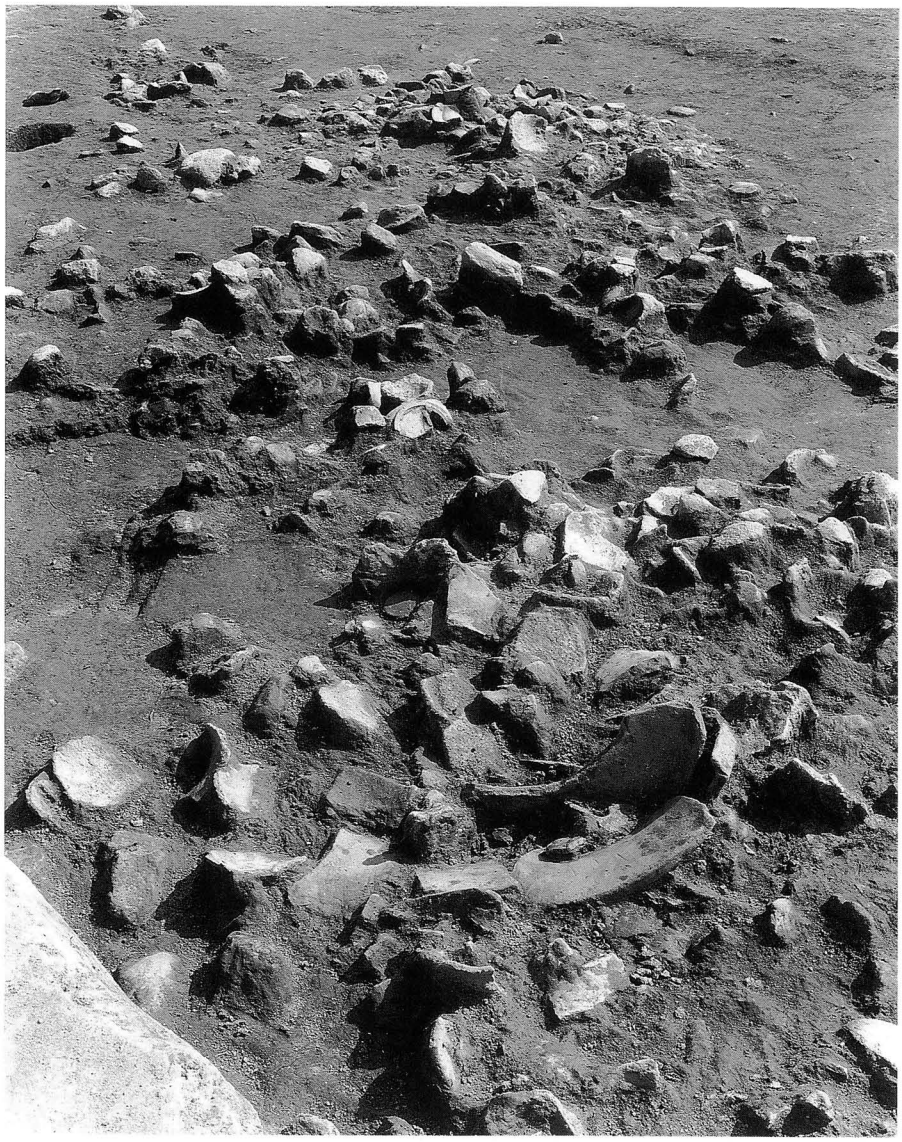


写真２
ＳＸ５遺物出土状況近景
（北西より）

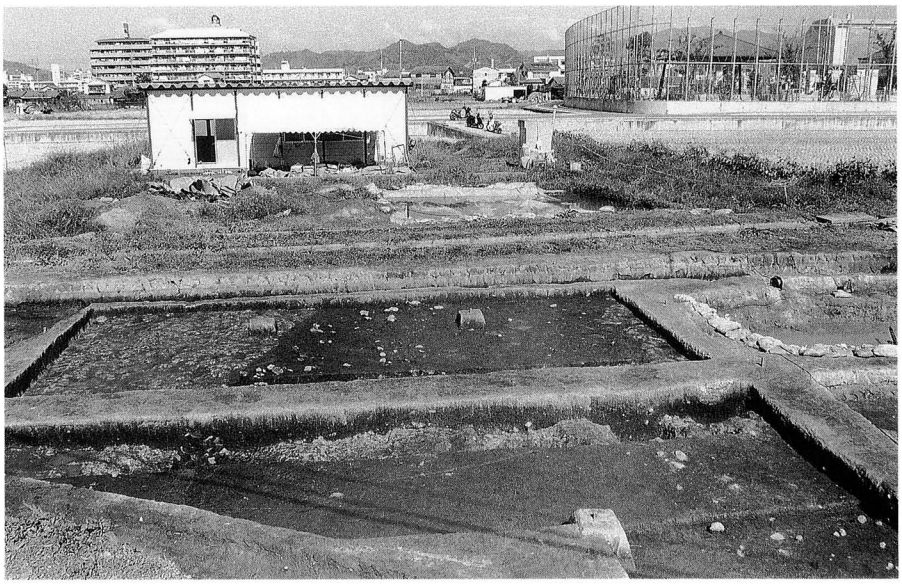


写真３
ＳＤ10検出状況
（南より）

写真４
調査地全景
（南西より）

# 久米高畑遺跡24次調査地（クメタカバタケ）

所在地　松山市南久米町723-1外
期　間　平成７年４月４日～
　　同年５月31日
面　積　約995㎡
担　当　橋本雄一・小笠原善治

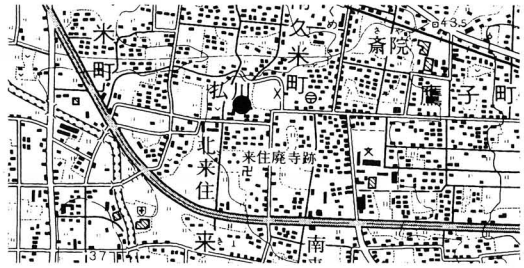


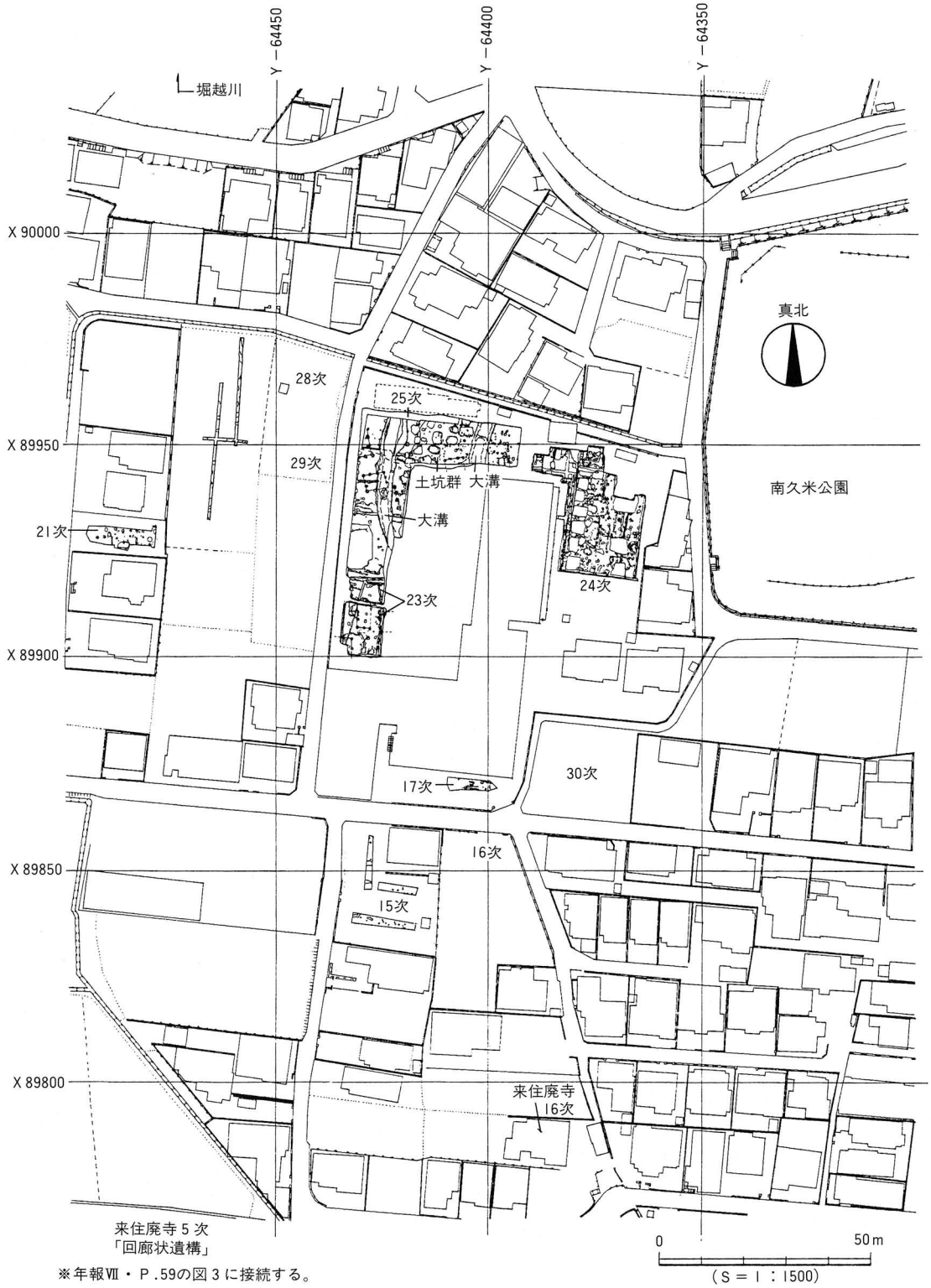
図１　調査地位置図

**経過**　病院の病棟建設に先だって、国庫補助事業として発掘調査を行った。調査地点は、平成６年度に調査を行い弥生時代の大溝が検出された同23次調査地（年報Ⅶ）の東50ｍ付近に位置する。西方約150ｍには、久米官衙遺跡群を構成する官衙関連遺構が位置しているほか、南には方一町規模の区画溝によって囲われた二重の柵列である「回廊状遺構」などが隣接している。また、付近は弥生時代の遺構・遺物の密度が高いことでも知られており、今回の調査は官衙遺跡群および弥生集落の周辺部への広がりかたを知る目的で実施された。

**遺構・遺物**　官衙遺跡群との関係を積極的に説明できる遺構や遺物は、ほとんど確認されなかった。ただし、調査区の北東部で検出された掘立001については、その方向性がほぼ正方位に対応することと、平面形状が梁間２間の東西棟であることなどから、官衙成立期前後のものである可能性が高い。調査区の南東部にも多くの柱穴が認められる事から、この時期の建物が東側隣接地にかけて広がっている可能性も考えられる。

この他、古墳時代後期の遺構としてはＳＢ001・002・003が確認された。ＳＢ003からは、６世紀後葉の須恵器の坏身の破片が出土している。住居の床面付近が僅かに遺存していたものである。ＳＢ001と002は、ともに方形で、掘り方の底面から５㎝程度の厚さに粘土質の土を貼り床された状況が確認された。壁材の痕跡は識別できなかったが、壁の押さえに使用されたと考えられる土層も確認されている。両者の間には新旧の関係があるものと考えられるが、切り合い関係が認められないことから判断できなかった。

弥生時代の遺構としては、長方形の土坑10数基の検出が特筆される。近年掘られた多数の攪乱坑の存在のため、正確な数は特定できないが10基を越えていることは確実である。最大規模のＳＫ015（図３）の場合、長軸の長さ3.6ｍ、短軸の長さ1.8ｍ、地山上面からの深さは0.4ｍで、長軸線上に一対の小ピットが掘り込まれている。この場合、ピットは土坑の下場のライン上に一致するように掘られているので、上場のラインがやや外側へ膨らんでいる状況が認められた。この一対のピットはＳＫ001においても認められるが、この場合、掘り方に接する位置もしくは、やや外側に掘り込まれている。この他にも同様のピットの存在を復元可能な土坑が有ることに加えて、過去の隣接地における調査の際にも同じ特徴を持つ土坑がいくつか検出されていることから、２本の柱によって支えられる上部構造を伴っていた可能性が考えられている。この土坑には他のものと同様に、下半部にはブロック状の地




※年報Ⅶ・P.59の図３に接続する。
※28次～30次調査は、平成８年度中に実施の予定である。

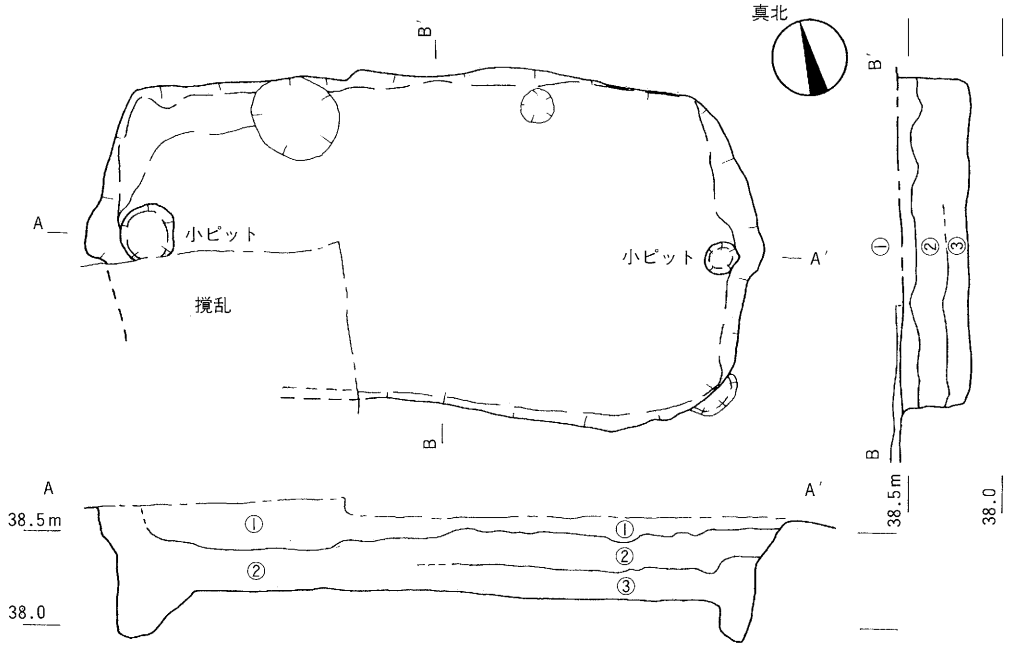
図２　調査区位置図

山混じりの土、上半部には混じりの少ないやや黒味の強い土が堆積していた。土は概ね水平に堆積しており、流れ込み状の土層が確認されたのは調査区北部に位置するＳＫ020の１基のみであった。

この長方形土坑の特徴のひとつに、比較的狭い範囲に群れた状態で検出される点をあげることができる。少なくとも７基を越える数の土坑が、調査地の西壁沿いにおいて部分的に重複するか極めて近接した状況で検出されている。一方、調査区の中央から東にはほとんど分布していない。この状況は、この土坑の性格を考えるうえで重要な視点となる可能性がある。また、その方向性について着目すると、大きく２群に区分可能である。ＳＫ015やＳＫ001に代表される長軸が東西方向のものと、ＳＫ006やＳＫ013などの南北方向を向く土坑が近接して掘り込まれているのである。これは、特定の目的のもとで、ある程度長期にわたって一定の区域が選ばれたことを示しているのではないかと考えられる。

問題となるのはその性格であるが、当該地域の一般的な住居址の床面よりも明らかに深く掘り込まれたうえ、覆い屋も伴う可能性があることから、貯蔵施設あるいは作業小屋的なものを想定しておきたい。しかし後者の場合、住居址のレベルと比較してこれほど深く掘る必要性を説明できないことから、ここでは前者の可能性を考えておきたい。なお、墓である可能性についても検討したが、そのような痕跡は一切確認されなかった。先に述べた配置の在り方も、弥生時代の墓に特徴的に認められる状況とは異なっている。

いずれの土坑からも、遺物は少量しか出土していない。

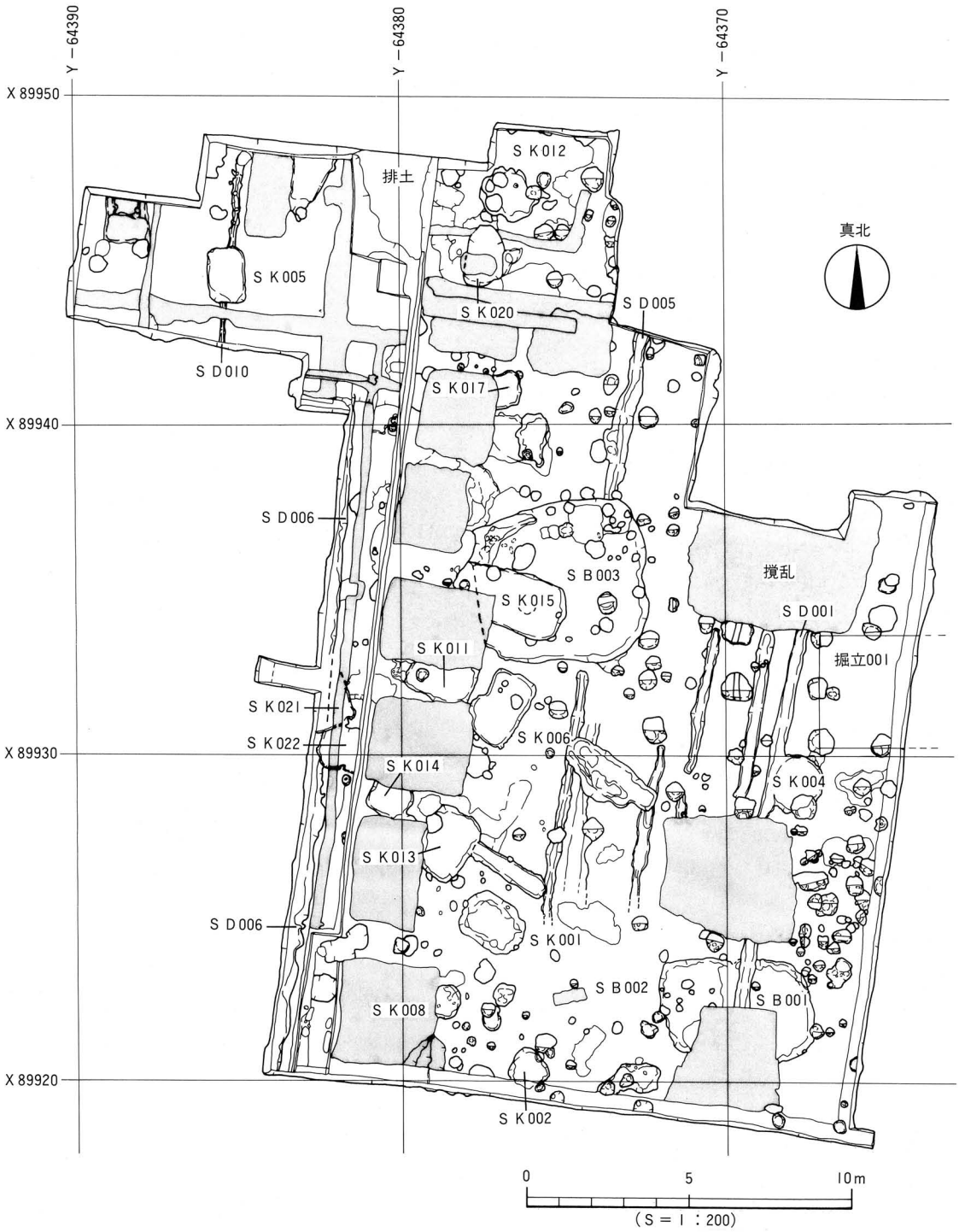



① 黒褐色土（7.5ＹＲ 3/1）地山の粒を１％含む。
② 褐灰色土（7.5ＹＲ 4/1）ブロック状の地山を10～20％含む。
③ 褐灰色土（7.5ＹＲ 4/1）②に比べ、やや大粒の地山を含む。

0　1　2 m
（Ｓ＝１：40）

図３　ＳＫ015測量図

久米高畑遺跡24次調査地




※メッシュは国土座標第Ⅳ座標系に対応する。
※スクリーン・トーンは、撹乱を受けている箇所を示す。

図4　遺構配置図

**小結**　これらの土坑を、貯蔵のための施設として理解しようとする場合、西側に隣接する同23次調査地ならびに引き続いて調査された同25次調査地（図２）において検出された大溝との関係が問題となる。25次調査では、２条の大溝が平行に位置し、その間の空間と溝の東側区域に長方形土坑が多数分布する状況が明らかにされている（Ｐ69・図２）。一方これらの土坑は、溝の西側には存在しないことから、その分布範囲は大溝によって規定されているものと考えられる。したがって将来的には、「環濠」によって囲われた区域内に貯蔵施設が立地する「環濠集落」としての位置づけを行うことが可能になるかもしれない。その所属時期は、大溝出土の土器などから弥生時代前期末から中期の初頭頃を中心とする時期であると考えられる。しかし、当該期の住居址の確認例がほとんど無いことに加えて、２条の大溝に時期差が存在するのか、あるいは同時併存の可能性があるのか不明なため、集落としての構造の把握を行える段階には至っていない。平成８年度中に、本調査地の南および西側に隣接する複数の地点において本格調査が予定されているので、広範囲に展開するこの弥生時代の遺跡の全容解明に向けて、総合的な視点に立った整理作業を進めていきたいと考えている。　（橋本）

関連文献：橋本雄一・相原秀仁　1995「久米高畑遺跡23次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』Ⅶ
平成６年度　松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

写真１　調査地全景（北東より）

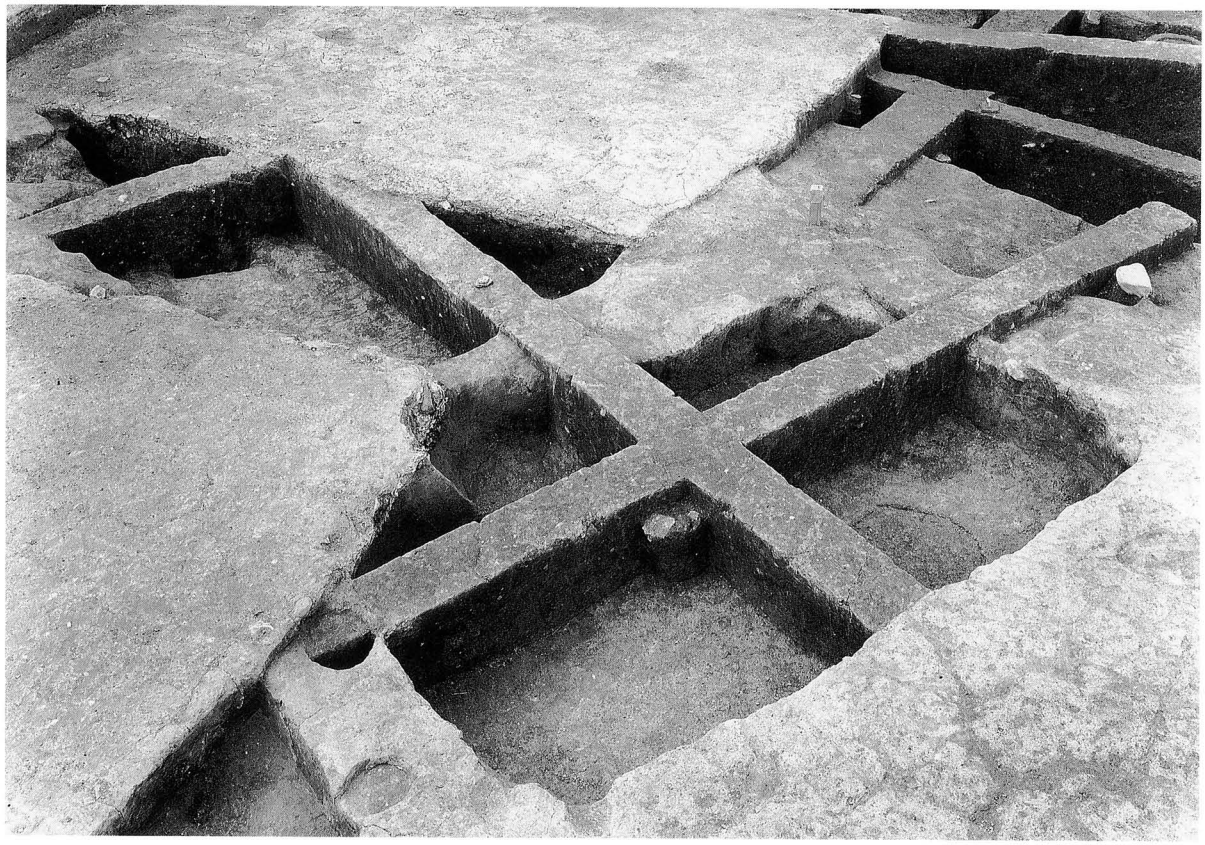


写真２　ＳＫ006・ＳＫ011土層堆積状況（南南東より）

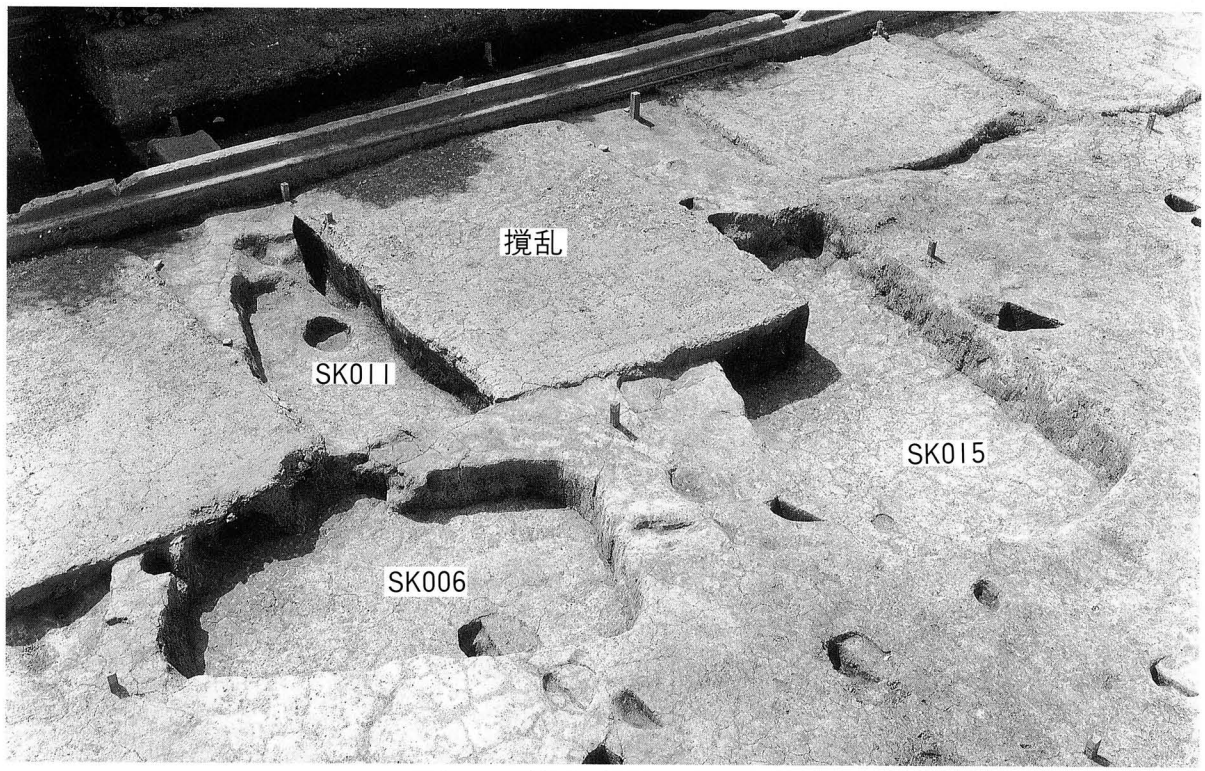



写真３　土坑群完掘状況（南東より）

# 久米高畑遺跡25次調査地（クメタカバタケ）

所在地　松山市南久米723-1他
期　間　平成７年７月17日～
　　同年７年８月31日
面　積　844㎡
担　当　高尾和長・宮内慎一

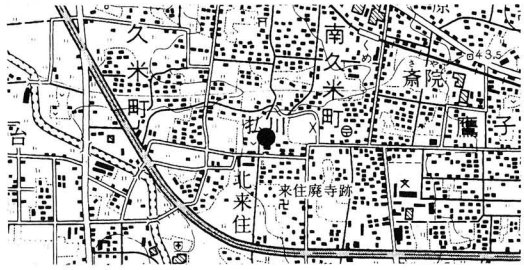


図１　調査地位置図

**経過**　久米高畑遺跡25次調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地「No.127 来住廃寺跡」にあたる。同包蔵地のある来住舌状台地には、近年の調査で来住廃寺跡や大規模な回廊状遺構、官衙関連遺構が存在していることが明らかになっている。本調査地の南方300ｍには、指定史跡の「来住廃寺」があり、調査により塔基壇や僧坊、白鳳期の瓦が確認されている。本調査地周辺でも多数の調査が行われており、久米高畑遺跡〔西尾幸則・池田　学　1989・1991〕は、古代の官衙である可能性が高くなってきた。このうち『久米評』線刻須恵器が出土した久米高畑遺跡７次調査地は注目されるところである。また、本調査地に隣接する久米高畑遺跡23・24次調査地からは、古代の集落跡以外に弥生時代の住居址、土坑、大溝など弥生集落に関連する遺構が多数検出されている。

よって、当該地における埋蔵文化財の有無と、遺跡の範囲やその性格を認識するため、原因者の協力のもと調査を開始した。

**遺構・遺物**　本遺跡は、松山平野東部に広がる来住舌状台地の北部域、標高39.2ｍに立地する。本調査では、掘立柱建物址３棟（掘立１～３）、土坑16基（ＳＫ１～16）、溝２条（ＳＤ１・２）、柱穴100基を検出している。ＳＤ１・２は、弥生前期末～中期初頭の土器が出土しており、特にＳＤ１からは甕形土器・壺形土器など多量の土器が出土している。また、ＳＤ１・２は、深さ、埋土が同じであり出土遺物も弥生時代前期末～中期前半のものである。これらのことより、ＳＤ１・２は弥生時代中期前半の同時期のものであると考えられる。その他の遺構については、出土遺物が少量であり時期決定は難しい遺構もある。

**小結**　本調査で検出したＳＤ１は、調査区南側に隣接する23次調査地で検出した溝に続くものである。また、ＳＤ２はＳＤ１と平行に伸びるものと思われ、来住台地での弥生時代の大規模な集落の可能性を示す重要な資料となるものであり、今後、調査地周辺の調査は細心な注意をはらう必要があると考えられる。また、今回、土坑を16基検出した。そのうち、ＳＤ１とＳＤ２の間で15基を検出した。その中で時期比定できるのはＳＫ５である。ＳＫ５はＳＤ１を切っていることと、出土遺物より弥生時代中期前半～後半にかけての土坑と考えられる。その他の土坑についても、出土した小量の遺物と埋土から考えるとＳＫ５と同時期の土坑と思われる。このような土坑は、24次調査地からも検出しており不明な点があり、今後の調査での解明が必要と思われる。　（高尾）

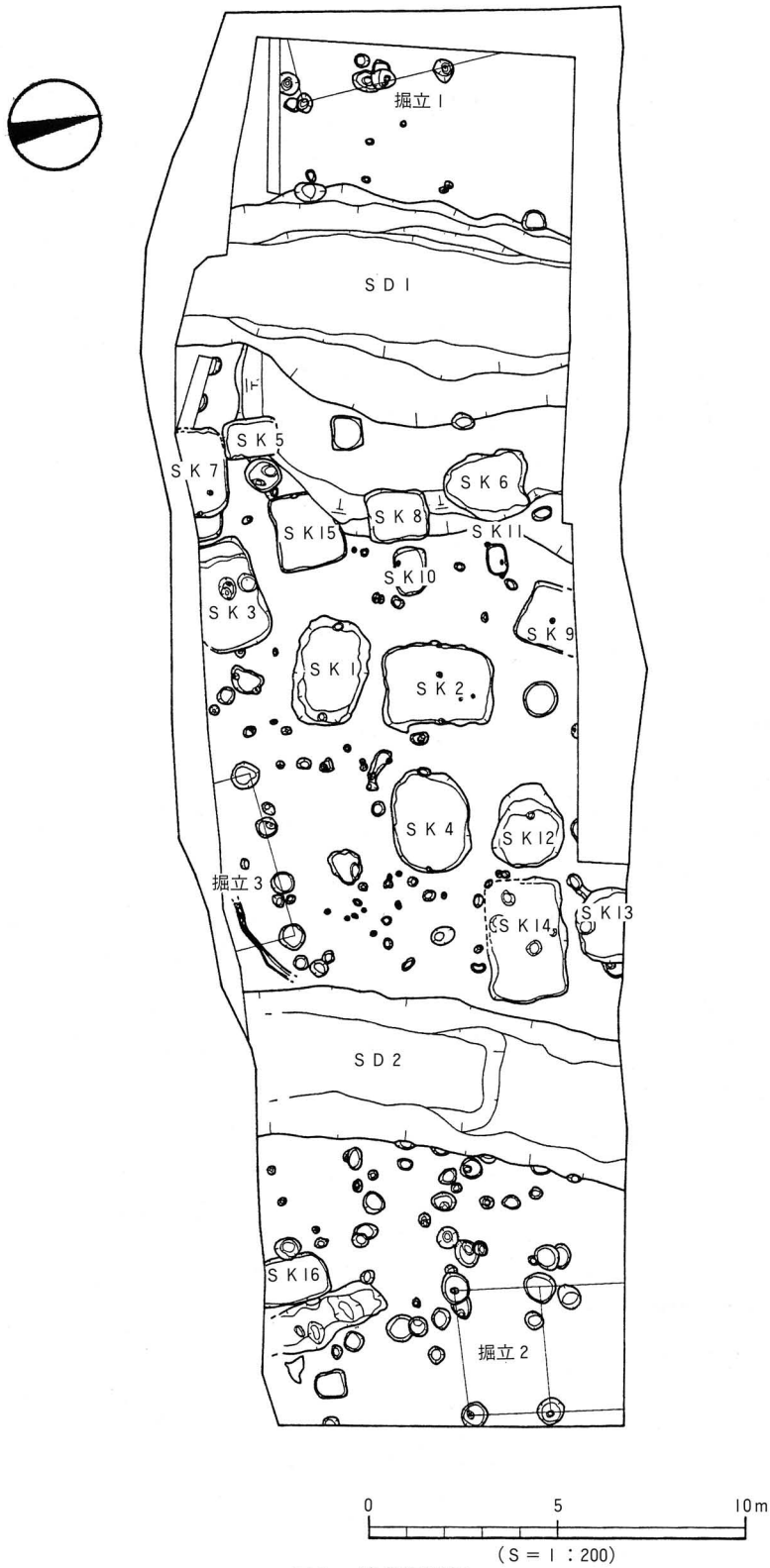

掘立1
SD1
SK5
SK7
SK6
SK8
SK15
SK11
SK10
SK3
SK9
SK1
SK2
SK4
SK12
掘立3
SK14
SK13
SD2
SK16
掘立2
0
5
10m
(S＝1：200)

図2　遺構配置図

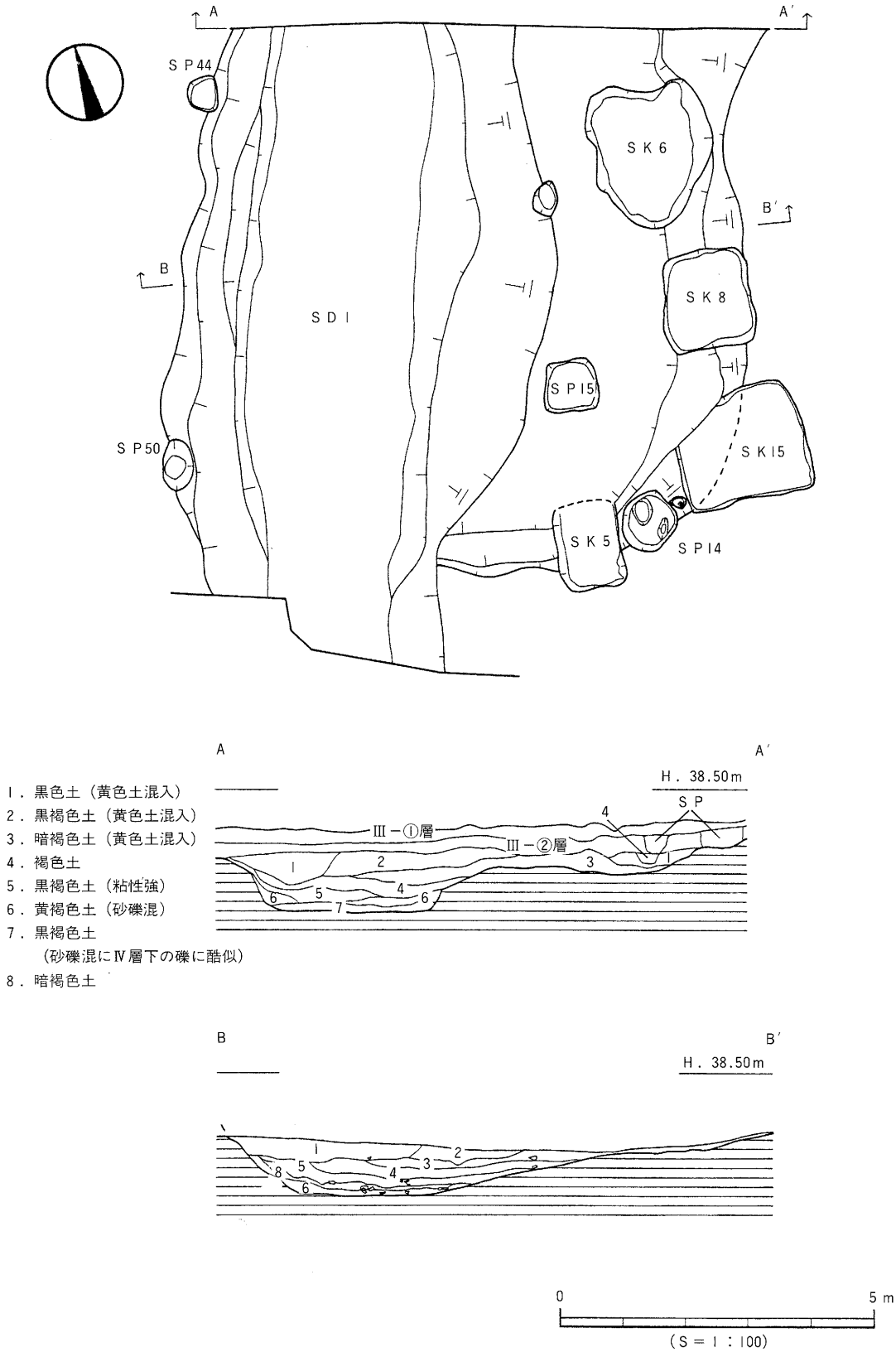

A
A′
SP44
SK6
B′
B
SK8
SDI
SP15
SP50
SK15
SK5
SP14
A
A′
H. 38.50m
SP
III－①層
III－②層
1．黒色土（黄色土混入）
2．黒褐色土（黄色土混入）
3．暗褐色土（黄色土混入）
4．褐色土
5．黒褐色土（粘性強）
6．黄褐色土（砂礫混）
7．黒褐色土
（砂礫混にⅣ層下の礫に酷似）
8．暗褐色土
B
B′
H. 38.50m
0
5 m
（S＝1：100）

図3　SDI測量図

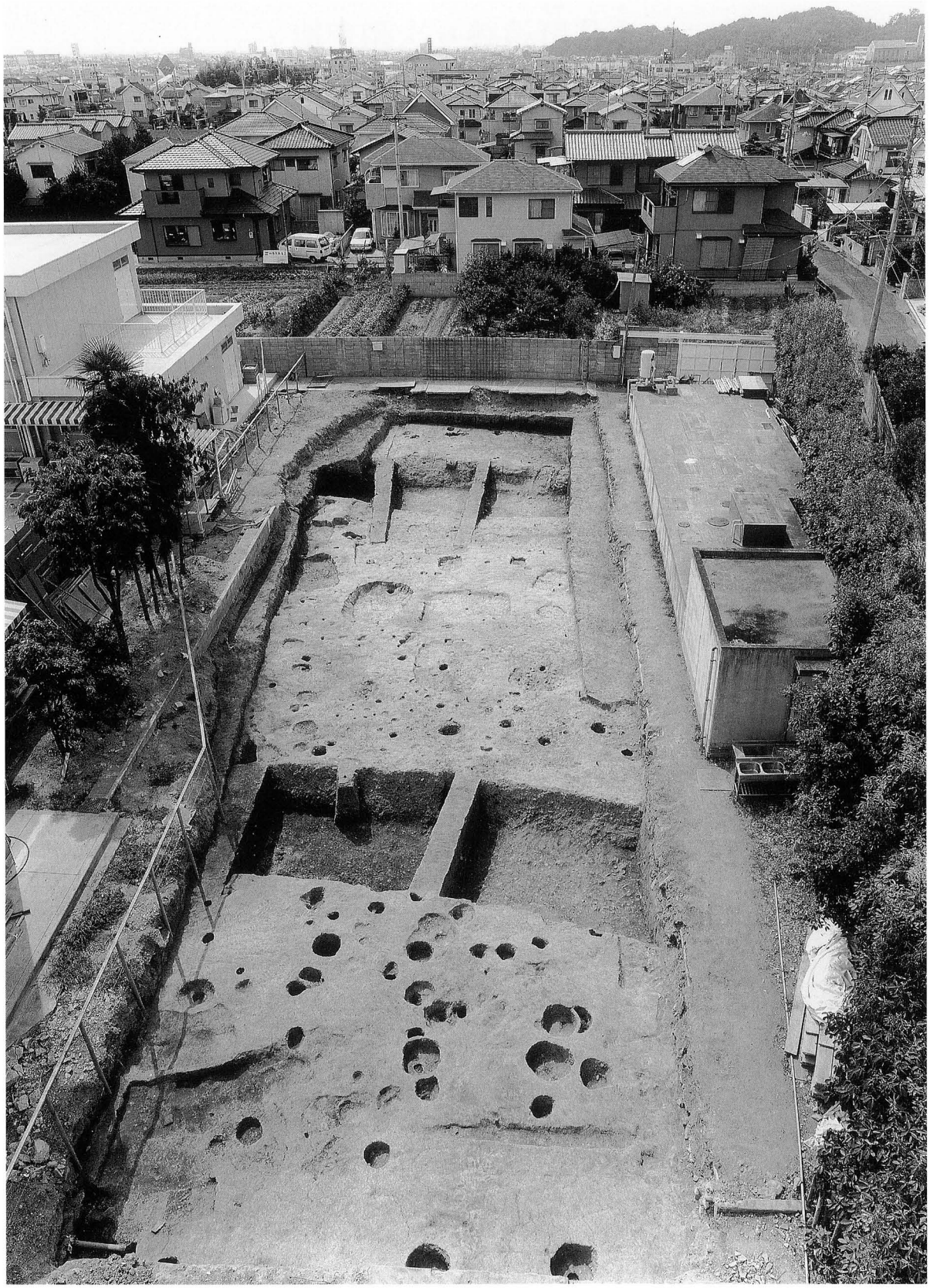


写真１　遺構検出状況（東より）

# 来住町（キシマチ）遺跡６次調査地

所在地　松山市来住町533-1
期　間　平成７年12月11日～
　　平成８年２月９日
面　積　385㎡
担　当　栗田茂敏・加島次郎・小玉亜紀子

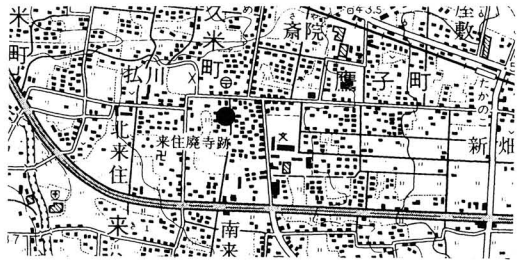



図１　調査地位置図

**経過**　本調査は「No.127 来住廃寺跡」包含地における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。調査地は、松山平野東部の来住台地上、標高約39ｍに立地している。台地上では、来住廃寺跡、官衙関連遺構のある久米高畑遺跡群や来住町遺跡などが密集しており、縄文時代から古代にかけての遺構が数多く確認されている。調査地点は来住廃寺跡の東方約200ｍに位置する。今回の調査は北側に隣接する３次調査との遺構のつながりを確認することを主目的として行った。

**遺構・遺物**　基本層位は以下のとおりである。第Ⅰ層造成土（約90cm）、第Ⅱ層褐灰色粘質土（約20cm）、第Ⅲ層褐色粘質土（約10cm）、第Ⅳ層暗褐色粘質土（約20cm）、第Ⅴ層黒褐色シルト土（約10cm）、第Ⅵ層暗褐色シルト土とにぶい黄橙土の混合土、これは地山漸移層である（約10cm）。そして第Ⅶ層黄色粘質土、地山である。このうち、第Ⅳ・第Ⅴ層が遺物包含層である。調査地の地山面は３次調査から南に向かって低く緩やかに傾斜している。

遺構は第Ⅵ層とⅦ層上面での検出であり、いずれの遺構も残存状況は良好とはいえなかった。検出遺構は溝状遺構59条、土坑状遺構６基、柱穴約170基、性格不明遺構９基である。遺物は遺構出土のものが多く、弥生土器、土師器、須恵器、中世の土器、近世の土器、そして石器などが出土している。いずれも細片であった。

主な遺構は弥生時代～古墳時代にかけての性格不明遺構９基と溝１条があげられる。性格不明遺構（ＳＸ１）の平面形は不整形であり、断面形は東側が浅くテラス状で、西側が深い。埋土は３層に分けられる。遺物は西側の中層（黒褐色シルト）より二次焼成を受けた弥生土器片と石器片が集中して出土した。また、須恵器片も同埋土より出土している。焼土は全く確認されなかった。このことより、別の場所で二次焼成を受け、ＳＸ１に持ち込まれたものと考えられる。

他には、中世以降の溝１条と小溝群があげられる。溝（ＳＤ５）は耕作に係わる遺構であろう。性格は耕作地を区画する溝または、排水施設の可能性が考えられる。小溝群は耕作に伴う痕、鋤先遺構と考えられる。小溝の方向は２方向あった。これは耕作地の方向がある時期変わったためであろう。

**小結**　本調査においては２時期の遺構が確認できた。ひとつは弥生時代～古墳時代にかけての遺構で、もうひとつは中世以降の遺構である。北隣地の３次調査地では７世紀中葉の土坑や竪穴状遺構が確認されている。遺構の形状などから６次調査の性格不明遺構と類似しており、これらは一連の遺構の可能性が高い。３次調査では掘立柱建物址が検出されているが、６次調査では確認できなかった。また、来住廃寺や官衙遺構に直接関連する遺構は確認されなかった。今後の課題は来住町周辺に隣接する遺跡を検討し、来住町遺跡と来住台地の各時期における土地開発を解明することである。　（小玉）

【文献】

藤原敏秀　1992 「来住町遺跡３次調査」『来住・久米地区の遺跡』松山市文化財調査報告書第27集
(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

図２　遺構配置図

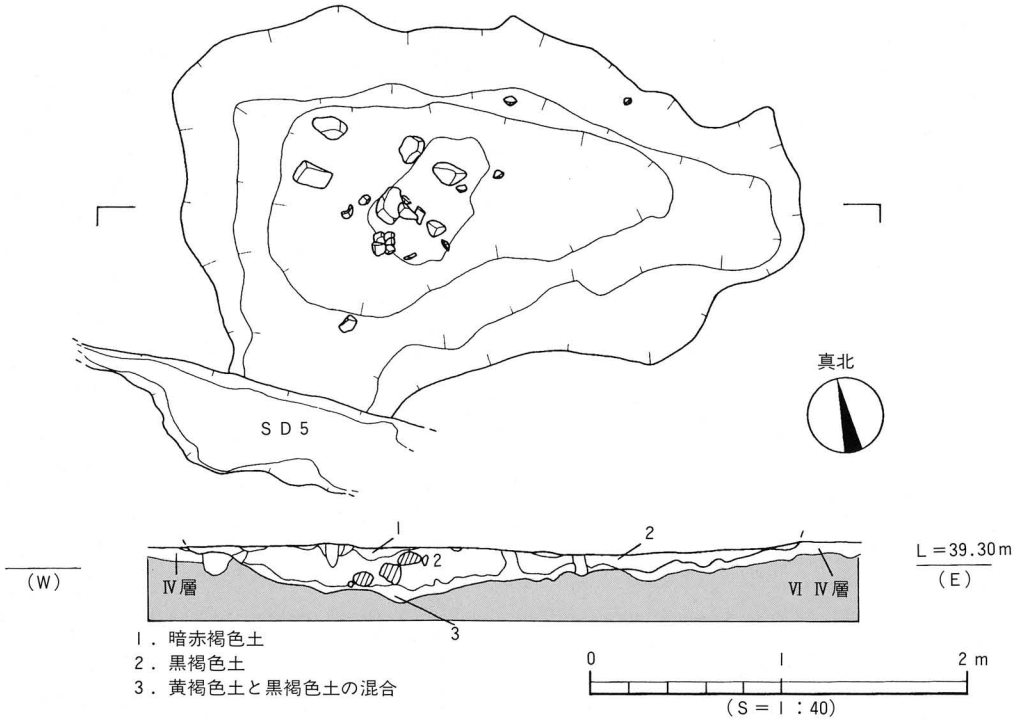



図３　ＳＸ１測量図

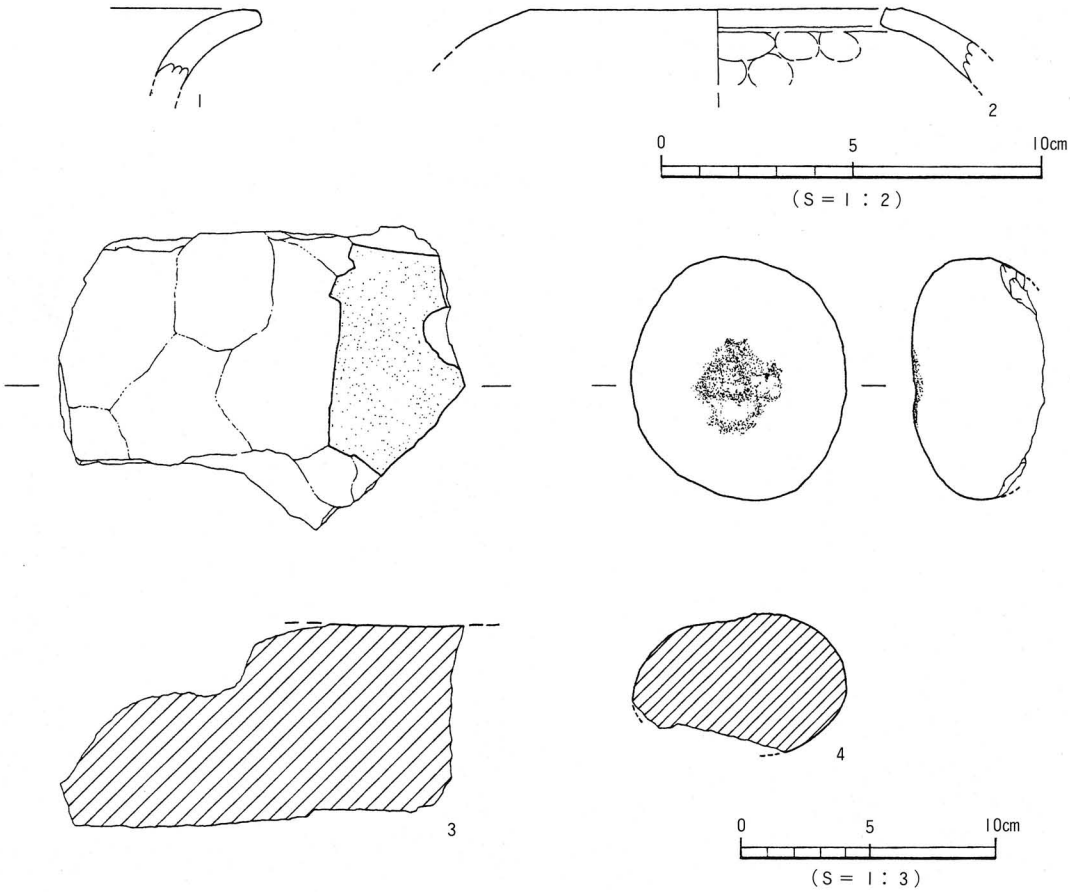



図４　ＳＸ１出土遺物実測図

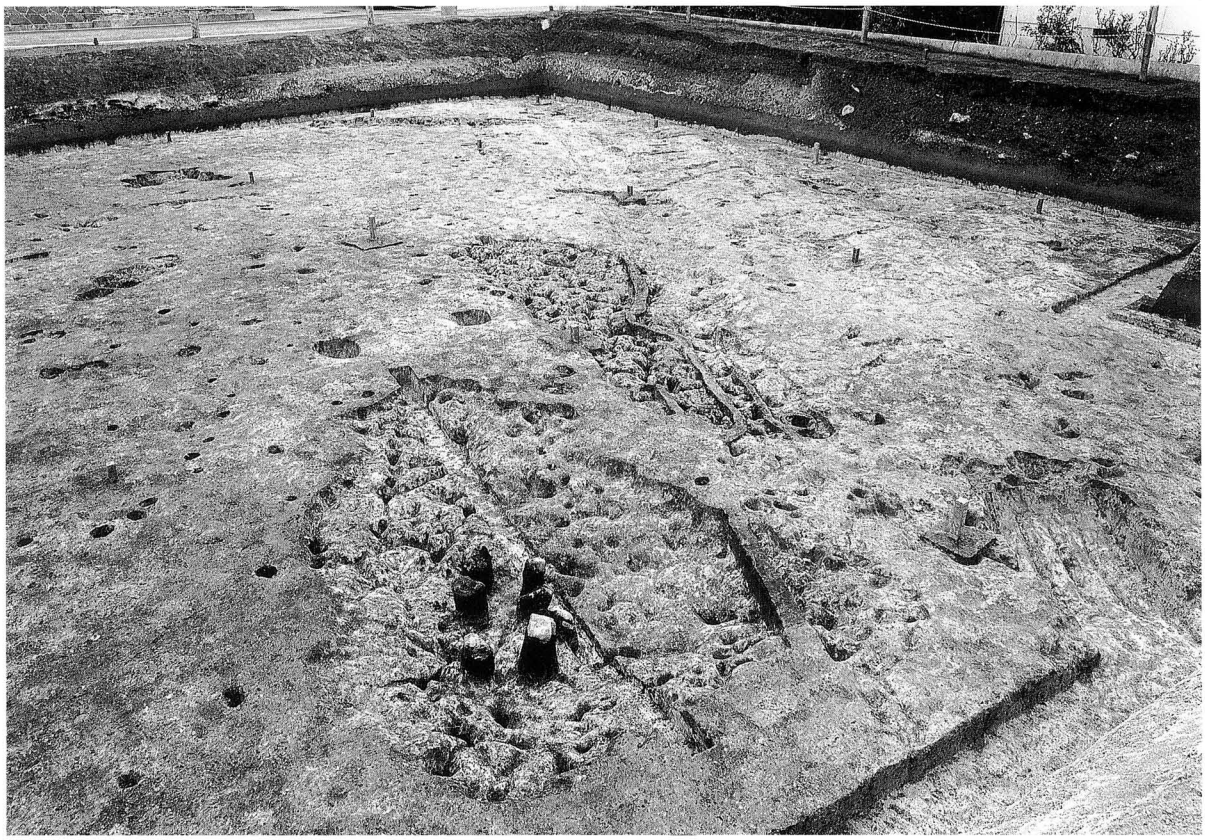


写真１　完掘状況①（北西より）

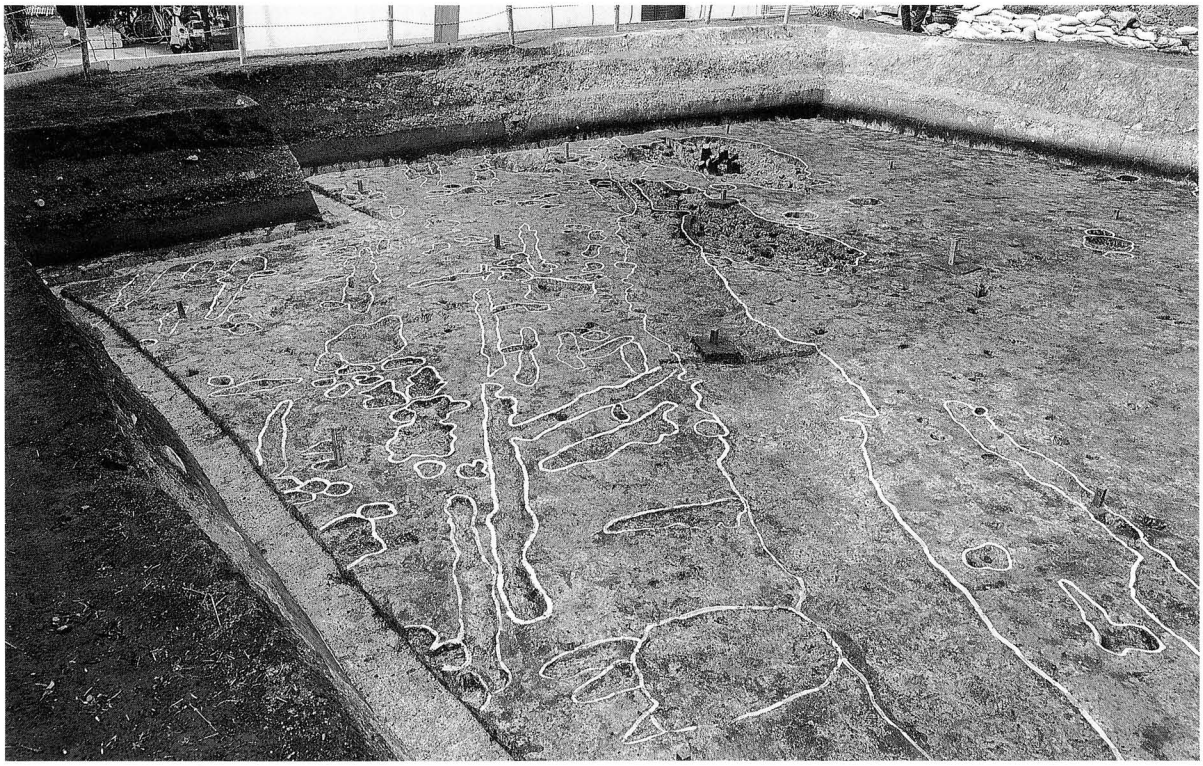


写真２　完掘状況②（南東より）

# 来住町（キシマチ）遺跡７次調査地

所在地　松山市来住町235-1
期　間　平成７年12月11日～
　　平成８年３月31日
面　積　1,574㎡
担　当　橋本雄一・小笠原善治

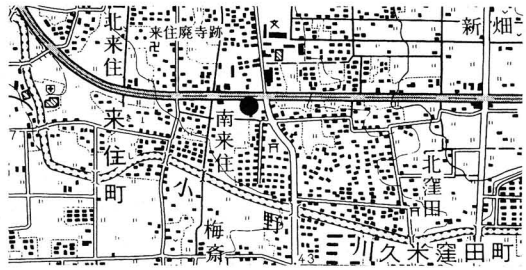


図１　調査地位置図

**経過**　民間の開発行為に先立って、国からの補助を受けて実施された発掘調査である。これまでに来住町遺跡として６次に渡って調査が行われてきた区域は、国道11号線の北側に限られていた。今回調査を行った地点は、国道の南側において本格的な調査が実施されたものとしては、はじめてのケースとなるものである。この地点は、古代の官衙遺跡群の存在で有名な来住台地が、国道よりも南へ延び、小野川へ至る微高地上に位置している。来住の中心部からは南東に400ｍほど離れているが、官衙および寺院関連遺構と、古墳時代後期の集落の存在の有無を確認することが調査の最大の目的となった。

**遺構・遺物**　本調査において注目された最大の成果は、６世紀末から７世紀中葉段階の集落の変遷過程をとらえることができたことである。以下、大きく５つの段階に区分して概説する。

Ⅰ段階は６世紀末から７世紀初頭頃に位置づけられる４棟の竪穴式住居によって集落が構成されている。ＳＢ001と003の２棟は北辺の中央付近に造り付けのカマドを持ち、４本の柱によって上屋を支える構造で、幅の狭い周壁溝がめぐる。これらのものは、一般的な住居として使用された建物であると考えられる。一方、ＳＢ002と004はカマドを持たず２本柱によって支えられ、壁沿いに幅広の溝がめぐらされている。ＳＢ004においては、住居床面の中央部に炉が造られているほか、幅広の溝状の部分を粘土質の土によって塗り込めた箇所に２つの大きな礫が配置されている。鉄床石として使用されたものかもしれない。この２棟の床面付近からは、若干の鉄片も出土しているので、「工房」的な性格を持った建物であった可能性が高いものと考えている。ただしＳＢ002に関しては、住居の掘り方そのものが浅く、中央部に炉跡があったことの確認はとれていない。壁沿いの溝に関しては、住居の床面に貼られている粘土混じりの土によって塗り込められているようである。いわゆる周壁溝として理解するにはその幅が広すぎることから、住居の周辺部からの湿気を防ぐ目的で設けられた構造であることを想定している。これら４棟の住居跡から出土した遺物の形態からは、時期差を読みとることができないので、２種類の住居形態が同時に存在した可能性も考えておく必要がある。

Ⅱ段階は、Ⅰ段階の住居址よりも後出する掘立柱建物群によって構成される。建物の軸線は真北から西に大きく振り、大型の円形ピットが掘られている点が特徴的である。来住の中心部においては珍しい２間四方の掘立002や、束柱を持つ掘立001などについては、通常の住居とは異なった機能を持っていた可能性がある。なお、各住居の床面積は、掘立002で約13.4㎡、掘立001で約21.3㎡を測る。この数値は、ＳＢの床面積が掘り方の外周でおよそ14.3㎡（ＳＢ004）～21.2㎡（ＳＢ002）であることとうまく対応している。

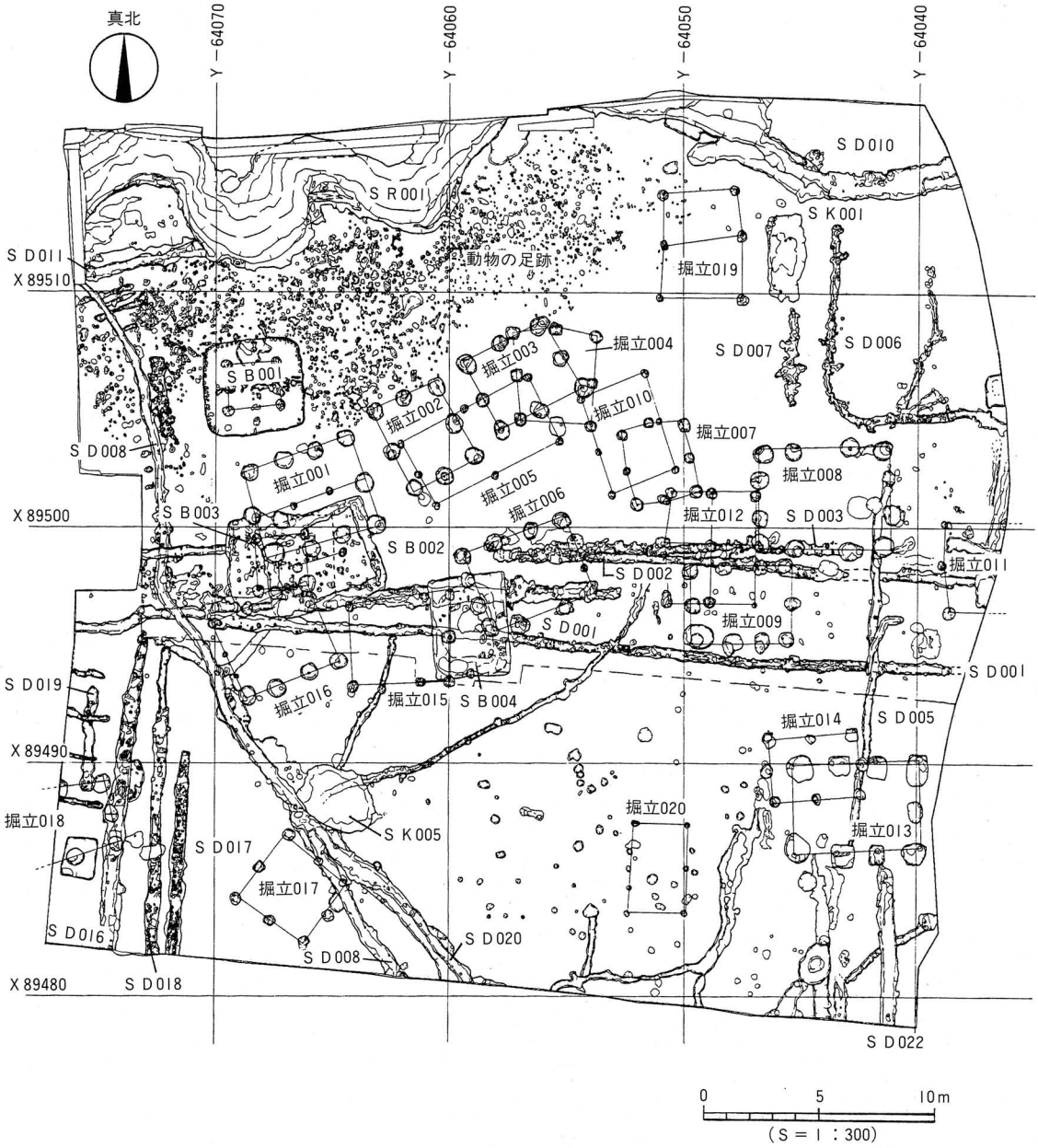



図２　遺構配置図

Ⅲ段階になると、掘立群は調査地の東部に立地するようになる。建物の軸線は、現在の真北とほぼ同一の方向が選択され、柱掘り方の中には明らかに方形のものも含まれるようになる。掘立004や013などがそれであるが、円形の柱穴のものもある。

続いてⅣ段階に至ると、Ⅲ段階以前に属する掘立の一部を切る形で、複数の直線的な溝が掘られる。これらの溝の真北からの方向角は、かなり厳密にＮ－93°～95°－Ｅ・Ｎ－3°～5°－Ｅの値が採用されている。この方向性は、近隣の官衙関連遺構に伴う溝や柵のそれと対応することから、関係が注目されるものである。ＳＤ001とＳＤ002がほぼ平行に位置することから、道路の側溝である可能性を想定し

た時期もあるが、完掘時の溝の下場の形状が全く異なることから、時間差を持って掘られたものと解釈している。また、仮に道路であったとしても、当時の地表面はその後の水田化に伴って完全に失われており確認がとれる状況にはないので、ひとまず土地を区画するための溝であると考えておきたい。なお、特に明確な方形ピットから構成される掘立004と013の２棟については、これらの溝と重複関係にはないことから、直線溝と同時に存在していた可能性も否定できない。いずれにしてもⅢ・Ⅳ段階は方形ピットと均一に掘られた極めて直線的な溝から構成され、当地において官衙施設が展開する７世紀中葉以降の諸遺構の特徴と共通している点が注目される。なお、直線的な溝の一部において、地山を掘り込んだ工具の痕跡が確認されている。特にＳＤ001と017においては幅20cm未満の三日月形の掘り込みが、溝の掘り方に沿って２列平行に続く状況が認められた（写真４）。地山上面が鉄製の鋤先状の工具によって刺突された箇所にこのような痕跡が残されたものと考えられる。溝幅がやや広いＳＤ016などの場合には、溝の掘り方に沿って刺突した後、さらに中央部の掘り残し箇所を再度突くため平坦な仕上がりとなり、痕跡は認定しづらくなるようである。

その後の遺構の中で、明確に所属時期を推定できるものは、いずれも中世の後半期以降、近世段階のものばかりである。少数の土坑と溝から構成される段階で、溝の方向性は真北もしくは明らかに西に振っており、古代の土地の区画のありかたと比較して差異が認められる。来住の他の区域同様、中世後半期以降盛んになると考えられる水田開発に伴って採用された土地の区画の方法は、水を利用する際の都合もあって、古代の原理とは異なるものであったものと考えられる。

以上が当調査地において確認された集落の変遷過程であるが、その他の遺構の中では、調査地の北西部において検出されたＳＲ001の存在が注目される。この川は調査地内で大きく蛇行しながら東から西へ流れており、明らかに河川の水の流れによって堆積した土層が認められた。この堆積土中からは、６世紀後葉から７世紀中葉にかけての時期の遺物が多数出土した。最も出土量が多いのは、７世紀の前葉に該当するもので、明確に６世紀の中葉や７世紀の後半であると認定可能な遺物は皆無に近い状況である。このあり方は、川のすぐ南に展開する集落の継続期間および各段階ごとの建物の棟数の増減と連動しているものと考えられる。最も人間の活動が活発であったⅠ段階およびⅡ段階にかけての遺物が、川に多く捨てられているわけである。やや時期が降るものと考えているⅢ・Ⅳ段階に該当する遺物が極端に少ない状況ともうまく対応している。

ＳＲ001とＳＢ004出土の遺物の内、主なものを図３にまとめた。１と２はやや古い時期の坏身であるが、この段階の遺物は多くない。主体を成すのは３から15に代表されるもので、炉を伴うＳＢ004出土遺物の形態も、これらと共通している。注目すべきは土師器の存在である。11は須恵器の坏身に似せて作られているが、胎土や焼成方法は完全に土師器としての扱いがなされているものである。土師器は器形全体の復元が困難なものが大半を占めているが、15に代表される椀の個体数が多いようである。なお、ここにあげた土器よりも新しい時期に属する可能性のあるものは、ＳＲ等の遺構からは抽出されていない。

**小結**　この集落はさらに周辺に広がるものと予想されるので、今後、久米官衙遺跡群の評価を進めていくうえで、当該区域の重要性はますます高まるものと期待される。特に、ＳＤ001・002や005・017などに代表される直線的な溝が、周辺においてどのような展開を見せるのか、という点に注目しておきたい。その際、今回確認された工具痕跡の有無という点も、この段階の土地区画のための溝を識別する際の視点となるものと考えられるので注意したい。（橋本）

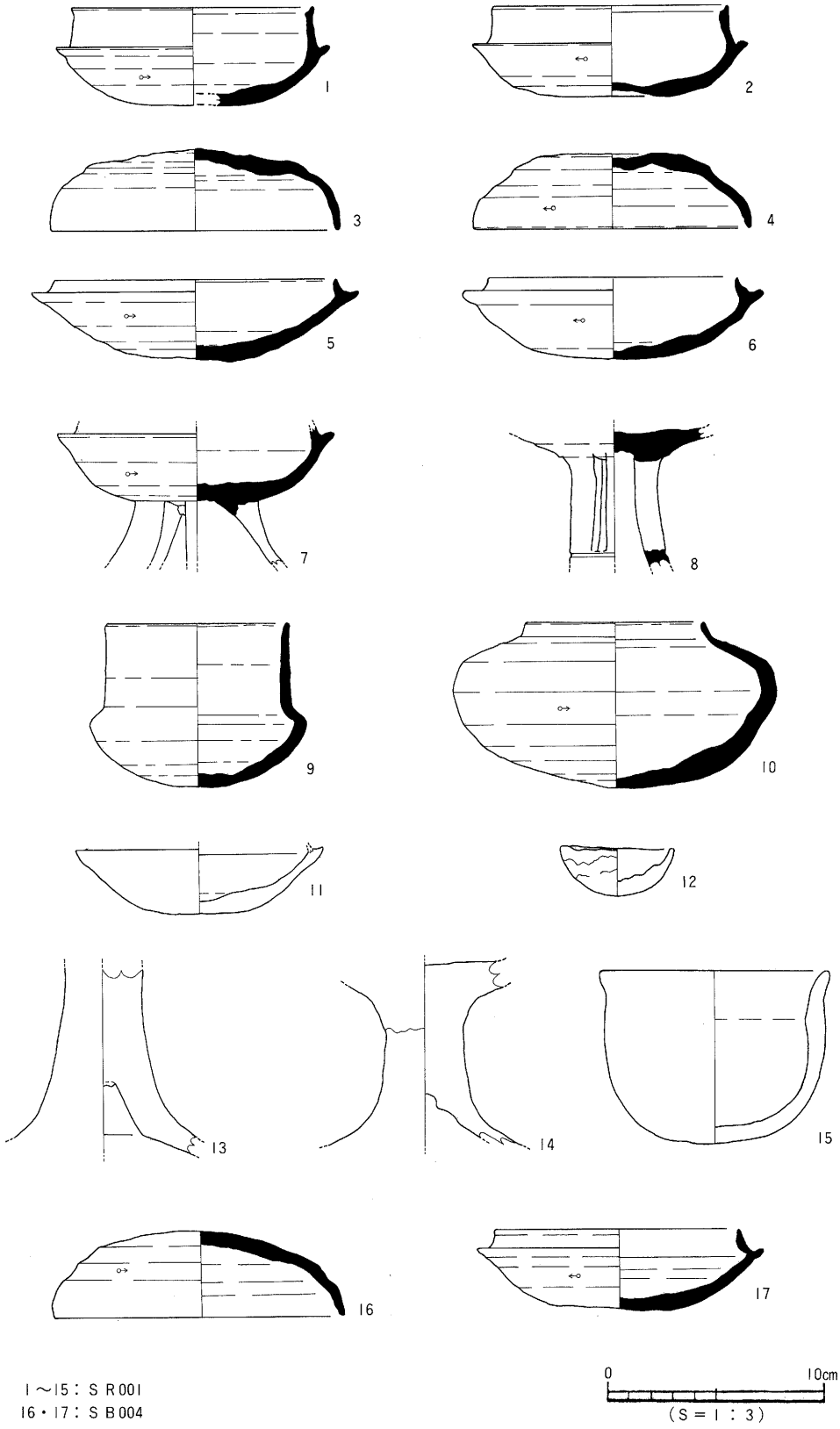

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
1～15：ＳＲ001
16・17：ＳＢ004
0
10cm
（Ｓ＝１：３）

図３　出土遺物実測図

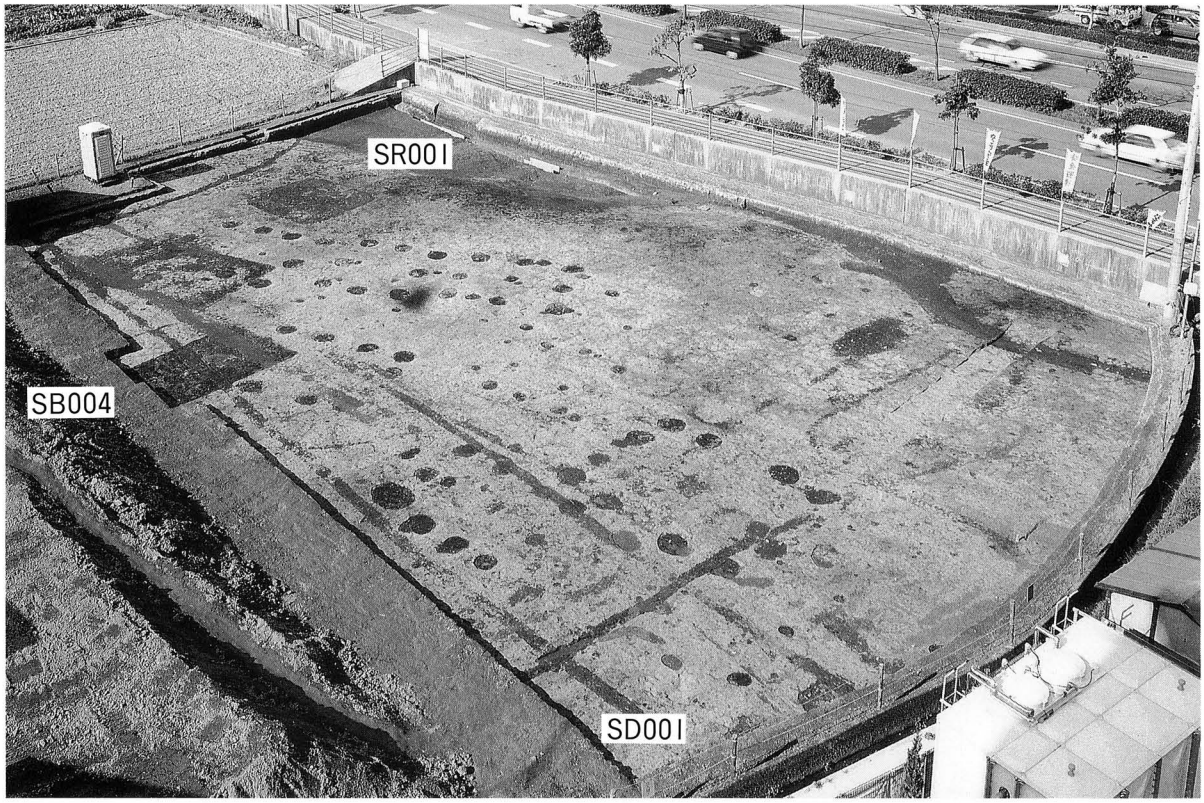



写真１　Ｉ区遺構検出状況（南東より）

写真２　ＳＢ004完掘状況（南東より）

写真３　２区完掘状況（南東より）

写真４　２区西部　ＳＤ017工具痕跡（南西より）

# 下苅屋遺跡（シモカリヤ）

所在地　松山市平井町甲2389、甲2390、甲2391

期　間　平成７年６月19日～同年10月20日

面　積　1,065.06㎡

担　当　重松佳久

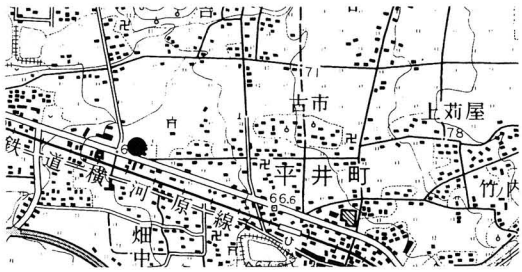



図１　調査地位置図

**経過**　本調査は、平成７年度国庫補助松山市内遺跡発掘調査事業として、民間の開発行為に先立ち発掘調査が実施されたものである。

本遺跡周辺は、北に広がる窯址と来住台地上に造営された来住廃寺や官衙遺跡群を小野川で結ぶ中間的な位置にありながらも、これまで発掘調査事例が比較的少ない地域であり、事前調査において未製品と考えられる須恵器片や竪穴式住居址・掘立柱建物群が検出されたことから、窯業集団の集落との関わり合いが予測され緊急調査が行われることとなったものである。

**遺構・遺物**　調査地は、小野川による河岸段丘の形成と扇状地地形の形成に伴う堆積作用が影響を及ぼす僅かに残された平坦な微高地に位置し、標高59.20ｍを測る。この小野地区、平井地区の平野部を望む山際には、昭和56年に実施された小野谷馱場窯址群の姥ヶ懐窯址を含めて、地元郷土史家の地道な表採活動により、概ね古窯址としても後半期の６世紀中葉段階から８世紀の初頭の窯址群の存在が指摘されている。また、当地で生産された須恵器が、小野川中流域の来住官衙遺構群で検出されつつもある。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層耕作土層（床上）、第Ⅲ層淡灰褐色土（遺物包含層）、第Ⅳ層黄褐色粘性土（地山相当層）である。また、調査区の南東部隅において一部第Ⅳ層黄褐色粘性土（地山相当層）上面に帯状に堆積する洪積世段階の段丘礫層群が検出されている。遺構は、主に第Ⅲ層から第Ⅳ層上面での検出であり、竪穴式住居址６棟（６世紀末～７世紀初頭）土坑状遺構６基、溝状遺構４条、石組遺構列１条、掘立柱建物に伴う柱穴等が確認されている。遺物は、遺構内及び第Ⅲ層淡灰褐色土中からの出土であり、６世紀末から７世紀前半の土師器及び須恵器である。ＳＢ２、ＳＫ２では、特徴的な遺物として赤褐色須恵器（坏身）及び土師質須恵器（坏身）が検出している。また、ＳＸ１では、一括性の高い資料が得られている。

**小結**　下刈屋遺跡出土の須恵器の中には、常に酸素が十分に供給された状態で焼かれたと思われる須恵器があり、胎土中の鉄分が焼成により酸化し赤褐色に発色している。通常、一般的な須恵器の生産工程においては、最終焼成段階で窯を密封し、酸素の量を制限する。この結果、窯内は酸欠状態に陥り、不完全燃焼によって発生した一酸化炭素が、胎土中の鉄分（酸化第二鉄）より酸素をうばい酸化第一鉄に変わる。須恵器の青灰色は、この段階で生成された酸化第一鉄によって生じ、この焼成方法を還元焔焼成と呼んでいる。一方、赤褐色に発色した須恵器は、この還元焔焼成が何らかの成因で行われなかった遺物と言える。また、住居址や土坑状遺構の埋土からも窯糞と呼ばれる須恵器焼成時のガラス質の不純物が検出されている。さらに、須恵器の一括廃棄を示す土坑状の遺構も検出されてい

る。こうした事例は、基本的には、一般の集落には見られない特徴的な状況であるが、重信川対岸域の谷田窯址群とは異なり須恵器製作そのものに関わる検出遺物は認められなかった。以上、本調査区で検出された集落は、直接的な須恵器製作址に伴う集落とは異なり、生産地的な様相を示しながらも窯業集団内の業務分化を暗示し、製作物の搬入・選別等と言った役割を持った生産地と消費地を結ぶ間接的な集落を想定することができる。これまで当地域では、窯業を背景とした古墳時代時期の生産と流通に係る調査研究の遅れが指摘されてきたが、今後、窯業集団に係わる須恵器生産形態と流通と言った積極的な視点で、当時の社会背景に迫る研究がこの地域一帯で進むものと期待される。（重松）

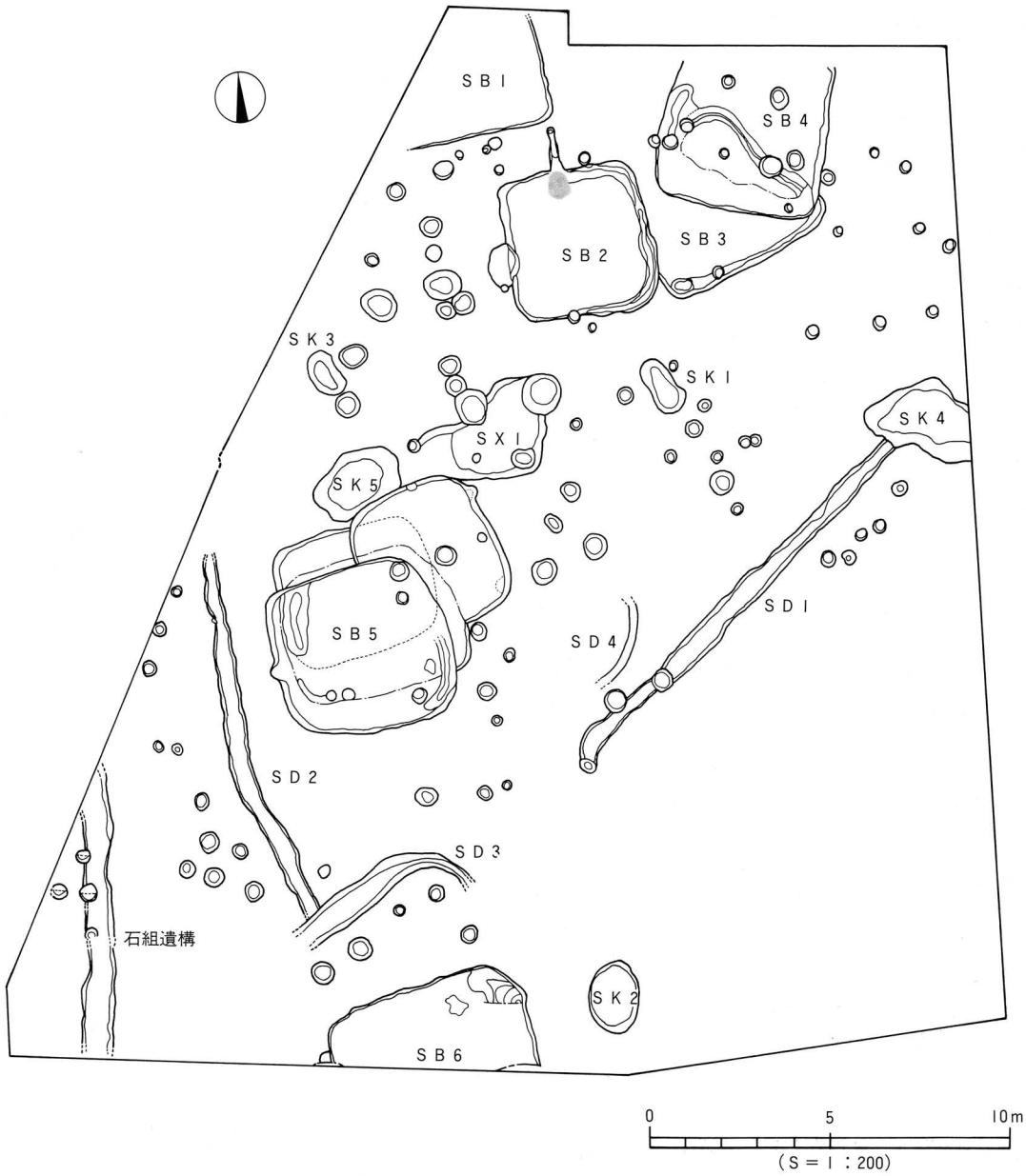



図2　遺構配置図

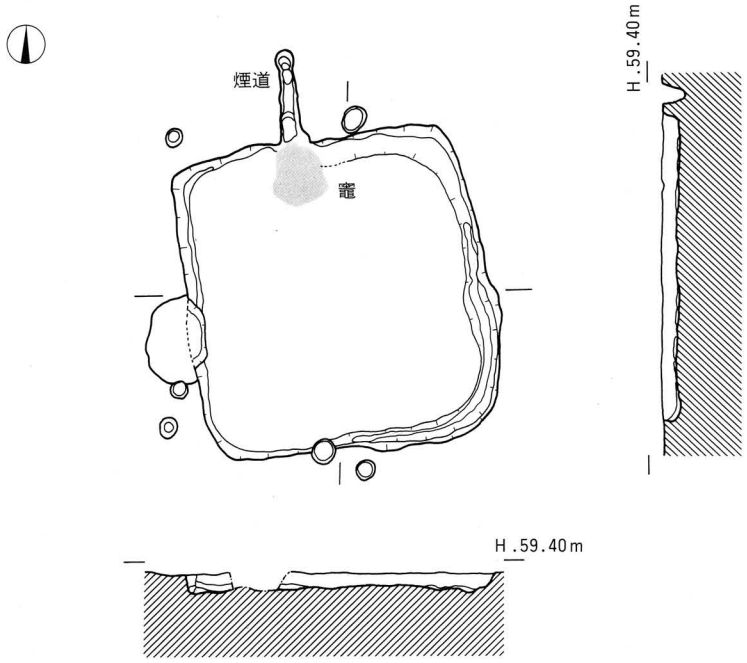



図3　ＳＢ２測量図

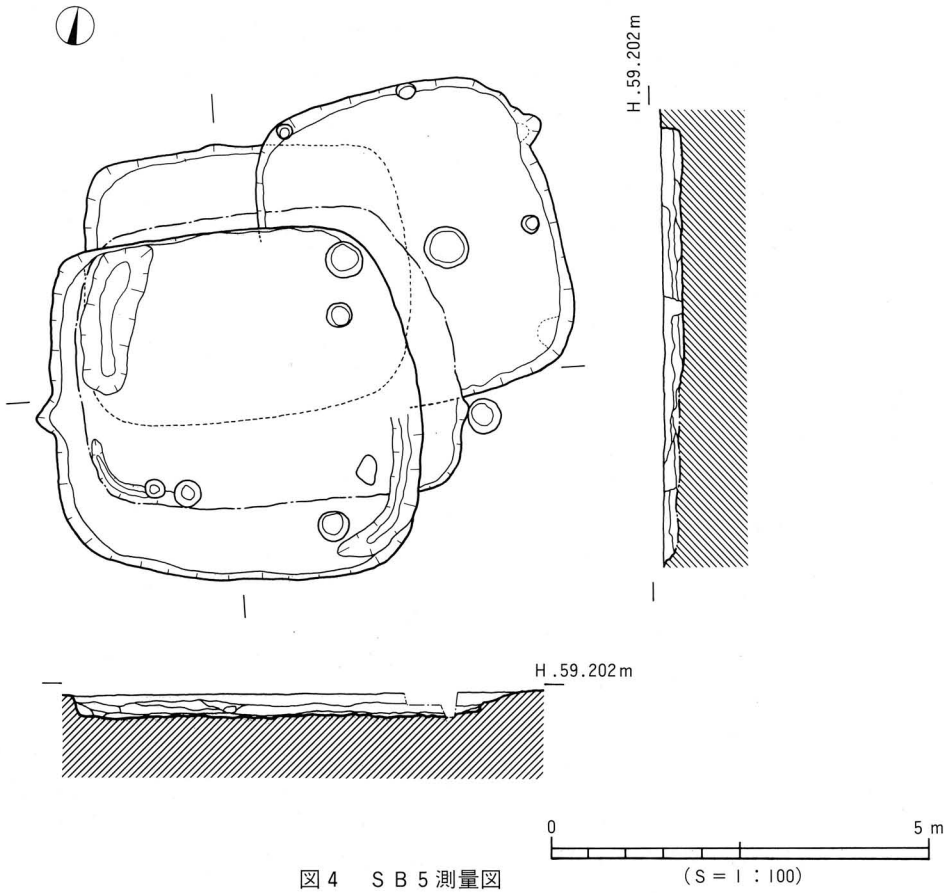



図4　ＳＢ５測量図

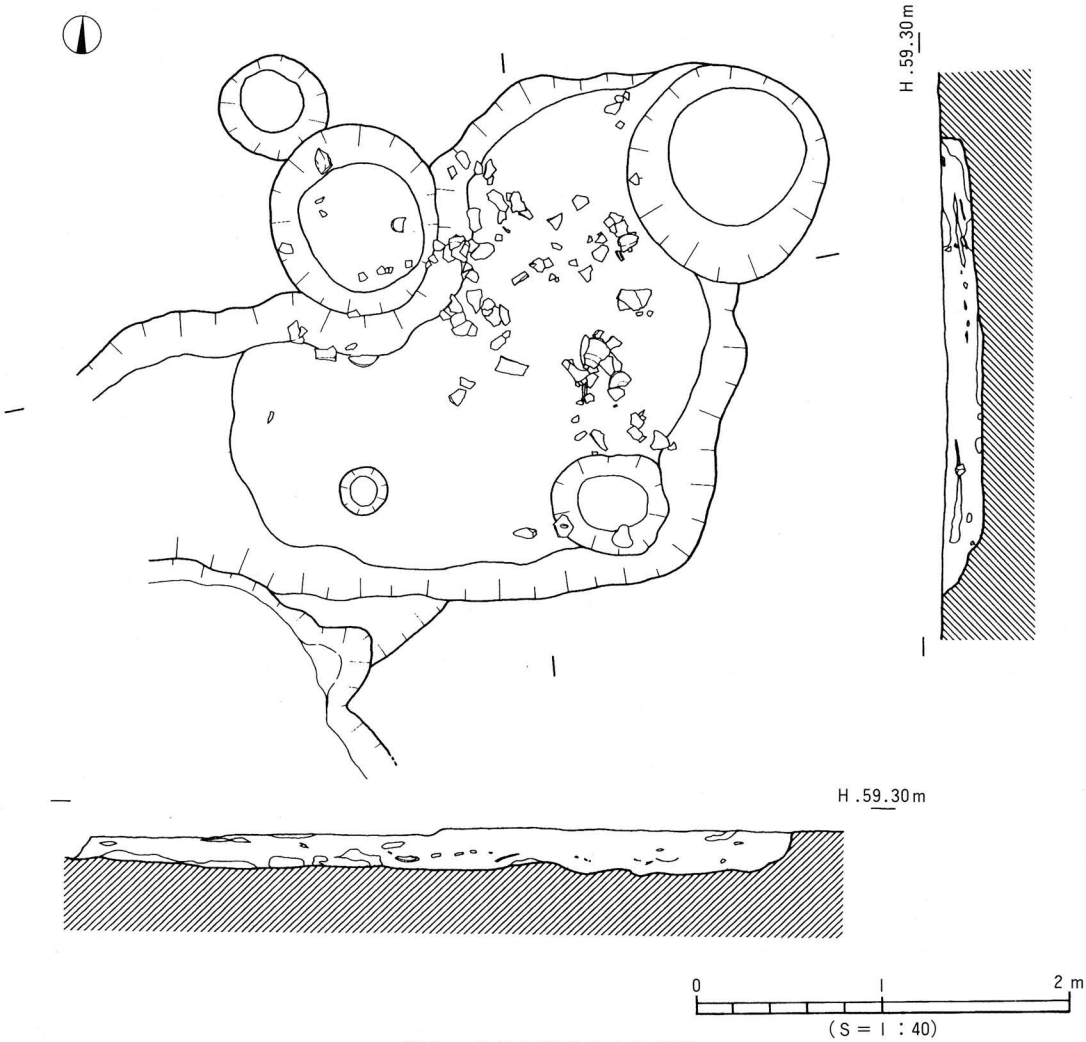
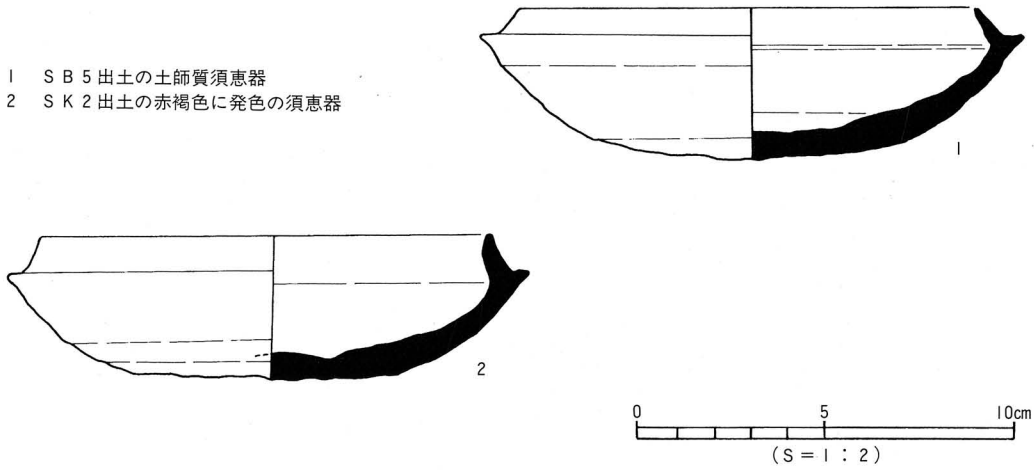



図5　ＳＸ１遺物出土状況図




1　ＳＢ５出土の土師質須恵器
2　ＳＫ２出土の赤褐色に発色の須恵器

図6　出土遺物実測図

# 桧山峠（ヒヤマトウゲ）7号墳

所在地　松山市平井町乙9-2、32-2
期　間　平成7年2月22日～
　　同年6月9日
面　積　282.33㎡
担　当　栗田茂敏・大森一成

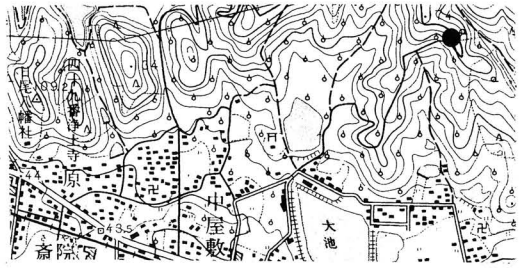



図1　調査地位置図

**経過**　松山平野の東部から北東部を限るのは、高縄半島の大部分を占める高縄山系である。古墳の立地する丘陵は、この高縄山系の南東面支脈のひとつにあたり、標高166.5mを測る。丘陵からの眺望は、特に南から東方向に優れ、松山平野3大河川のうち重信川、小野川流域の平野から平野東南部の海岸線を一望のもとにすることができる。周辺の丘陵は、平野でも最も密集する地域で、当古墳の属する桧山峠古墳群をはじめとして、芝ケ峠古墳群、かいなご古墳群、久米大池古墳群など、数多くの古墳群が存在している。当古墳直近にも南東に接するように6号墳、北西に8号墳があり、桧山峠と名のつく古墳が12基まで確認されているが、実数はこの数字をかなり凌ぐものと思われる。しかしながら、その内容がわずかでも把握されているものはこの古墳群中にはなく、近隣の古墳で、ある程度内容がわかっているものには、平井町にあって5世紀末の帆立貝形首長墳といわれている観音山古墳や、平野でも最大規模の円墳とされる鷹子町素鵞神社古墳などがある。両者ともに形象埴輪を伴い、前者には五鈴鏡、後者には単鳳文環頭太刀の出土が伝えられている。これら首長クラスの古墳のほか、かいなご古墳群中のかいなご1号墳は、7世紀前半～中頃の複室構造をなす横穴式石室を主体部とする方墳として知られ、また2号墳は6世紀中頃の導入期に近い時期の横穴式石室を主体部とすることで注目される古墳である。そのほか、芝ケ峠古墳群中の1号墳は久米80号墳とも呼ばれ、一墳丘に2基の石室が並列して開口しており、6世紀後半代のものと考えられている。これらの古墳群が見おろす平野の比較的近い位置には、古代豪族久米氏の本拠地である久米・来住の遺跡群が展開していることから、これらの遺跡群とのかかわりを推定する考え方もある。

事前の踏査によれば、当該地はその一部が果樹園として利用されていたため、段カット状の整地により墳丘は半截され、主体部である石室石材の一部が法面に露出している状況であった。なお、調査は四国電力株式会社による特別高圧送電線「鷹子支線」新設に伴い実施された。

**遺構・遺物**　先述したように、墳丘は主体部ともども果樹園造成によって半截されており、そのカットは地山面にまで及んでいる。遺存の良好な墳丘北東半の墳形や、盛土端の位置、さらに主体部が墳丘の中心に近い位置に存在するとすれば、墳形は直径16～17mの円丘に復元できる。しかし、盛土端のレベル164.2m付近のコンタを拾っていくと、円形には収束せず墳丘の北部で外開きに流れる。造成による段カットのある南西部はもとより、墳丘の北部から西部にかけては既に地山が露出しており、円形に収束するためには、この周辺の地山を最大で1.2m程度はカットして整形する必要がある。したがって、墳形は後に述べる墳丘遺物の出土状況も加味して考えると概ね北西～南東方向を軸とした前方後円形になる可能性が高いが、調査区の限界や推定前方部の削平のため、前方部端やコーナー部ま

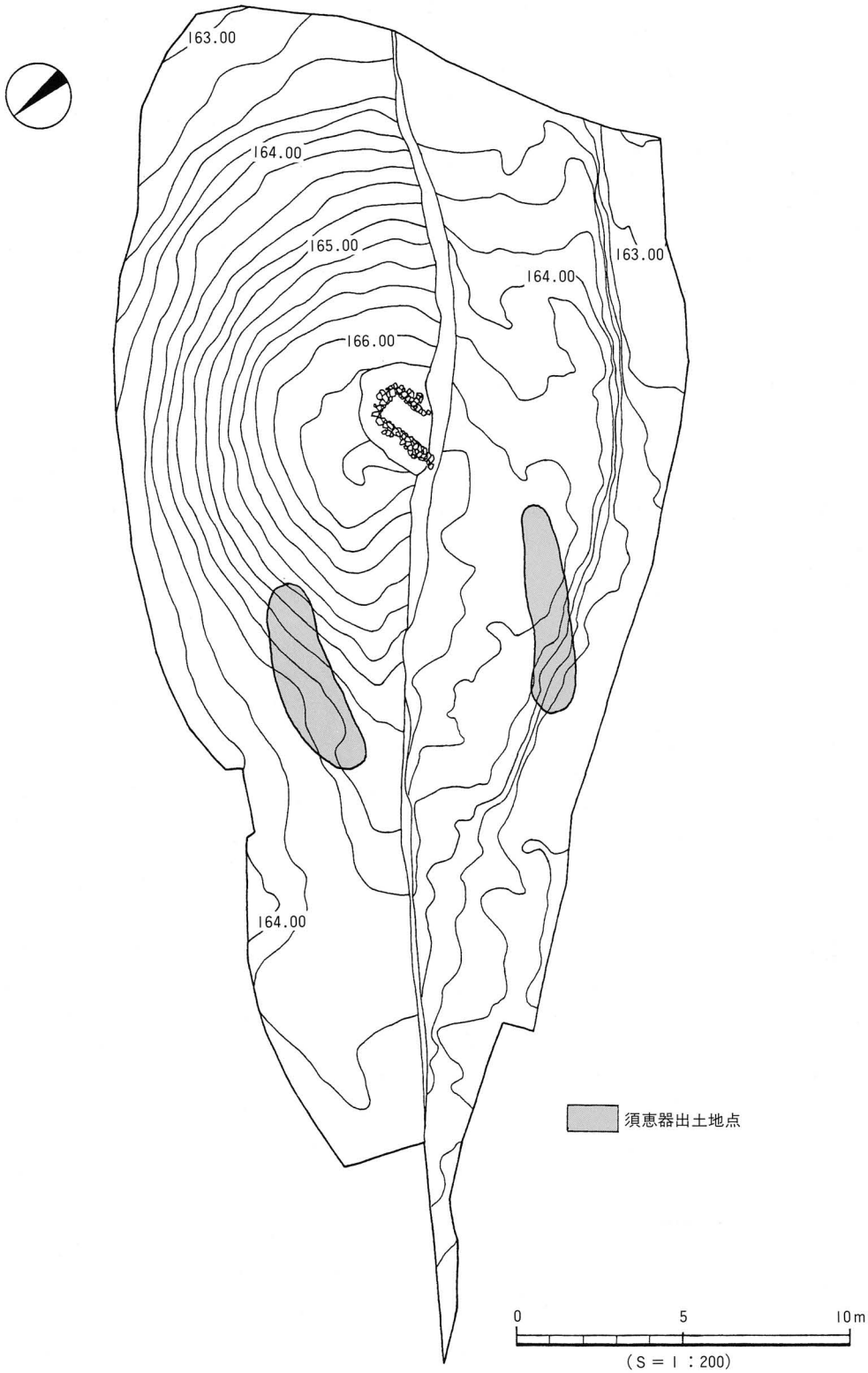

163.00
164.00
165.00
166.00
164.00
163.00
164.00
須恵器出土地点
0
5
10m
（S＝１：200）

図２　墳丘測量図

でを把握することはできなかった。

墳丘の遺物は、主体部北西側・南西側の墳裾の大きく２箇所にまとまって検出され、そのすべてが須恵器で高坏を主体としている。いずれも掘り方を伴わず、露出した地山直上あるいは盛土上面での出土で、すべて破砕された状況であった。北西～南東主軸の前方後円形を推定した要因のひとつには、これら２箇所の遺物出土位置にあり、くびれ部祭祀にかかわるものと判断した。

主体部は、長軸をほぼ東西にとる竪穴式石室で、砂岩の割石小口積みによる構築である。整地によって、墳丘とともに斜めに横断するように半截されている。また、調査前の段階で墳丘に径0.5m程度の攪乱穴があり、石材の一部が露出していたが、この部分が東小口壁にあたり、壁体石材が部分的に抜

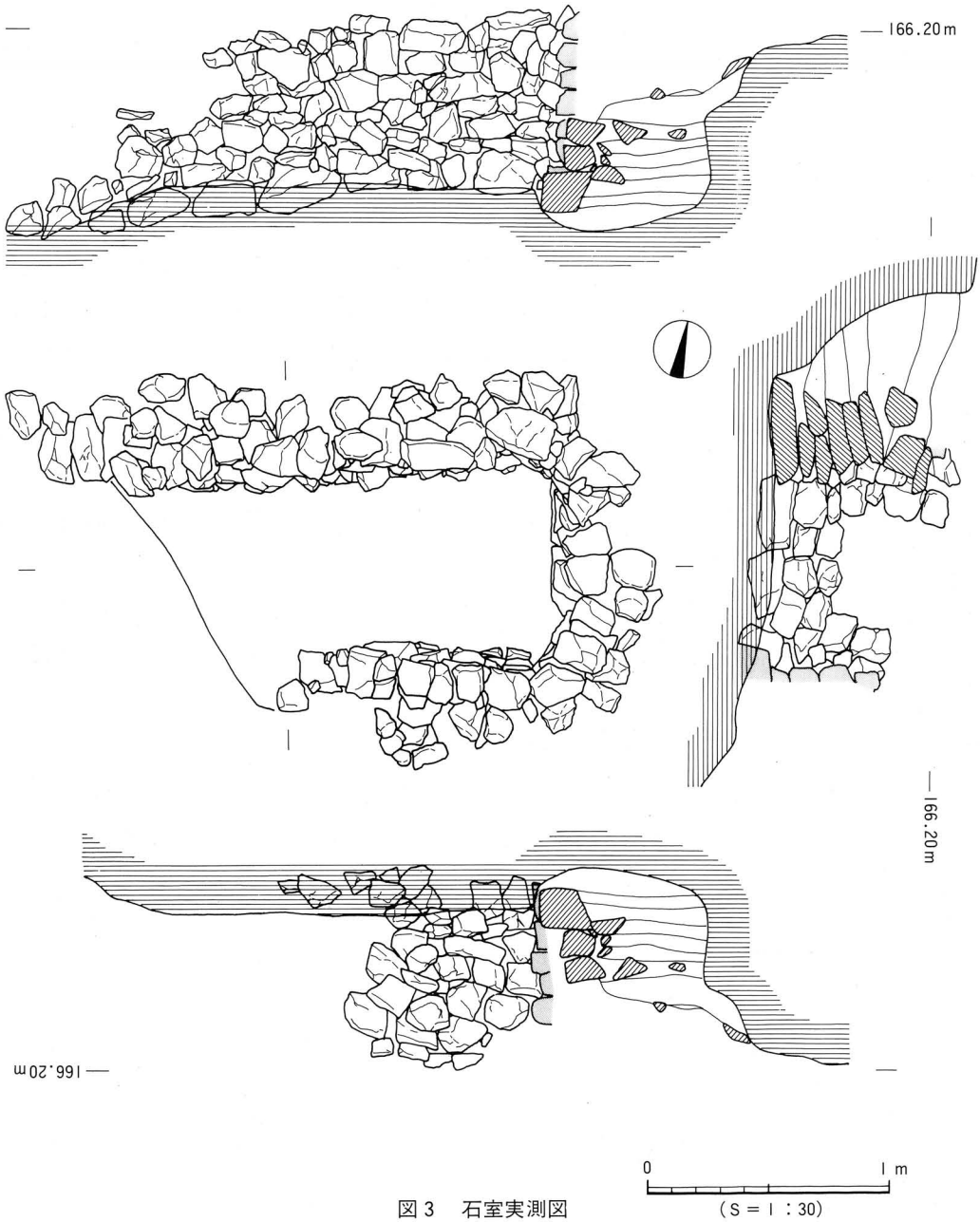



図３　石室実測図

かれていることがわかった。石室は現況で東小口床面幅0.7ｍ、北側壁長2.1ｍ、南側壁長1.0ｍを測る。高さは、遺存の良好な北壁で0.8ｍ程度であるが、石室規模からみてこれ以上さほど高くはならないと考えられる。石材の積みは粗雑で、控え積みもほとんどなく、裏込め土によって強度を保っている。小口および北壁の最下段には若干大きめの石を用いるが、南壁には使われていない。現存する範囲では壁体に持ち送りはみられない。また、コーナー部分が隅丸形に弧を描くように突き合わされるが、しっかりと噛み合わされるような構造ではない。

墓壙は墳丘完成後に、石室よりもふたまわり程度大きく楕円形状のプランで掘り込まれ、主体部はその床面まで盛土中に構築されている。床は乳白色粘質土のフラットな面で、特別の施設を持たない。

遺物の多くは石室東小口床面直上で検出された。出土したものには鉄鏃、馬具（轡）、刀子、砥石があり、この部分には赤色顔料が分布している。鉄鏃は北東コーナー部で、刃部を小口側に向けた状態で長軸に平行に10数本の束になって置かれ、この鉄鏃の南、石室中軸ラインよりやや北には轡の一部が、さらにその南では刀子が検出されている。砥石は小口壁に接して置かれていた。

一方、北側壁直近の小口壁から1.5～1.7ｍの周辺で、ガラス小玉29点が出土したが、この周辺は竹根による攪乱で床面がかなり傷んでおり、出土レベルは不安定である。

**小結**　墳丘出土遺物からこの古墳の所属時期を判断すると、５世紀末の年代を与えることができる。ところで、松山平野での同年代の古墳を拾ってみると、東野町東野茶屋跡古墳群の数基の円墳、石風呂町鶴が峠古墳群中の円墳Ｌ区１～３号墳、船ケ谷町三ツ石山古墳、同町にあって前方後円墳の可能性が指摘されている向山古墳などがあげられる。しかしながら、これらの古墳はいずれもが削平され、主体部の構造が全く知られておらず、木棺直葬あるいは箱式石棺などを推定されるにとどまっていた。この意味で、当該時期の古墳の主体部のバリエーションとして小竪穴式石室があることが明らかになったことは大きな収穫である。

また、詳細は本報告において行うが、墳丘築成の各工程と、墓壙・主体部との関係が精査できた調査であったことも評価されてよい。

さらに、本調査によって、道後平野北部における古墳の主体部への横穴式石室の採用が５世紀末段階までは遡らない可能性が高くなった。溝辺１号墳や三島神社古墳にみられるように、６世紀前半には確実に横穴式石室が採用されており、横穴式石室の導入時期が本調査によってさらに細かくしぼられる可能性がでてきたことも重要である。（大森）

写真１　墳丘完掘状況（北西より）

写真２　石室完掘状況（南より）

写真３　石室遺物出土状況（南より）

# 松山市埋蔵文化財調査関係資料

例　言

1．本編は、松山市教育委員会文化教育課・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。

2．今回は平成７年度（申請番号１号～344号．平成７年４月１日～平成８年３月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成６年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報Ⅰ（昭和60～61年度)』、『同年報Ⅱ（昭和62～63年度)』、『同年報Ⅲ（平成元年～２年度)』、『同年報Ⅳ（平成２年～３年度)』、『同年報Ⅴ（平成３年～４年度)』、『同年報Ⅵ（平成４年～５年度)』、『同年報Ⅶ（平成５年～６年度)』を参照されたい。

3．資料作成（一覧表及び付録図）は、栗田正芳、末光博武、重谷典男、藤本数夫、波多野恭久、岩岡慎一が行った。

4．表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成７年度に行った調査を取り扱う。

5．付録図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用した。

6．一覧の略記について

①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、( )調査区内平均値。③調査目的：公＝施主公共団体、私：施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

平成７年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧

| No. | 所　在　地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 桑原7丁目457 | 165 | | 私 | 既済 | | | 本格調査済<br>桑原遺跡 |
| 2 | 道後一万771－14 | 121 | (31.44) | 私 | 試掘 | | | |
| 3 | 平井町甲2172－6 | 391 | (62.30) | 私 | 試掘 | | | |
| 4 | 北久米町477－2 | 348 | (32.81) | 私 | 試掘 | 柱穴、土坑 | 弥生、土師器 | 本格調査要 |
| 5 | 衣山4丁目631－5 | 181 | 34.34 | 私 | 試掘 | | | |
| 6 | 桑原3丁目349他2筆 | 1,959 | (40.02) | 私 | 試掘 | | | |
| 7 | 桑原6丁目～1丁目 | 44 | (35.10) | 公 | 立会 | | | |
| 8 | 束本1丁目～桑原6丁目 | 37 | (34.19) | 公 | 立会 | | | |
| 9 | 上野町乙87－1 | 176 | 59.30 | 私 | 立会 | | | 市教育委員会にて処理 |
| 10 | 樽味2丁目4－12～2－7 | 326 | 40.50 | 公 | 立会 | | | |
| 11 | 北斎院町378－1 | 19 | 10.14 | 私 | 試掘 | | | |
| 12 | 東野5丁目8－20他4筆 | 324 | (50.90) | 私 | 試掘 | | | |
| 13 | 福音寺町750他1筆 | 2,921 | (23.81) | 私 | 試掘 | | | |
| 14 | 西石井町214－2他3筆 | 895 | (21.48) | 私 | 試掘 | | | |
| 15 | 桑原1丁目1001 | 1,105 | (37.16) | 私 | 試掘 | | | |
| 16 | 鷹子町659－6 | 168 | 45.36 | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 樽味2丁目278－1、－5 | 462 | (40.94) | 私 | 試掘 | 包含層、溝 | 弥生土器、須恵器、土師器 | 本格調査要<br>樽味高木遺跡4次調査 |
| 18 | 桑原6丁目712－1 | 240 | (35.86) | 私 | 試掘 | | | |
| 19 | 道後北代1290－3 | 697 | (32.21) | 私 | 試掘 | | | |
| 20 | 北梅本町甲3271－18 | 233 | (79.18) | 私 | 試掘 | | | |
| 21 | 南久米町443－1 | 327 | 34.70 | 私 | 試掘 | | | |
| 22 | 来住町533－1 | 385 | (40.28) | 私 | 試掘 | 包含層、柱穴 | 須恵器、土師器 | 本格調査要<br>来住町遺跡6次調査 |
| 23 | 清水町1丁目7－15、－16 | 103 | (25.26) | 私 | 試掘 | | | |
| 24 | 朝生田町285 | 108 | 19.00 | 私 | 試掘 | | | 市教育委員会にて処理 |
| 25 | 東本1丁目97－5 | 123 | (33.55) | 私 | 試掘 | | | |
| 26 | 東石井町191－1 | 731 | (20.87) | 私 | 試掘 | | | |
| 27 | 朝美1丁目1313 | 231 | 14.12 | 私 | 試掘 | | | |
| 28 | 南久米町694－1 | 520 | (39.54) | 私 | 試掘 | 包含層、柱穴 | 弥生土器 | 本格調査要 |
| 29 | 樽味4丁目201－2 | 120 | 40.00 | 私 | 試掘 | | | |
| 30 | 今在家町61－1、－2 | 889 | (31.85) | 私 | 試掘 | | | |
| 31 | 安城寺町212－1 | 2,128 | (7.98) | 私 | 試掘 | | | |
| 32 | 平井町甲1486、1487 | 732 | (69.56) | 私 | 試掘 | | | |
| 33 | 船ヶ谷町330－3 | 210 | 7.11 | 私 | 試掘 | | | |
| 34 | 東石井町2－41－89、－90 | 326 | 29.78 | 私 | 試掘 | | | |
| 35 | 拓川町446－2他1筆 | 481 | (20.73) | 私 | 試掘 | | | |
| 36 | 小坂5丁目310－3 | 506 | (23.17) | 私 | 試掘 | | | |
| 37 | 南土居町99－3 | 237 | 40.28 | 私 | 試掘 | | | |
| 38 | 朝生田町222－1 | 232 | 20.15 | 私 | 試掘 | | | |
| 39 | 桑原2丁目～1丁目 | 571 | (38.20) | 公 | 立会 | | | |
| 40 | 福音寺町581～513 | 211 | (25.15) | 公 | 立会 | | | |
| 41 | 南高井町1606－12 | 100 | 36.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 42 | 北久米町692－1 | 61 | 32.87 | 私 | 試掘 | | | |
| 43 | 北久米町698－3他3筆 | 697 | 35.16 | 私 | 立会 | | | |
| 44 | 平井町甲1376－1他2筆 | 545 | 70.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 45 | 西野町180他 | 600 | 59.90 | 公 | 試掘 | | | 市教育委員会にて処理 |
| 46 | 山西町75他3筆 | 2,448 | | 私 | 未 | | | |
| 47 | 山越1丁目328－8 | 336 | 18.57 | 私 | 試掘 | | | |
| 48 | 南久米町476－1他2筆 | 362 | (34.19) | 私 | 試掘 | 住居址、溝 | 弥生土器 | 本格調査要 |
| 49 | 道後樋又1215－2、－3 | 355 | 28.13 | 私 | 試掘 | | | |
| 50 | 石風呂町463－1他1筆 | 564 | | 私 | 既済 | | | 本格調査済<br>鶴が峠遺跡 |
| 51 | 来住町907－1 | 989 | 37.48 | 私 | 試掘 | 住居址、土坑 | 須恵器、土師器 | 本格調査要 |
| 52 | 山西町801－1 | 1,078 | (3.10) | 私 | 試掘 | | | |
| 53 | 桑原1丁目～2丁目 | 108 | (37.15) | 公 | 立会 | | | |
| 54 | 拓川町468－1、－2 | 989 | (20.53) | 私 | 試掘 | | | |
| 55 | 東石井町192－1 | 352 | (19.73) | 私 | 試掘 | | | |
| 56 | 道後今市5－48 | 650 | 30.90 | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | 上野町甲808－66 | 305 | | 私 | 既済 | | | 本格調査済<br>土壇原遺跡 |
| 58 | 南斎院町乙66－18 | 645 | (24.05) | 私 | 試掘 | | | |
| 59 | 北斎院町1244、1245 | 416 | 8.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 60 | 北斎院町1246－2 | 88 | 10.00 | 私 | 試掘 | | | |
| 61 | 道後北代155－3 | 200 | 34.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 62 | 辻町270－5 | 496 | | 私 | 既済 | | | S60－4にて立会済み |
| 63 | 朝生田町213 | 436 | 20.27 | 私 | 試掘 | | | |
| 64 | 常光寺町甲414 | 231 | 63.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 65 | 山越2丁目41－1 | 172 | (16,45) | 私 | 試掘 | | | |
| 66 | 山越1丁目甲270－6 | 331 | (18.09) | 私 | 試掘 | | | |
| 67 | 山越1丁目甲272－3 | 319 | (18.37) | 私 | 試掘 | | | |
| 68 | 山越1丁目甲270－3他4筆 | 1,862 | | 私 | 取消 | | | H7－90、91に差し替え |
| 69 | 三町1丁目415－2 | 129 | 32.15 | 私 | 試掘 | | | |
| 70 | 南梅本町乙107 | 102 | | 公 | 試掘 | | | 県教育委員会にて処理 |
| 71 | 水泥町1195 | 233 | 62.60 | 私 | 立会 | | | |
| 72 | 小坂5丁目358－4、－7 | 149 | 24.06 | 私 | 試掘 | | | |
| 73 | 南久米町401－3 | 373 | 37.58 | 私 | 試掘 | | | |
| 74 | 久万ノ台1403～1338 | 231 | 29.50 | 公 | 立会 | | | |
| 75 | 拓川町463－6 | 465 | 19.71 | 私 | 試掘 | | | |
| 76 | 枝松6丁目10－24 | 673 | 27.77 | 私 | 試掘 | | | |
| 77 | 道後喜多町1323－7他2筆 | 402 | 34.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 78 | 道後喜多町1329－8他2筆 | 255 | 34.31 | 私 | 試掘 | | | |
| 79 | 道後喜多町1330－3 | 280 | 34.24 | 私 | 試掘 | | | |
| 80 | 南江戸5丁目738－4 | 173 | 13.76 | 私 | 試掘 | | | |
| 81 | 北斎院町306－2 | 194 | 10.98 | 私 | 試掘 | | | |
| 82 | 桑原4丁目878－5 | 331 | (38.67) | 私 | 試掘 | | | |
| 83 | 平井町1440 | 321 | 66.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 84 | 清水町2丁目20－26 | 111 | 23.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 85 | 来住町961－1 | 949 | (34.89) | 私 | 試掘 | | | |
| 86 | 畑寺2丁目456－19 | 1,077 | | 私 | 既済 | | | H5－51、52にて試掘完了済み |
| 87 | 太山寺町554 | 419 | 3.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 88 | 谷町263－2、264 | 238 | 17.50 | 私 | 試掘 | | | |
| 89 | 道後今市1057－12 | 227 | (31.45) | 私 | 試掘 | | | |
| 90 | 山越1丁目甲270－3他1筆 | 322 | (18.06) | 私 | 試掘 | | | |
| 91 | 山越1丁目甲271－1他2筆 | 1,540 | (18.21) | 私 | 試掘 | | | |
| 92 | 南久米町1163 | 843 | 39.20 | 私 | 立会 | 包含層、溝 | 須恵器、<br>土師器 | 本格調査要<br>久米高畑遺跡25次調査 |
| 93 | 畑寺2丁目443 | 309 | 42.80 | 私 | 立会 | | | |
| 94 | 南江戸6丁目1668 | 988 | 28.36 | 私 | 試掘 | | | |
| 95 | 別府町419－3 | 472 | (5.08) | 私 | 試掘 | | | |
| 96 | 枝松5丁目121－16他4筆 | 514 | (27.42) | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 97 | 中村2丁目289－2 | 153 | 26.95 | 私 | 試掘 | | | |
| 98 | 南土居町279－1 | 1,352 | 37.93 | 私 | 試掘 | | | |
| 99 | 北梅本町丙45－2、－3 | 310 | 124.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 100 | 道後一万 | 181 | | 公 | 未 | | | |
| 101 | 桑原5丁目563－5 | 84 | 34.70 | 私 | 試掘 | | | |
| 102 | 辻町33 | 238 | 14.00 | 私 | 試掘 | | | |
| 103 | 鷹子町638－1、－2 | 985 | (47.31) | 私 | 試掘 | | | |
| 104 | 鷹子町638－3 | 527 | 47.19 | 私 | 試掘 | | | |
| 105 | 清水町2丁目18－8 | 278 | 23.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 106 | 南斎院町乙67－6 | 6,000 | (32.82) | 公 | 試掘 | | | |
| 107 | 平井町甲1780－1他2筆 | 306 | 66.40 | 私 | 試掘 | | | |
| 108 | 平井町1414－3 | 261 | 67.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 109 | 桑原5丁目559－2、－4 | 896 | (33.49) | 私 | 試掘 | 溝、土坑 | 須恵器、土師器 | 本格調査要<br>桑原田中遺跡3次調査 |
| 110 | 権現町甲113－2、－4 | 625 | (28.38) | 私 | 試掘 | | | |
| 111 | 南久米町653－1他2筆 | 424 | (40.90) | 私 | 試掘 | | | |
| 112 | 福音寺町697－1 | 935 | (23.37) | 私 | 試掘 | | | |
| 113 | 姫原1丁目1656他 | 5,191 | (46.50) | 私 | 試掘 | | | |
| 114 | 清水町2丁目20－4 | 184 | 23.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 115 | 北斎院町380－1、－2 | 455 | 9.61 | 私 | 試掘 | | | |
| 116 | 北梅本町甲3280－27 | 322 | 77.25 | 私 | 試掘 | | | |
| 117 | 小坂3丁目229－5 | 247 | 28.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 118 | 姫原1丁目229－1他1筆 | 448 | (22.28) | 私 | 試掘 | | | |
| 119 | 北斎院町1066－5 | 197 | (7.83) | 私 | 試掘 | | | |
| 120 | 桑原5丁目870－8 | 336 | (35.90) | 私 | 試掘 | | | |
| 121 | 道後樋又1152－6 | 175 | (28.40) | 私 | 試掘 | | | |
| 122 | 南久米町442－3 | 165 | 35.40 | 私 | 試掘 | | | |
| 123 | 南久米町506 | 771 | (31.10) | 私 | 試掘 | | | |
| 124 | 西石井町73 | 565 | (20.81) | 私 | 試掘 | | | |
| 125 | 久米窪田町1－6 | 180 | 49.33 | 私 | 試掘 | | | |
| 126 | 清水町2丁目20－9 | 161 | 23.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 127 | 別府町703 | 214 | (8.85) | 私 | 試掘 | | | |
| 128 | 今在家町428－1 | 272 | (30.75) | 私 | 試掘 | | | |
| 129 | 権現町甲360 | 165 | (34.68) | 私 | 立会 | | | |
| 130 | 東石井町617－21 | 163 | 26.01 | 私 | 試掘 | | | |
| 131 | 平井町甲1974－4 | 318 | 66.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 132 | 古三津5丁目552－4 | 117 | | 私 | 既済 | | | H5－205にて試掘完了済み |
| 133 | 古三津5丁目552－6 | 118 | | 私 | 既済 | | | H5－205にて試掘完了済み |
| 134 | 古三津5丁目552－7 | 110 | | 私 | 既済 | | | H5－205にて試掘完了済み |
| 135 | 南久米町775－10 | 317 | 37.98 | 私 | 試掘 | | | |
| 136 | 西石井町64－1 | 442 | 20.86 | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | 道後北代7－5 | 186 | 31.41 | 私 | 試掘 | | | |
| 138 | 南久米町373－9 | 215 | 38.33 | 私 | 試掘 | | | |
| 139 | 南久米町770－5 | 177 | | 私 | 既済 | | | 本格調査済<br>久米高畑遺跡22次調査 |
| 140 | 古三津5丁目552－3 | 119 | | 私 | 既済 | | | H5－205にて試掘完了済み |
| 141 | 平井町2102－1 | 271 | 60.78 | 私 | 試掘 | | | |
| 142 | 小坂5丁目322－1 | 879 | (22.47) | 私 | 試掘 | | | |
| 143 | 久万ノ台715 | 157 | (15.65) | 公 | 立会 | | | |
| 144 | 今在家町418－1 | 1,082 | (30.58) | 私 | 試掘 | | | |
| 145 | 鷹子町576 | 292 | (49.66) | 私 | 試掘 | | | |
| 146 | 桑原1丁目787－6、－7 | 657 | (36.23) | 私 | 試掘 | | | |
| 147 | 天山町25－1 | 635 | (20.60) | 私 | 試掘 | | | |
| 148 | 平井町甲1595 | 296 | 70.58 | 私 | 試掘 | | | |
| 149 | 鷹子町651 | 227 | 46.52 | 私 | 試掘 | | | |
| 150 | 畑寺2丁目13－40 | 214 | 46.41 | 私 | 試掘 | | | |
| 151 | 久米窪田町329－5他 | 447 | 46.70 | 公 | 立会 | | | |
| 152 | 天山町214－5 | 249 | 20.47 | 私 | 試掘 | | | |
| 153 | 来住町523－1 | 28 | 40.18 | 私 | 試掘 | | | |
| 154 | 南梅本町乙68 | 409 | 95.57 | 私 | 試掘 | | | |
| 155 | 南久米町472－1他2筆 | 672 | 34.41 | 私 | 試掘 | | | |
| 156 | 鷹子町乙1－14他7筆 | 264 | 57.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 157 | 南江戸6丁目1355－3 | 289 | 14.37 | 私 | 試掘 | | | |
| 158 | 桑原5丁目559－12 | 222 | 33.70 | 私 | 試掘 | | | |
| 159 | 祝谷町1丁目14－6 | 107 | 57.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 160 | 来住町874、873－2 | 440 | 38.21 | 私 | 試掘 | 包含層、溝 | 弥生、須恵器 | 本格調査要 |
| 161 | 別府町755－2 | 1,510 | 2.70 | 公 | 試掘 | | | |
| 162 | 御幸1丁目513－1 | 4,644 | | 私 | 踏査 | | | |
| 163 | 平井町甲1418－5 | 157 | 70.40 | 私 | 立会 | | | |
| 164 | 南江戸5丁目738－1他1筆 | 659 | (13.44) | 私 | 試掘 | | | |
| 165 | 新浜町1118－1 | 909 | (6.89) | 私 | 試掘 | | | |
| 166 | 道後北代155－3 | 190 | | 私 | 既済 | | | H7－61にて試掘完了済み |
| 167 | 今在家町420－38 | 218 | 30.67 | 私 | 立会 | | | |
| 168 | 小坂4丁目1－28－1－1他3筆 | 1,486 | (26.40) | 私 | 試掘 | 住居址、溝 | 弥生土器 | 本格調査要<br>釜ノ口遺跡8次調査 |
| 169 | 朝生田町459他3筆 | 1,595 | (19.03) | 私 | 試掘 | | | |
| 170 | 西石井町63－1他 | 748 | (20.35) | 公 | 立会 | | | |
| 171 | 桑原2丁目～5丁目他 | 503 | (37.00) | 公 | 立会 | | | |
| 172 | 南斎院町1338－16 | 1,156 | | 私 | 踏査 | | | |
| 173 | 北斎院町379－8 | 182 | 10.02 | 私 | 試掘 | | | |
| 174 | 水泥町987－1 | 269 | 68.37 | 私 | 試掘 | | | |
| 175 | 緑町1丁目4－6 | 176 | 28.53 | 私 | 試掘 | | | |
| 176 | 松末2丁目13－7 | 165 | 27.99 | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 177 | 久米窪田町489 | 1,088 | (45.39) | 私 | 試掘 | | | |
| 178 | 権現町乙160 | 8,000 | | 公 | 未 | | | |
| 179 | 恵原町甲1432 | 68,000 | | 公 | 未 | | | |
| 180 | 来住町873－1 | 123 | 38.30 | 私 | 試掘 | 土坑 | 弥生、須恵器 | 本格調査要 |
| 181 | 立花6丁目393－12 | 134 | 19.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 182 | 平井町甲1704～2391 | 14,500 | (72.61) | 公 | 試掘 | 溝 | 弥生、土師器 | 本格調査要 |
| 183 | 今在家町420－26 | 213 | 30.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 184 | 朝生田町478－1他3筆 | 612 | 18.65 | 私 | 試掘 | | | |
| 185 | 平井町甲1331－1他2筆 | 189 | 72.82 | 私 | 試掘 | | | |
| 186 | 平井町甲1523他3筆 | 1,368 | (66.11) | 私 | 試掘 | | | |
| 187 | 星岡町684－6、－13 | 102 | 25.84 | 私 | 試掘 | | | |
| 188 | 枝松5丁目75－1 | 371 | 28.70 | 私 | 試掘 | | | |
| 189 | 東方町甲1276－1 | 322 | 54.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 190 | 平井町甲1827～1851 | 1,227 | (65.80) | 公 | 立会 | | | |
| 191 | 平井町甲1640～1780 | 1,513 | (77.20) | 公 | 立会 | | | |
| 192 | 高砂町2丁目3－11 | 110 | 22.40 | 私 | 試掘 | | | |
| 193 | 朝美1丁目1363 | 119 | 19.16 | 私 | 試掘 | | | |
| 194 | 桑原6丁目528－6 | 304 | (32.60) | 私 | 試掘 | | | |
| 195 | 福音寺町431－1、－2 | 396 | (29.03) | 私 | 試掘 | | | |
| 196 | 桑原1丁目787－1 | 471 | (36.39) | 私 | 試掘 | | | |
| 197 | 拓川町481－6 | 97 | 19.70 | 私 | 試掘 | | | |
| 198 | 平井町3157－65 | 231 | 48.53 | 私 | 試掘 | | | |
| 199 | 桑原5丁目870－1 | 138 | | 私 | | | | 市教育委員会にて処理 |
| 200 | 松末2丁目1116 | 1,566 | (25.66) | 私 | 試掘 | | | |
| 201 | 新浜町1110－3他3筆 | 2,753 | (3.13) | 私 | 試掘 | | | |
| 202 | 平井町甲3157－181 | 236 | 48.54 | 私 | 試掘 | | | |
| 203 | 辻町343－1他2筆 | 1,750 | (15.39) | 私 | 試掘 | | | |
| 204 | 東石井町533－1 | 464 | 22.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 205 | 来住町888－1他2筆 | 1,326 | (37.40) | 私 | 試掘 | 包含層、柱穴 | 弥生、須恵器 | 本格調査要<br>久米高畑遺跡26次調査 |
| 206 | 北梅本町 | 1,560 | (104.00) | 公 | 立会 | | | |
| 207 | 南久米町196－6 | 494 | (28.00) | 私 | 試掘 | | | |
| 208 | 別府町589他2筆 | 210 | (5.20) | 公 | 立会 | | | |
| 209 | 久万ノ台1112 | 182 | 28.19 | 私 | 試掘 | | | |
| 210 | 山越2丁目47－4、－11 | 198 | 17.33 | 私 | 試掘 | | | |
| 211 | 北久米町703 | 252 | | 私 | 既済 | | | H6－200にて本格調査要<br>北久米浄蓮寺遺跡5次調査 |
| 212 | 道後喜多町1009－3 | 522 | (35.01) | 私 | 試掘 | | | |
| 213 | 天山町208～210 | 26 | 19.80 | 公 | 立会 | | | |
| 214 | 天山町221～50 | 438 | (21.00) | 公 | 立会 | | | |
| 215 | 南高井町1606－5 | 104 | 36.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 216 | 溝辺町乙6－5、8－27 | 249 | | 私 | | | | 市教育委員会にて処理 |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 217 | 南土居町208 | 467 | (38.64) | 私 | 試掘 | | | |
| 218 | 来住町870－2 | 146 | (39.30) | 私 | 試掘 | | | |
| 219 | 北梅本町乙676 | 1,000 | | 公 | 未 | | | |
| 220 | 太山寺町1934 | 2,800 | | 公 | 未 | | | |
| 221 | 桑原4丁目650～622 | 185 | (37.90) | 公 | 立会 | | | |
| 222 | 森松町194－3 | 254 | (34.66) | 私 | 試掘 | | | |
| 223 | 北久米町497－1 | 467 | (34.46) | 私 | 試掘 | | | |
| 224 | 鷹子町乙511－1、－2 | 1,500 | (70.21) | 私 | 試掘 | | | |
| 225 | 南江戸4丁目1－1 | 272 | | 公 | 未 | | | |
| 226 | 南高井町1594－3 | 416 | 35.60 | 私 | 試掘 | | | |
| 227 | 福音寺町406－1 | 1,059 | (28.80) | 私 | 試掘 | 包含層、住居址 | 須恵器、土師器 | 本格調査要 |
| 228 | 安城寺町96－3 | 871 | (8.43) | 私 | 試掘 | | | |
| 229 | 祝谷5丁目690－1 | 122 | 43.46 | 私 | 試掘 | | | |
| 230 | 吉藤1丁目742－5 | 140 | 36.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 231 | 道後緑台234－1 | 571 | 36.95 | 私 | 試掘 | | | |
| 232 | 南久米町204－4他2筆 | 948 | (39.77) | 私 | 試掘 | | | |
| 233 | 北梅本町甲3261－3 | 108 | 77.50 | 私 | 試掘 | | | |
| 234 | 平井町2163－1 | 242 | 61.40 | 私 | 試掘 | | | |
| 235 | 来住町870－1 | 208 | 39.12 | 私 | 試掘 | 柱穴 | 須恵器、土師器 | 本格調査要 |
| 236 | 大街道3丁目2－40 | 571 | (27.50) | 私 | 試掘 | | | |
| 237 | 南江戸3丁目785－1 | 985 | 13.32 | 私 | 試掘 | | | |
| 238 | 天山町27－1、28－1 | 546 | (24.06) | 私 | 試掘 | | | |
| 239 | 福音寺町417－3 | 335 | 28.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 240 | 天山町255－1他1筆 | 661 | 23.46 | 私 | 試掘 | | | |
| 241 | 溝辺町乙437 | 2,732 | (111.00) | 私 | 試掘 | 石室 | 須恵器、土師器 | 本格調査要<br>溝辺2号墳 |
| 242 | 西石井町194－1 | 256 | 21.49 | 私 | 試掘 | | | |
| 243 | 平井町甲2189－13 | 283 | 64.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 244 | 山越1丁目289－6 | 106 | 19.28 | 私 | 試掘 | | | |
| 245 | 鷹子町203－2他7筆 | 729 | | 私 | 取消 | | | H8－86に差し替え |
| 246 | 今在家町451－1 | 198 | 30.14 | 私 | 試掘 | | | |
| 247 | 道後喜多町1010－3、－4 | 835 | 35.07 | 私 | 試掘 | | | |
| 248 | 安城寺町96－1 | 162 | 8.91 | 私 | 試掘 | | | |
| 249 | 朝美2丁目1256－1 | 199 | 14.46 | 私 | 試掘 | | | |
| 250 | 太山寺町486 | 972 | (3.90) | 私 | 試掘 | 包含層、土坑 | 縄文、弥生 | 本格調査要 |
| 251 | 桑原4丁目639－5 | 175 | 38.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 252 | 桑原2丁目841－7他1筆 | 464 | (37.14) | 私 | 試掘 | | | |
| 253 | 小坂4丁目254－1他1筆 | 174 | (26.60) | 私 | 試掘 | | | |
| 254 | 南土居町101－2 | 105 | 39.64 | 私 | 試掘 | | | |
| 255 | 東石井町乙68－3 | 209 | | 私 | 既済 | | | 本格調査済<br>東山鷺ヶ森古墳 |
| 256 | 権現町甲347－1他1筆 | 641 | 35.38 | 私 | 試掘 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 257 | 衣山2丁目325－2 | 272 | (17.76) | 私 | 試掘 | | | |
| 258 | 来住町1145 | 1,335 | (35.13) | 私 | 試掘 | 包含層、住居址 | 須恵器、土師器 | 本格調査要 |
| 259 | 清水町2丁目6－4 | 294 | 23.00 | 私 | 試掘 | | | |
| 260 | 東垣生町836－5 | 595 | 4.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 261 | 星岡町600－3 | 222 | 27.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 262 | 梅津寺町乙56－334 | 585 | 20.76 | 私 | 試掘 | | | |
| 263 | 安城寺町586－1 | 108 | (8.64) | 公 | 試掘 | | | |
| 264 | 平井町甲1039－6 | 187 | 74.39 | 私 | 試掘 | | | |
| 265 | 別府町328 | 177 | 5.79 | 私 | 試掘 | | | |
| 266 | 平井町3157－87 | 100 | 48.00 | 公 | 立会 | | | |
| 267 | 南梅本町乙55－2 | 500 | 95.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 268 | 鷹子町29－2 | 184 | 41.64 | 私 | 試掘 | | | |
| 269 | 福音寺町702他8筆 | 4,548 | | 私 | 未 | | | |
| 270 | 北井門町219－1 | 197 | 24.07 | 私 | 試掘 | | | |
| 271 | 恵原町甲527 | 784 | 57.13 | 私 | 試掘 | | | |
| 272 | 平井町甲1726～乙416 | 72,000 | | 公 | 未 | | | |
| 273 | 北斎院町375－1 | 443 | (8.46) | 私 | 試掘 | | | |
| 274 | 朝生田町496－1 | 656 | (17.87) | 私 | 試掘 | | | |
| 275 | 南久米町183 | 422 | (36.05) | 私 | 試掘 | | | |
| 276 | 古三津3丁目15－7 | 126 | 9.97 | 私 | 試掘 | | | |
| 277 | 西石井町45－3 | 550 | | 私 | 未 | | | |
| 278 | 道後北代1304－1 | 225 | 33.47 | 私 | 試掘 | | | |
| 279 | 南久米町749、来住町872－2 | 637 | (38.30) | 私 | 試掘 | 溝、土坑 | 弥生、須恵器 | 本格調査要 |
| 280 | 朝美1丁目7－20 | 213 | (17.40) | 私 | 試掘 | | | |
| 281 | 来住町915－1 | 411 | 36.30 | 私 | 試掘 | | | |
| 282 | 北久米町885－1 | 864 | (33.06) | 私 | 試掘 | 包含層、溝 | 土師器 | 本格調査要 |
| 283 | 小坂5丁目14－1、－2 | 960 | (25.28) | 私 | 試掘 | | | |
| 284 | 来住町568－2 | 238 | 40.10 | 私 | 試掘 | | | |
| 285 | 平井町1639－1他12筆 | 300 | (67.50) | 公 | 立会 | | | |
| 286 | 桑原6丁目712－10 | 279 | 35.74 | 私 | 試掘 | | | |
| 287 | 道後緑台359－1 | 995 | (39.95) | 私 | 試掘 | | | |
| 288 | 鷹子町67－5 | 220 | 42.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 289 | 今在家町221－3 | 1,471 | (31.20) | 私 | 試掘 | | | |
| 290 | 鷹子町109－15 | 123 | 46.18 | 私 | 試掘 | | | |
| 291 | 枝松6丁目6－24 | 327 | (27.50) | 私 | 試掘 | | | |
| 292 | 北久米町886－1 | 193 | 32.92 | 私 | 試掘 | 包含層、土坑 | 須恵器、土師器 | 本格調査要 |
| 293 | 桑原1丁目～樽味4丁目 | 446 | | 公 | 未 | | | |
| 294 | 福音寺町538～513 | 48 | (25.60) | 公 | 立会 | | | |
| 295 | 福音寺町513～444 | 88 | (26.75) | 公 | 立会 | | | |
| 296 | 桑原6丁目～1丁目 | 491 | | 公 | 未 | | | |

| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 297 | 南久米町351－1他3筆 | 377 | (38.41) | 私 | 試掘 | | | |
| 298 | 久万ノ台1341－1他1筆 | 343 | 26.02 | 私 | 試掘 | | | |
| 299 | 今在家町71－1 | 720 | (31.78) | 私 | 試掘 | | | |
| 300 | 今在家町440－1他1筆 | 523 | | 私 | 既済 | | | H6－8にて試掘完了済み |
| 301 | 鷹子町34－2 | 287 | 42.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 302 | 山越1丁目282－18 | 200 | 18.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 303 | 下伊台町1382－1 | 1,328 | (146.30) | 私 | 試掘 | | | |
| 304 | 鷹子町4－4 | 1,316 | (41.74) | 公 | 試掘 | | | |
| 305 | 北久米町441～南久米町459 | 1,111 | (35.11) | 公 | 立会 | | | |
| 306 | 北斎院町454－1 | 332 | (7.72) | 私 | 試掘 | | | |
| 307 | 清水町3丁目29他1筆 | 311 | 24.54 | 私 | 試掘 | | | |
| 308 | 今在家町420－51 | 221 | 30.77 | 私 | 試掘 | | | |
| 309 | 道後北代6－11 | 651 | 32.05 | 私 | 試掘 | | | |
| 310 | 道後町2丁目990－4 | 363 | 35.46 | 私 | 試掘 | | | |
| 311 | 桑原7丁目1－40 | 131 | 33.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 312 | 桑原4丁目417－6 | 200 | 39.82 | 私 | 試掘 | | | |
| 313 | 北久米町451－3 | 168 | 34.73 | 私 | 試掘 | | | |
| 314 | 平井町2169－26 | 341 | 59.50 | 私 | 試掘 | | | |
| 315 | 北斎院町951－1他3筆 | 2,269 | (8.89) | 私 | 試掘 | | | |
| 316 | 北井門町254－2、－5 | 662 | (23.24) | 私 | 試掘 | | | |
| 317 | 小坂5丁目300－1、－2 | 469 | (23.95) | 私 | 試掘 | | | |
| 318 | 衣山4丁目150－3 | 150 | (76.49) | 私 | 試掘 | | | |
| 319 | 山越2丁目656－6 | 154 | 17.60 | 私 | 試掘 | | | |
| 320 | 西長戸町639－1他6筆 | 4,543 | | 公 | 未 | | | |
| 321 | 桑原1丁目989－2 | 149 | 38.50 | 私 | 試掘 | | | |
| 322 | 南久米町766－1 | 963 | (36.49) | 私 | 試掘 | 包含層、柱穴 | 弥生、須恵器 | 本格調査要 |
| 323 | 今在家町447－3他1筆 | 978 | (29.53) | 私 | 試掘 | | | |
| 324 | 今在家町448 | 671 | (29.46) | 私 | 試掘 | | | |
| 325 | 桑原4丁目430－1 | 162 | (36.60) | 私 | 試掘 | | | |
| 326 | 姫原2丁目288－1 | 158 | 20.72 | 私 | 試掘 | | | |
| 327 | 道後喜多町1018－9 | 175 | (34.00) | 私 | 試掘 | | | |
| 328 | 西石井町384～東石井町443 | 191 | | 公 | 未 | | | |
| 329 | 上野町甲808－63 | 180 | | 私 | 未 | | | |
| 330 | 鷹子町86－2 | 303 | (43.89) | 私 | 試掘 | | | |
| 331 | 平井町甲2426－5 | 178 | (62.70) | 私 | 試掘 | | | |
| 332 | 桑原3丁目912－8 | 166 | (39.85) | 私 | 試掘 | | | |
| 333 | 安城寺町96－3他1筆 | 1,088 | | 私 | 既済 | | | H７－228・248にて試掘完了済み |
| 334 | 太山寺町甲434－3 | 499 | (3.92) | 私 | 試掘 | | | |
| 335 | 久万ノ台724－3 | 159 | 14.96 | 私 | 試掘 | | | |
| 336 | 来住町609 | 456 | 40.40 | 私 | 試掘 | | | |

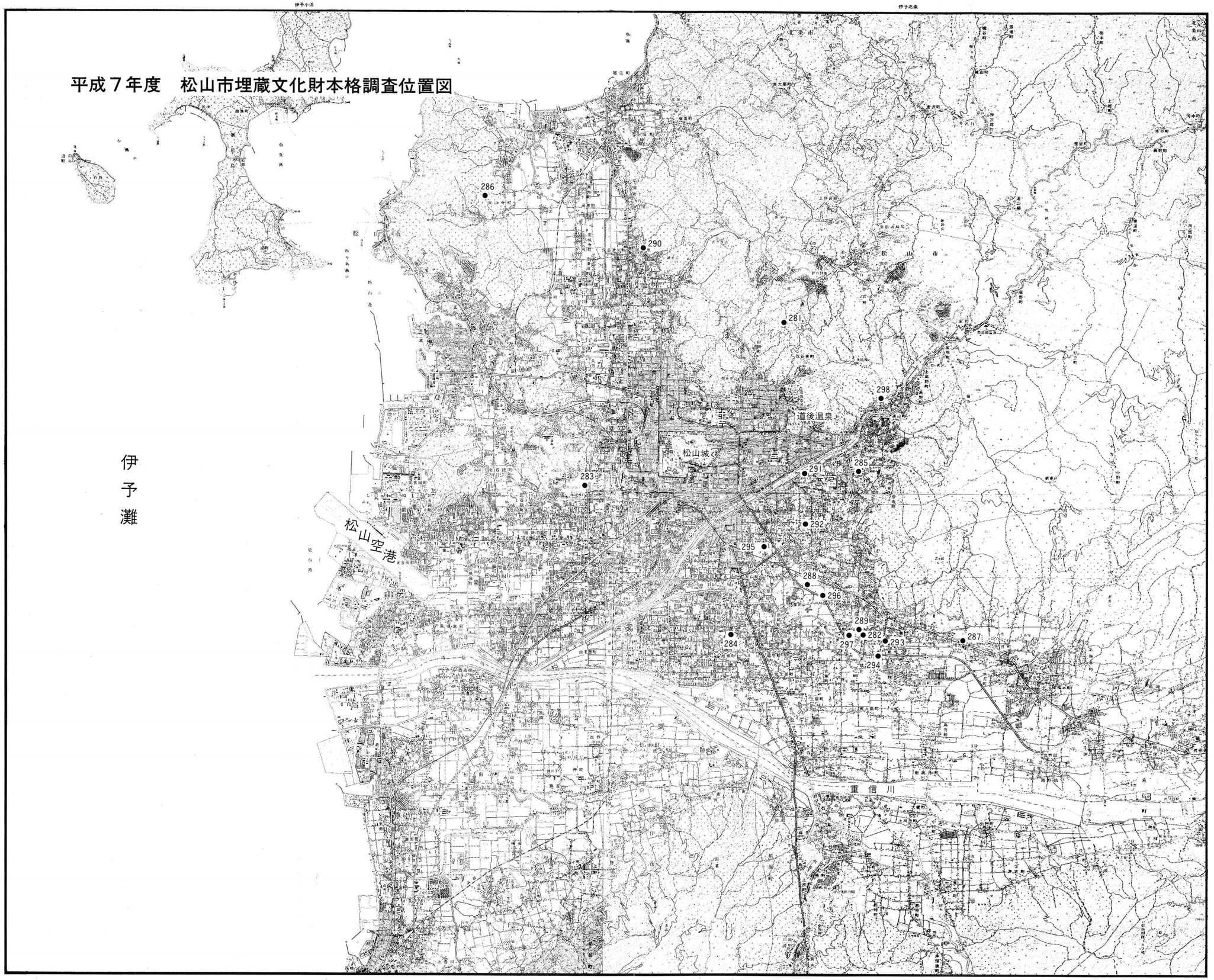
| No. | 所　在　地 | 面積(m²) | 標高(m) | 調査目的 | 調査方法 | 包含・遺構 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 337 | 畑寺町丙1－1他8筆 | 9,717 | (67.50) | 私 | 試掘 | 周溝 | 埴輪、須恵器 | 本格調査要 |
| 338 | 衣山3丁目455－11他1筆 | 224 | (23.34) | 私 | 試掘 | | | |
| 339 | 平井町甲3157－204 | 256 | (49.30) | 私 | 試掘 | | | |
| 340 | 北井門町290 | 120 | (23.59) | 私 | 試掘 | | | |
| 341 | 辻町342－1他5筆 | 1,100 | (15.55) | 私 | 試掘 | | | |
| 342 | 下伊台町乙188－1他95筆 | 250,840 | | 私 | 既済 | | | H5－26にて本格調査要<br>面積変更申請、瀬戸風峠遺跡 |
| 343 | 下伊台町乙193－1他50筆 | 53,329 | | 私 | 未 | | | |
| 344 | 東野4丁目甲577－1他6筆 | 1,946 | (60.55) | 私 | 試掘 | | | |

平成７年度　松山市埋蔵文化財本格調査一覧

| No. | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 調査目的 | 時　代 |
|---|---|---|---|---|
| 281 | 瀬戸風峠遺跡 | 下伊台町乙188－1外 | 緊　急 | 古墳 |
| 282 | 久米高畑遺跡24次調査地 | 南久米町723－1（一部） | 国　補 | 弥生・古墳 |
| 283 | 古照ゴウラ遺跡５次調査地 | 南江戸3丁目912外 | 緊　急 | 中世 |
| 284 | 石井幼稚園遺跡２次調査地 | 西石井町4－1 | 〃 | 弥生～中世 |
| 285 | 東野お茶屋台遺跡５次調査地 | 東野5丁目甲835－1外 | 〃 | 古墳・近世 |
| 286 | 太山寺経田遺跡３次調査地 | 太山寺町乙694－2外 | 〃 | 弥生・古墳 |
| 287 | 下苅屋遺跡 | 平井町甲2389外 | 国　補 | 古墳 |
| 288 | 乃万の裏遺跡２次調査地 | 北久米町773－1外 | 緊　急 | 弥生～中世 |
| 289 | 久米高畑遺跡25次調査地 | 南久米町1163 | 国　補 | 弥生・古墳 |
| 290 | 谷町遺跡 | 谷町371 | 〃 | 弥生～中世 |
| 291 | 樽味高木遺跡４次調査地 | 樽味2丁目278－1・5 | 緊　急 | 弥生～近世 |
| 292 | 桑原田中遺跡３次調査地 | 桑原5丁目559－2・4 | 〃 | 中世 |
| 293 | 来住町遺跡６次調査地 | 来住町533－1 | 国　補 | 弥生～中世 |
| 294 | 来住町遺跡７次調査地 | 来住町235－1 | 〃 | 古墳～中世 |
| 295 | 釜ノ口遺跡８次調査地 | 小坂4丁目28－1－1外 | 緊　急 | 弥生・中世 |
| 296 | 北久米浄蓮寺遺跡５次調査地 | 北久米町703 | 〃 | 古墳・中世 |
| 297 | 久米高畑遺跡26次調査地 | 来住町888－1、889－1、887－4 | 〃 | 縄文～中世 |
| 298 | 溝辺２号墳 | 溝辺町乙437 | 〃 | 古墳 |

| 主な遺構、遺物等 | 対象面積(m²) | 屋外調査期間 | No. |
|---|---|---|---|
| | 257,349 | H7、4、4～調査中 | 281 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、土坑、弥生、須恵 | 996 | H7、4、4～H7、5、31 | 282 |
| 掘立柱建物跡、土坑墓、井戸、土師、陶磁器、鉄鍋 | 6,319 | H7、4、5～H7、9、22 | 283 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、土坑、弥生、陶器 | 884 | H7、4、24～H7、7、4 | 284 |
| 横穴式石室、堤、排水路、須恵、耳環、土師 | 3,518 | H7、6、1～H7、11、30 | 285 |
| 土坑、溝、弥生、須恵、土師、石斧 | 2,500 | H7、6、1～H7、8、7 | 286 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、土坑、溝、須恵、土師 | 1,896 | H7、6、19～H7、9、27 | 287 |
| 掘立柱建物跡、溝、性格不明遺構、弥生、須恵、勾玉 | 1,574 | H7、7、17～H7、11、24 | 288 |
| 掘立柱建物跡、溝、土坑、弥生、石包丁、石斧 | 843 | H7、7、17～H7、8、31 | 289 |
| 竪穴住居址、溝、柱穴、弥生、須恵、土師 | 701 | H7、9、1～H7、10、26 | 290 |
| 柵列、土坑、自然流路、弥生、須恵、土師、陶磁器 | 426 | H7、10、11～H7、12、11 | 291 |
| 掘立柱建物跡、土坑、土師、瓦器、銭貨 | 896 | H7、11、10～H8、1、12 | 292 |
| 溝、性格不明遺構、柱穴、鋤跡、弥生、須恵 | 385 | H7、12、18～H8、2、9 | 293 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、溝、須恵、土師 | 1,574 | H7、12、11～H8、3、29 | 294 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、貯蔵穴、弥生、破鏡 | 1,486 | H7、12、11～H8、3、21 | 295 |
| 竪穴住居址、掘立柱建物跡、溝、須恵、土師 | 254 | H8、2、15～H8、3、29 | 296 |
| | 1,326 | H8、3、21～調査中 | 297 |
| 竪穴式石室、排水溝、須恵、土師 | 2,732 | H8、1、16～H8、1、23 | 298 |

# 平成７年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図



# 自然科学分析報告

平成５年度に調査を行った辻町遺跡２次調査地では５世紀後半のカマドを伴った竪穴住居址２棟や、５世紀末～６世紀前半の祭祀に伴うとみられる土器群が数箇所に点在する他、焼土や土坑を検出している。この調査に際し、各遺構の堆積土の性質からそれらが営まれた周辺環境や性格を推定する際の参考データーとすることを目的として、㈱古環境研究所に委託し、竪穴住居址、土坑、土器群（ＳＸ１）など、各遺構の土壌サンプルの植物珪酸体分析、及び土器群（ＳＸ１）から出土した種実の同定を行った。

これは辻町遺跡２次調査地の報告書（平成７年度発行）に掲載できなかった自然科学分析調査報告書を本年報中をお借りし掲載するものである。

## Ｉ．辻町遺跡２次調査の植物珪酸体分析

㈱古環境研究所

### １．試　料

試料は、ＳＢ１、焼土１、ＳＸ１、ＳＫ１から採取された５点である。

### ２．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

1）試料の絶乾（105℃・24時間）
2）試料約１ｇを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm・約0.02ｇ）
　※電子分析天秤により１万分の１ｇの精度で秤量
3）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
4）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）
5）沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥
6）封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
7）検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：$10^{-5}$ｇ）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。

### ３．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、キビ族型、ジュズダマ属、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族型、シコクビエ？、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、タケ亜科（未分類等）

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

クスノキ科（バリバリノキ？）、その他

4．考　察

(1) ＳＢ１

５世紀後半とされる竪穴住居址の床面付近の土壌（試料１、２）について分析を行った。その結果、イネおよびイネ科植物の細胞組織片（写真５）が多量に検出され、イネの機動細胞に由来する植物珪酸体も少量検出された。これらのことから、同住居址の床面にはイネ藁などが敷かれていた可能性が考えられる。

(2) 焼土１

６世紀前半とされる９層上面から検出された焼土１（試料３）について分析を行った。その結果、イネが5,500個／ｇと多量に検出された。また、シコクビエとみられる植物珪酸体（写真２）も検出された。これらのことから、イネ藁などが燃料として利用されていた可能性が考えられる。

(3) ＳＸ１、ＳＫ１

９層上面の窪地（ＳＸ１、試料４）および土坑（ＳＫ１、試料５）について分析を行った。その結果、ネザサ節型や棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型も比較的多く検出された。またイネが4,000個／ｇ前後と比較的高い密度で検出され、ヨシ属、ススキ属型、クスノキ科（バリバリノキ？）なども検出された。また、ＳＫ１ではジュズダマ属も少量検出された。

これらのことから、当時は遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体が混入したものと推定される。また、周辺はネザサ節などのタケ亜科植物を主体としてススキ属なども見られるイネ科植生であり、クスノキ科などの樹木も見られたものと推定される。ジュズダマ属には食用や薬用となるハトムギが含まれるが、現時点では栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。ただし、ＳＸ１ではハトムギの種実が検出されている（第Ⅱ章）ことから、ここで検出されたものもハトムギに由来する可能性が高いと考えられる。

参考文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表1　辻町遺跡2次調査地の植物珪酸体分析結果
検出密度(単位：×100個／g)

| 分類群＼試料 | 1<br>SB1 | 2<br>SB1 | 3<br>焼土1 | 4<br>SX1 | 5<br>SK1 |
|---|---|---|---|---|---|
| イネ科 | | | | | |
| イネ | 8 | 8 | 55 | 37 | 40 |
| キビ族型 | | 8 | | | |
| ジュズダマ属 | | | | | 8 |
| ヨシ属 | 16 | 15 | | 15 | |
| ススキ属型 | 16 | 23 | 16 | 22 | 24 |
| ウシクサ族型 | 16 | 53 | 39 | 127 | 40 |
| シコクビエ？ | | | 8 | | |
| タケ亜科 | | | | | |
| ネザサ節型 | 55 | 174 | | 232 | 230 |
| クマザサ属型 | | 8 | | | |
| メダケ節型 | | | | 15 | 8 |
| 未分類等 | 62 | 91 | | 232 | 103 |
| その他のイネ科 | | | | | |
| 表皮毛起源 | 16 | 15 | 8 | 52 | 8 |
| 棒状珪酸体 | 132 | 174 | 39 | 448 | 79 |
| 未分類等 | 210 | 272 | 62 | 695 | 214 |
| 樹木起源 | | | | | |
| クスノキ科(バリバリノキ？) | | | | 15 | |
| その他 | | | | | 8 |
| 植物珪酸体総数 | 531 | 841 | 227 | 1890 | 762 |

おもな分類群の推定生産量(単位：kg／m²・cm)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| イネ | 0.23 | 0.22 | 1.60 | 1.10 | 1.17 |
| ヨシ属 | 0.98 | 0.95 | | 0.94 | |
| ススキ属型 | 0.19 | 0.28 | 0.19 | 0.28 | 0.30 |
| ネザサ節型 | 0.26 | 0.83 | | 1.11 | 1.11 |
| クマザサ属型 | | 0.06 | | | |

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

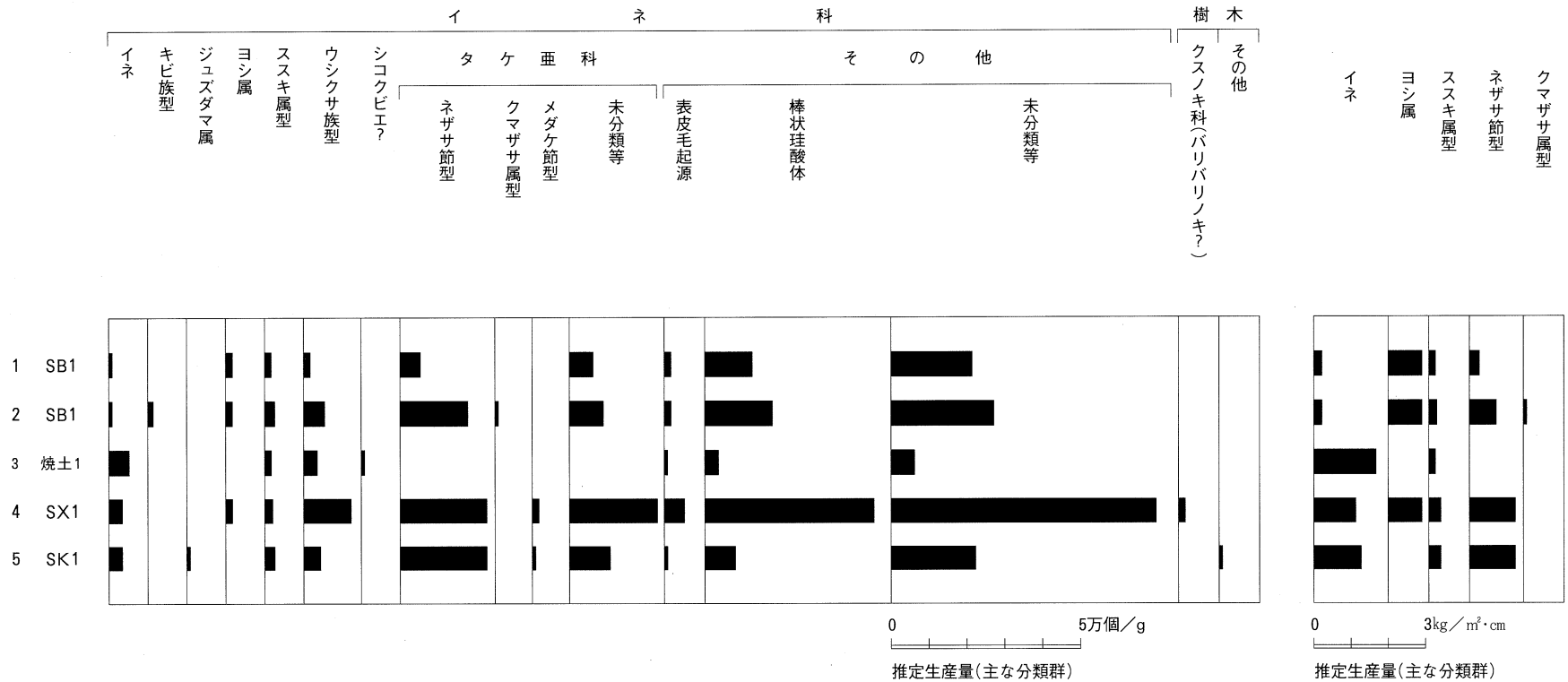
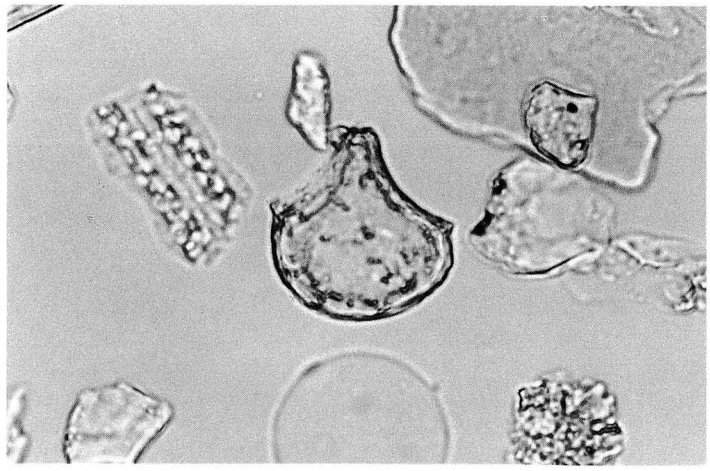
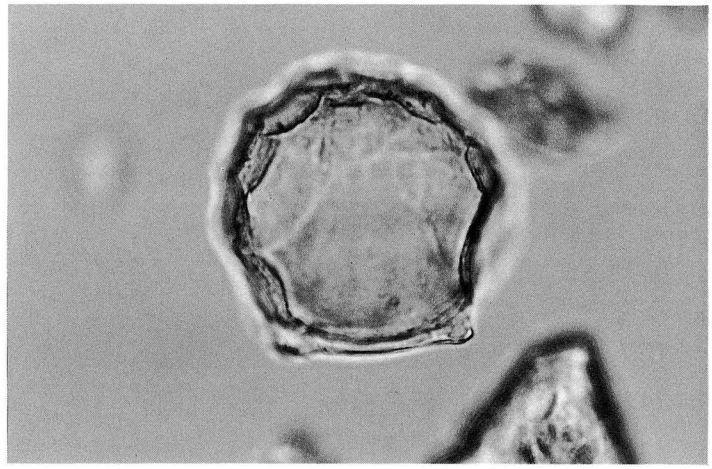


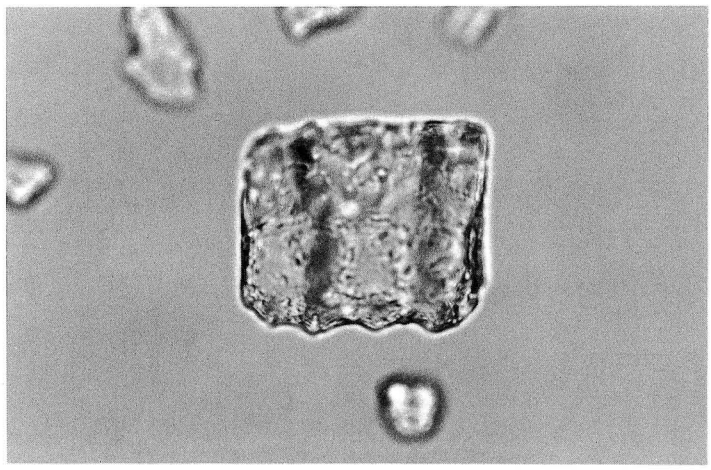

**図1　辻町遺跡2次調査地の植物珪酸体分析結果**



1．イネ（試料1）



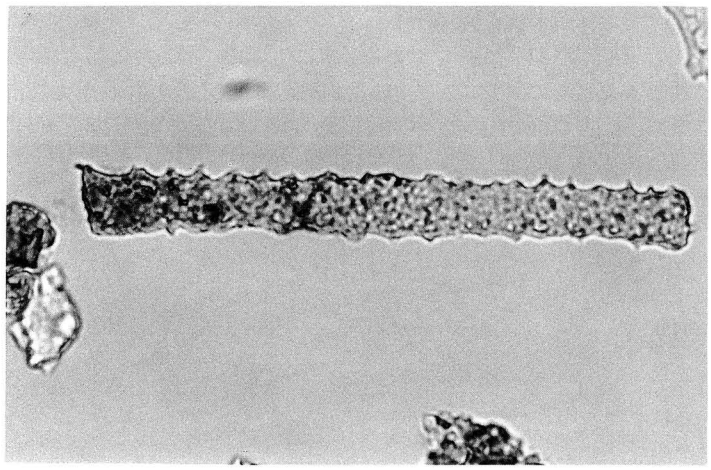
2．シコクビエ（試料3）



3．ネザサ節型（試料2）

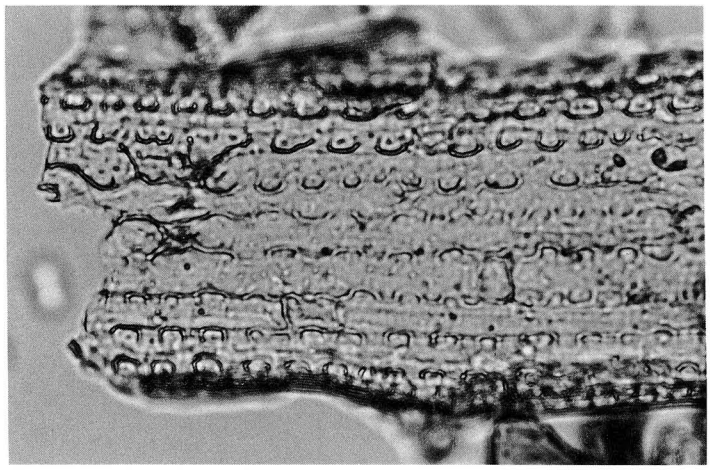
0　50　100μm

図2　植物珪酸体の顕微鏡写真（1）



4．棒状珪酸体（試料Ⅰ）

5．イネの細胞組織片（試料Ⅰ）



6．イネ科の細胞組織片（試料Ⅰ）

0　50　100μm

図３　植物珪酸体の顕微鏡写真（2）

## II．辻町遺跡２次調査における種実同定

### １．試　料

試料は、６世紀前半とされるＳＸ１から検出されたNo.１～No.８の８点の種実である。

### ２．方　法

肉眼及び双眼実体顕微鏡を用いて、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

### ３．結　果

同定結果を次表に示す。

| 試料No. | 分類群（学名／和名） | 部　位 | 粒数 | 長さ×幅 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | (mm) |
| No.1 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf　ハトムギ | 果実 | 1 | 8.3×5.8 |
| No.2 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf？　ハトムギ？ | 果実（炭化） | 1 | 6.7×4.6 |
| No.3 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf？　ハトムギ？ | 果実（炭化） | 1 | 6.8×5.1 |
| No.4 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf　ハトムギ | 果実（炭化） | 1 | 6.8×5.8 |
| No.5 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf？　ハトムギ？ | 果実（炭化） | 1 | 6.5×4.5 |
| No.6 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf？　ハトムギ？ | 果実（炭化） | 1 | 5.3×4.0 |
| No.7 | Coix Iacryma-jobi L. var.ma-yuen Stapf？　ハトムギ？ | 果実（炭化） | 1 | 7.0×3.8 |
| No.8 | Prunus persica Batsch　モモ | 核片 | 1 | |

1）ハトムギ　Coix lacryma-jobi L. var. ma-yuen Stapf　果実　イネ科

No.１は壺形の苞鞘の付いた状態であり、No.４は苞鞘のとれた果実である。苞鞘は黒色で楕円形を呈し、表面に縦方向の微細な隆起が走る。果実は炭化して黒色を呈し広楕円形で、溝状のくぼみがある。

No.2、3、5～7は欠損、発泡しておりやや形態も長く、明らかなハトムギとは同定できなかった。

2）モモ　Prunus persica Batsch　核片　バラ科

破片である。炭化しているため黒色を呈す。表面にはモモ特有の隆起がある。表面がなめらかで多孔にならず、西日本を中心に弥生時代以降普通に検出されるタイプのモモ核である。

参考文献

金原正明・金原正子・粉川昭平（1990）和爾遺跡出土種実と花粉分析．天理市和爾・森本遺跡第５次発掘調査報告，奈良県遺跡調査概報1989年度，奈良県立橿原考古学研究所，p.20-26.

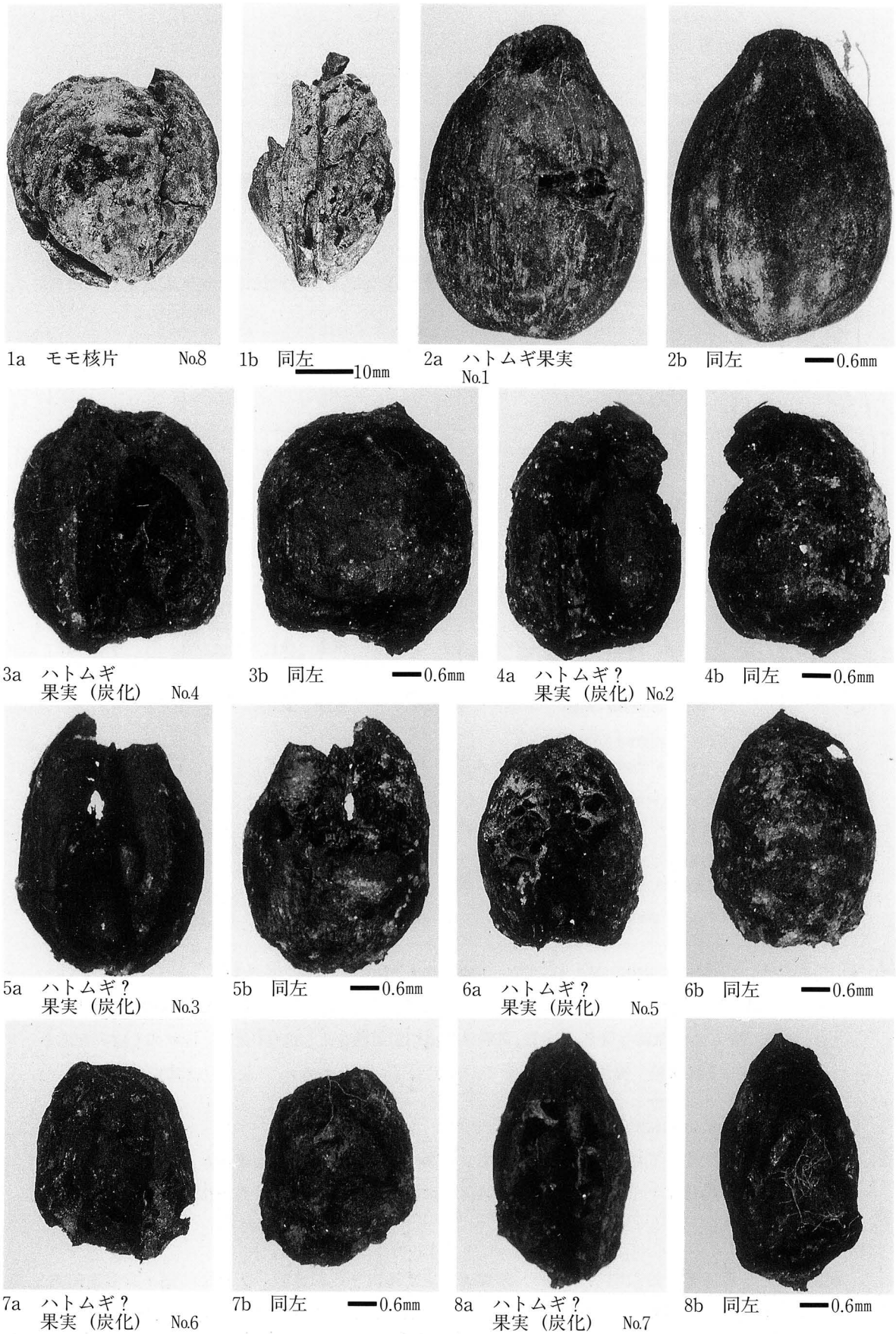



図 4　辻町遺跡 2 次調査地出土種実

# 保存処理事業

保存処理室には、松山市内の遺跡から発掘調査によって出土した遺物、特に木製品、鉄製品などの劣化を防ぐための保存処理が必要な貴重な遺物が運び込まれる。これらの遺物は必要に応じて事前調査（材質、構造、関連資料の比較検討）を行ったのち、木製品はＰＥＧ含浸、鉄製品は減圧樹脂含浸などの手法を用いて保存処理を行っている。これらの保存処理方法は年報Ｖ・VIを参照されたい。

処理室では遺物の取り上げや、土層の剝ぎ取り転写などの作業も発掘現場に出向き行っている。

１．木製品の処理

平成６年５月より含浸処理を行っていた木製品（来住廃寺15次調査地・古照ゴウラ遺跡５次調査地その他出土）が平成７年５月に処理が完了した。処理の結果は良好である。

平成７年９月に処理水槽170型に木製品（来住廃寺18次調査地・久米窪田森元遺跡３次調査地その他出土）を漬け込み処理に入っている。処理完了は平成８年10月の予定である。

２．鉄製品の処理

平成７年度発掘調査（本年報掲載）により出土した鉄製品は、現在、事前調査や前処理（脱水、脱塩作業）を行っており、これらの行程が終り次第、減圧樹脂含浸を行う。

３．遺構・遺物の取り上げ

平成８年３月に釜ノ口遺跡８次調査地検出の１号貯蔵穴にて遺物の取り上げを行った。遺物は、土圧により押し遺された状態の土器である。土器は遺構の埋土とともに硬質ウレタンフォームで包み込み、取り上げ後処理室に搬入した。現在この土器は樹脂で固めながら、徐々に土を取り除いている。

４．土層の剝ぎ取り転写

今年度は作業を行っていない。前年度に久米高畑遺跡23次調査地検出の大溝にて土層の剝ぎ取りを行ったので報告しておく。

作業工程は、剝ぎ取りを行う土層面に合成樹脂を塗膜したあと、合成樹脂を強化するために布（ガーゼ）を貼り付ける。樹脂塗膜が乾燥、硬化したあと土層面より剝ぎ取った。

この転写法は発掘調査終了後も土層の実物が観察できることや、展示の場合に臨場感に溢れた好資料となるものである。

（池田・山本）

写真１　遺物の取り上げ状況（釜ノ口遺跡８次調査地）

# 平成7年度

# 啓蒙普及事業

# 平成７年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究とともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成したり、随時現地説明会などを開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり・講演会、小学生対象の体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

## Ⅰ．展示活動

常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明することを基本コンセプトとしており、「見る」「聞く」といった静的な展示だけではなく、「触れる」「考える」という動的で、かつ立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

### ①発掘速報展

発掘速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」は、松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。

平成７年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、東本遺跡４次調査を含む９遺跡を取り上げその出土遺物64点を展示した。

### ②発掘写真展

発掘写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」は、広く一般市民に埋蔵文化財に対して目を向けてもらうため、発掘速報展にて展示した写真パネルを松山市庁舎本館１階ロビーに場所を移して展示するものである。

平成７年度は、東本遺跡４次調査出土の破鏡など９遺跡11点の写真パネルを展示した。

### ③夏休み体験学習セミナー作品展

夏休み体験学習セミナー作品展「小学生が作った！描いた！土器作品展」は、松山市内の小学校６年生が体験学習セミナーで製作した土器や、写生した土器の絵を展示するものである。

なお平成７年度の作品展は、博物館実習生８名の手によって、参加者64人の製作した土器120点及び絵50点が展示された。

### ④特別展

特別展は、ひとつのテーマのもとに県内外から資料を借用し、一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成７年度は「瀬戸内の初期農耕」と題して北部九州・瀬戸内・畿内における農耕文化の伝播の様子について、縄文時代晩期から弥生時代前期の土器を中心に展示を展開した。

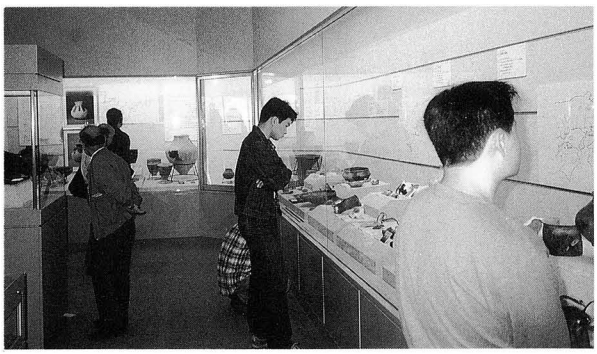


写真１　特別展「瀬戸内の初期農耕」

⑤企画展・移動写真展

企画展は、７年度より古代人の道具にスポットを当て、松山市内における地域色を探ろうというものである。平成７年度は「むかし・昔の器たち」と題して「土器・土製品」にテーマを絞り、土器の誕生から古墳時代の土師器・須恵器に至るまでの変遷を展示により展開した。

なお、この企画展で展示した写真パネルを松山市庁舎本館１階ロビーに場所を移し、移動写真展「むかし・昔の器たち」を開催した。

⑥「古代の創造物」展

愛媛新聞紙上にて、平成７年10月から翌年２月にかけて20回シリーズで松山市内出土の主要遺物について紹介していた遺物を、実際に展示したものである。

| テ　ー　マ | 会　期 | 会場 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 移動写真展<br>「よみがえる古代の松山」 | 平成７年３月23日(木)<br>～４月７日(金) | 市庁舎本館<br>１階ロビー | ―― |
| 発掘速報展<br>「むかし・昔のまつやまを掘る」 | 平成７年４月22日(土)<br>～５月28日(日) | 特別展示室 | 3,939人 |
| 発掘写真展<br>「むかし・昔のまつやまを撮る」 | 平成７年６月７日(水)<br>～６月16日(金) | 市庁舎本館<br>１階ロビー | ―― |
| 夏休み体験学習セミナー作品展<br>「小学生が作った！描いた！土器作品展」 | 平成７年８月12日(土)<br>～８月27日(日) | 特別展示室 | 423人 |
| 特別展<br>「瀬戸内の初期農耕」 | 平成７年10月21日(土)<br>～11月26日(日) | 特別展示室 | 2,293人 |
| 「古代の創造物」展<br>（愛媛新聞社後援） | 平成８年２月６日(火)<br>～２月12日(月) | 特別展示室 | 279人 |
| 企画展<br>「むかし・昔の器たち～伊予古代人の造形美～」 | 平成８年２月17日(土)<br>～３月20日(水) | 特別展示室 | 1,728人 |
| 移動写真展<br>「むかし・昔の器たち～伊予古代人の造形美～」 | 平成８年３月26日(火)<br>～４月５日(金) | 市庁舎本館<br>１階ロビー | ―― |

## ２．教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的にした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み体験学習セミナーなどがある。

①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招へいし、助言を頂き、職員の資質の向上をめざしている。平成７年度は２人の研究者に招へいの機会を得て、ご指導をお願いした。（敬称略）

| テ　ー　マ | 日　時 | 会場 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 西日本における<br>弥生時代後期の交流 | 平成７年６月29日(木) | 講堂 | 広島県立歴史民俗資料館　伊藤　実<br>(財)香川県埋蔵文化財調査センター　大久保徹也<br>当センター　梅木　謙一 |

②講演会

平成７年度は、発掘調査報告会・特別展記念シンポジウム・企画展記念講演会を開催した。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘速報展開催期間中に２回６名の発掘担当者ほかによる報告が行われた。

次に特別展記念シンポジウムは、特別展開催を記念して開催された。特に、近年各地で発見されている初期農耕を証明する遺跡を取り上げ、農耕文化の伝播の様相を多角度からの究明がなされた。

また企画展記念講演会は、企画展の開催に合わせ、「須恵器のはなし」と題して田辺昭三先生にご講演をお願いした。（敬称略）

写真２　特別展記念シンポジウム

| テ　ー　マ | 日　時 | 会場 | 講　　師 | 聴講者数 |
|---|---|---|---|---|
| 発掘調査報告会<br>「むかし・昔のまつやまを語る」 | 平成７年４月22日(土) | 講堂 | 当センター調査係長　田城　武志<br>当センター調査員　河野　史知<br>〃　橋本　雄一 | 76人 |
| | 平成７年５月13日(土) | 講堂 | 当センター調査員　高尾　和長<br>〃　栗田　茂敏<br>〃　加島　次郎 | 100人 |
| 特別展記念シンポジウム<br>「瀬戸内の初期農耕」 | 平成７年10月22日(日) | 講堂 | 愛媛大学法文学部教授　下條　信行<br>愛媛大学教養部助教授　田﨑　博之<br>兵庫県教育委員会　山本　三郎<br>当センター調査員　栗田　茂敏 | 165人 |
| 企画展記念講演会<br>「須恵器のはなし」 | 平成８月２月17日(土) | 講堂 | 京都造形芸術大学教授　田辺　昭三 | 110人 |

③夏休み体験学習セミナー「むかし探検隊」

第５回目を迎えた平成７年度夏休み体験学習セミナーは、「むかし探検隊」と銘打って「土器コース」と「遺跡コース」の２コースを設定した。前者は、従来どおり土器の製作を通して古代人の苦労や知恵を学ぼうというもので、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

また後者が７年度より新しく設定されたコースで、実際の発掘現場での発掘調査を通して、遺跡の重要性を感じてもらうためのものである。

| テ　ー　マ | 日　　時 | 会　　場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 土器コース<br>「土器を作ろう！描こう！」 | 平成７年７月22日(土)・８月５日(土) | 講堂・屋外 | 80人 |
| 遺跡コース<br>「むかしを掘ろう！触れよう！」 | 平成７年８月10日(木) | 発掘現場 | 50人 |

④遺跡めぐり

遺跡めぐりは、地域に所在する埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催している。７年度春季には松山市内北部の古墳を中心に、次いで秋季には愛媛県中予地域の古墳を中心に見学を行った。

| テ　ー　マ | 日　時 | 主な見学先 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 「むかし・昔の　まつやまを歩く」 | 平成７年５月18日(木) | 松山市石手寺古墳群・谷町蓮華寺所在の舟形石棺・大丸山古墳 | 45人 |
| 「むかし・昔の　えひめを歩く」 | 平成７年10月29日(金) | 上浮穴郡美川村上黒岩岩陰遺跡・伊予郡砥部町大下田古墳群 | 38人 |

⑤現地説明会

平成７年度は、合計５ケ所の遺跡において現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通してより一層埋蔵文化財への興味・関心を持ってもらうため、開催するものである。中でも来住廃寺周辺の久米高畑遺跡や来住町遺跡などは、当時の政治的中心地であったとされる場所に近く、多くの強い関心が注がれた。

写真３　釜ノ口遺跡８次調査地現地説明会

| 遺　跡　名 | 日　時 | 内　　容 | 見学者数 |
|---|---|---|---|
| 久米高畑遺跡24次調査 | 平成７年５月27日(土) | 弥生時代の長方形土坑７～10基や古墳時代後期の竪穴式住居址３棟、掘立柱建物址数棟など。 | 100人 |
| 石井幼稚園遺跡2次調査 | 平成７年６月27日(火) | 弥生時代後期の貯蔵穴１基や古墳時代中期の竪穴式住居址１棟、古代～中世の掘立柱建物址３棟など。 | 40人 |
| 東野お茶屋台遺跡5次調査 | 平成７年10月28日(土) | 小石室を伴い、改築痕跡がみられる６世紀後半の横穴式石室や、江戸時代の庭園水路など。 | 300人 |
| 来住町遺跡6・7次調査 | 平成８年２月17日(土) | (６次)中世以降の土地の地割りと考えられる溝と、それに平行する耕作痕。(７次)７世紀初頭から中葉までの変遷過程をたどることができる集落跡。 | 80人 |
| 釜ノ口遺跡8次調査 | 平成８年３月２日(土) | 弥生時代の拠点集落で、花弁形住居・焼失住居を確認し、溝内より破鏡が出土。また後期の貯蔵穴より植物遺体などが出土。 | 50人 |

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象としており、第２・４土曜日及び毎週日曜日・祝祭日の午前10時・午後１時・３時の３回上映している。上映するビデオの内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。

⑦博物館実習

平成６年度より博物館学芸員資格の取得を希望する人のための博物館実習を実施している。７年度は、８月１日～６日の日程で、愛媛大学生７名・東京学芸大学生１名の合計８名が受講し、発掘調査・写真撮影・保存処理などのカリキュラムを受講した。

一方８月５日には、当センター主催の体験学習セミナー（土器焼成など）に参加し、翌６日には12日から開催の、夏休み体験学習セミナー作品展のために焼成された土器や写生した土器の絵を展示した。

## 3．広報・出版活動

広報・出版活動としては、当館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るためにポスターやパンフレットを発刊したり、発掘調査を行った遺跡について、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

なお、特別展「瀬戸内の初期農耕」のポスターは、愛媛広告協会主催の第15回愛媛広告賞印刷広告部門最優秀賞を受賞した。

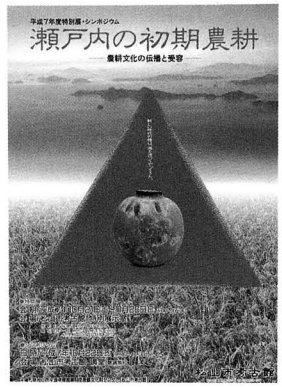



写真４ 特別展「瀬戸内の初期農耕」ポスター

①発掘調査報告書

| 報告書名 | 発行日 | 対象 | 版型・頁 | 部数 |
|---|---|---|---|---|
| 松山市文化財調査報告書49<br>松山大学構内遺跡Ⅱ | 平成７年３月<br>（平成６年度分） | 一般 | Ｂ５ 本文 372頁<br>一覧表 134頁<br>写真図版 125頁 | 1,000 |
| 松山市文化財調査報告書50<br>福音小学校構内遺跡－弥生時代編－ | 平成７年９月 | 一般 | Ｂ５ 本文 159頁<br>写真図版 42頁 | 1,000 |
| 松山市文化財調査報告書51<br>辻町遺跡－２次調査地－ | 平成７年11月 | 一般 | Ｂ５ 本文 100頁<br>写真図版 44頁 | 1,000 |
| 松山市文化財調査報告書52<br>福音寺地区の遺跡 | 平成８年３月 | 一般 | Ａ４ 本文 412頁 | 1,000 |
| 松山市文化財調査報告書54<br>枝松・東本遺跡４次調査－本文編－ | 平成８年３月 | 一般 | Ａ４ 本文 409頁 | 1,000 |
| 松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ<br>（平成６年度） | 平成７年９月 | 一般 | Ａ４ 本文 96頁 | 1,000 |

②展示会関係出版物

| 出版物名 | 発行日 | 対象 | 版型・頁 | 部数 |
|---|---|---|---|---|
| 発掘速報展 案内状 | 平成７年４月 | 一般 | ハガキ | 3,000 |
| 発掘速報展 パンフレット | | 一般 | Ｂ５・９頁 | 3,000 |
| 発掘調査報告会(1) レジメ | | 聴講者 | Ｂ４・６頁 | 150 |
| 発掘調査報告会(2) レジメ | 平成７年５月 | 聴講者 | Ｂ４・15頁 | 150 |
| 遺跡めぐり(1) パンフレット | 平成７年５月 | 参加者 | Ｂ５・34頁 | 50 |
| 夏休み体験学習セミナー パンフレット | 平成７年７月 | 参加者 | Ｂ５・10頁 | 100 |
| 特別展 案内状 | 平成７年10月 | 一般 | ハガキ | 5,000 |
| 特別展 ポスター | | 一般 | Ｂ２ | 500 |
| 特別展 リーフレット | | 一般 | Ｂ５ | 5,000 |
| 特別展 パンフレット | | 一般 | Ｂ５・４頁 | 3,000 |
| 特別展記念シンポジウム レジメ | | 聴講者 | Ｂ４・20頁 | 300 |
| 遺跡めぐり(2) パンフレット | 平成７年11月 | 参加者 | Ｂ４・29頁 | 50 |
| 企画展 案内状 | 平成８年２月 | 一般 | ハガキ | 5,000 |
| 企画展 パンフレット | | 一般 | Ｂ５・８頁 | 3,000 |

## 4．収集・保管活動

平成７年度は、静岡市在住の濱田晃世氏より松山市横谷古墳出土の資料の寄贈を受けた。これらの資料はかつて大正７年４月に濱田齋氏により採集されていたもので、その経緯などについては『考古学雑誌』第30巻第７号に詳しく紹介されている。

| 寄贈資料名 | 点　数 | 出　土　地 |
|---|---|---|
| 五鈴鏡 | 1 | 松山市横谷古墳 |
| 円筒埴輪（須恵質） | 1 | |
| 円筒埴輪 | 1 | |
| 須恵器　長頸壺 | 1 | |
| 須恵器　高坏脚部 | 1 | |
| 鉄器　刀子 | 1 | |

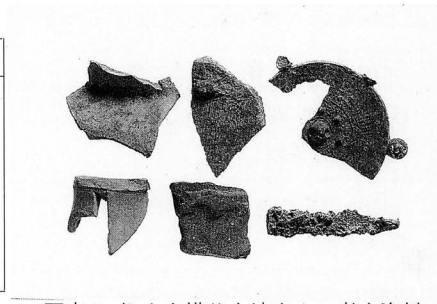


写真５　松山市横谷古墳出土の考古資料

## 5．施設の利用

当センターでは、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催のシンポジウムや研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。特に、愛媛大学法文学部下條信行教授を会長とした瀬戸内海考古学研究会が毎月第４土曜日に定期的に開催している。（敬称略）

| 回 | テ　ー　マ | 日　時 | 会場 | 講　師 |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 「愛媛の古墳研究史」 | 平成７年４月15日(土) | 講堂 | 日本考古学協会会員　名本二六雄 |
| 23 | 「四国の道路遺構」 | 平成７年５月27日(土) | 講堂 | (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター調査員　柴田　昌児 |
| 24 | 「久米官衙遺跡群における使用尺度の検討」 | 平成７年６月24日(土) | 講堂 | 当センター調査員　橋本　雄一 |
| 25 | 「瀬戸内における土器製塩の諸問題」 | 平成７年７月29日(土) | 講堂 | 愛媛大学法文学部助教授　村上　恭通 |
| 27 | 「愛媛における横穴式石室の変遷」 | 平成７年９月23日(土) | 講堂 | 当センター調査員　栗田　茂敏 |
| 28 | 「松山市・葉佐池古墳の調査」 | 平成７年10月28日(土) | 講堂 | 当センター調査員　加島　次郎 |
| 29 | 「愛媛における横穴式石室の系譜」 | 平成７年11月25日(土) | 講堂 | 当センター調査員　栗田　茂敏 |
| 31 | 「瀬戸内的物流の原形」 | 平成８年１月27日(土) | 講堂 | (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター派遣調査員　谷若　倫郎 |
| 32 | 「伊予の高坏」 | 平成８年2月24日(土) | 講堂 | 当センター調査員　梅木　謙一 |
| 33 | 「古代の織物」 | 平成８年３月23日(土) | 講堂 | 東京国立博物館　沢田むつ代 |

## 6．職員研修・会議

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

| 研修・会議名 | 開催地 | 日程 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 埋蔵文化財発掘技術者専門研修<br>「遺跡探査課程」 | 奈良市 | 平成７年５月８日～５月18日 | １名 |
| 全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>第16回総会 | 名古屋市 | 平成７年６月８・９日 | １名 |
| 埋蔵文化財発掘技術者一般研修<br>「一般課程」 | 奈良市 | 平成７年７月４日～８月９日 | １名 |
| 埋蔵文化財写真技術研究会 | 奈良市 | 平成７年７月８日 | １名 |
| 全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>研修会 | 高知市 | 平成７年８月10・11日 | ２名 |
| 埋蔵文化財発掘技術者専門研修<br>「遺跡測量課程」 | 奈良市 | 平成７年９月20日～10月18日 | １名 |
| 全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>コンピューター等研究委員会 | 鳥取県 | 平成７年９月22日 | ２名 |
| 公益法人の実践簿記会計講座<br>（基本コース） | 高松市 | 平成７年９月27日 | １名 |
| 全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>中国・四国・九州ブロック会議 | 松山市 | 平成７年11月９・10日 | ９名 |
| 四国埋蔵文化財法人実務担当者会 | 徳島市 | 平成７年11月21・22日 | ２名 |
| 1995年保存科学研究集会 | 奈良市 | 平成８年２月９日 | １名 |

## 7．資料の貸出

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出品要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出を行っている。

| 貸出資料名(遺跡名) | 点数 | 貸出目的(展示期間) | 貸出先 |
|---|---|---|---|
| 弥生土器・壺<br>(来住廃寺遺跡15次調査) | 3点 | 考古企画展「弥生のかたち」に出品するため(平成7年4月28日～6月11日) | 広島県立<br>歴史民俗資料館 |
| 弥生土器・大型器台<br>(釜ノ口遺跡) | 1点 | 特別企画展「特殊器台とその時代」に出品するため<br>(平成7年10月6日～11月19日) | 広島県立<br>歴史民俗資料館 |
| 須恵器・子持装飾脚付壺<br>(溝辺1号墳) | 1点 | 秋季特別企画展「装飾須恵器展」に出品するため<br>(平成7年10月7日～11月26日) | 愛知県陶磁資料館 |
| 円筒埴輪　(影浦谷1号墳)<br>盾形埴輪　(　〃　)<br>須恵器・坏蓋　(影浦谷2号墳)<br>須恵器・坏身　(　〃　)<br>須恵器・短頸壺(　〃　)<br>須恵器・広口壺(　〃　)<br>刀子　(　〃　)<br>鉄鏃　(　〃　)<br>土製丸玉　(　〃　)<br>管玉　(　〃　)<br>ガラス小玉　(　〃　)<br>須恵器・坏蓋　(影浦谷3号墳)<br>須恵器・坏身　(　〃　)<br>須恵器・短頸壺(　〃　)<br>耳環　(　〃　) | 2点<br>1点<br>2点<br>1点<br>2点<br>1点<br>1点<br>1点<br>131点<br>5点<br>2点<br>1点<br>3点<br>1点<br>4点 | 松山市立姫山小学校開校記念式典に出品するため<br>(平成7年10月30日～11月2日) | 松山市立<br>姫山小学校 |

## 松山市考古館　月別入館者数調

平成7年度(平成7年4月1日～8年3月31日)

| 月 | 開館日数 | 一般 | 児童生徒 | 団体一般 | 団体児童生徒 | 老人 | 小中高生等無料入館者 | 特別展等無料入館者 | 入館者合計 | 一日平均入館者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 26 | 268 | 146 | 45 | 0 | 86 | 708 | 231 | 1,484 | 57 |
| 5 | 25 | 372 | 176 | 50 | 5 | 42 | 1,856 | 354 | 2,855 | 114 |
| 6 | 26 | 178 | 73 | 170 | 89 | 43 | 391 | 57 | 1,001 | 39 |
| 7 | 26 | 130 | 39 | 60 | 0 | 2 | 0 | 314 | 545 | 21 |
| 8 | 27 | 266 | 190 | 73 | 28 | 3 | 95 | 175 | 830 | 31 |
| 9 | 25 | 217 | 44 | 132 | 13 | 53 | 0 | 77 | 536 | 21 |
| 10 | 25 | 386 | 150 | 310 | 96 | 69 | 838 | 186 | 2,035 | 81 |
| 11 | 24 | 437 | 88 | 195 | 178 | 92 | 67 | 225 | 1,282 | 53 |
| 12 | 24 | 119 | 29 | 34 | 0 | 43 | 0 | 35 | 260 | 11 |
| 1 | 21 | 127 | 28 | 0 | 0 | 2 | 0 | 119 | 276 | 13 |
| 2 | 25 | 259 | 45 | 0 | 0 | 12 | 133 | 337 | 786 | 31 |
| 3 | 26 | 273 | 50 | 76 | 0 | 14 | 744 | 340 | 1,497 | 58 |
| 計 | 300 | 3,032 | 1,058 | 1,145 | 409 | 461 | 4,832 | 2,450 | 13,387 | 45 |

# 松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅷ

平成８年９月30日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790　松山市二番町４丁目７－２
TEL (089) ９４８－６６０５

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791　松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) ９２３－６３６３

印刷　明星印刷工業株式会社
〒790　松山市土居田５００
TEL (089) ９７１－７１１１